

222
6
528

2063

一言文
致文
日本地理
全

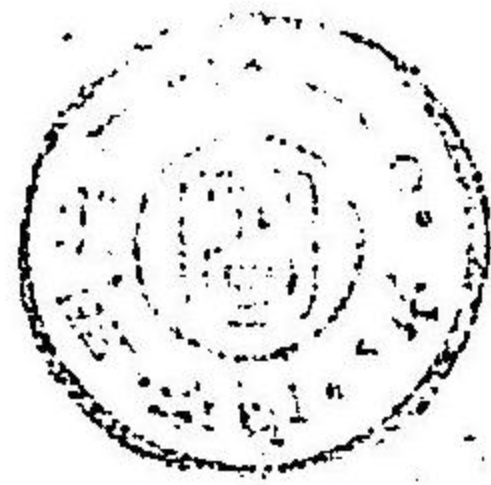
一言文
書全學通普
(編 志 華)

富山房編輯所編纂

函		第
架		第
號		第

特20
808

富山房編輯部編纂



言文
一致

日本地理

全

東京

合資
會社 富山房藏版

一言致文
日本地理

目次

前篇 總說

(1)

第一	位置廣表	一頁
第二	氣候	四
第三	山系	一〇
第四	水系	一五
第五	海岸線、海運、船舶	一九
第六	陸運鐵道	二七
第七	通信事業	三六
第八	全國の區劃	三七
第九	政治	四二
第十	司法	四四

後篇 特說

第十一	兵備	四五
第十二	教育	四九
第十三	宗教	五二
第十四	農產	五三
第十五	林產	五五
第十六	海產	五六
第十七	鑛產	五七
第十八	畜產	五八
第十九	工產	五九
第二十	商業	六一
第一	畿內	六七
第二	東海道	七八
第三	東山道	九六

第四	北陸道	一一一
第五	山陰道	一一九
第六	山陽道	一二七
第七	南海道	一三五
第八	西海道	一四八
第九	北海道	一五六
第十	臺灣	一六五

一言致文 日本地理目次終

言致文 日本地理

前篇 總說

第一 位置廣袤

我が大日本帝國は亞細亞大陸の東端に近く、西南から起つて、東北に亙つてある一體の群島であつて、臺灣、九州、四國、本州、北海道本土の五大島と、五百九十餘箇の小島(周圍一里以下のものを省いて)から成立つてゐる。其の長さは凡そ一千二百五十餘里、面積は二萬七千六百餘方里、人口は四千六百八十八萬餘人である。

我が國は、四面みな海を環らしてゐて、西北は臺灣海峽、支那東海、朝鮮海峽、日本海及び宗谷海峽を隔て、支那、朝鮮、滿洲及び千島に對し、東南一面は、渺々たる太平洋に臨んでゐる。

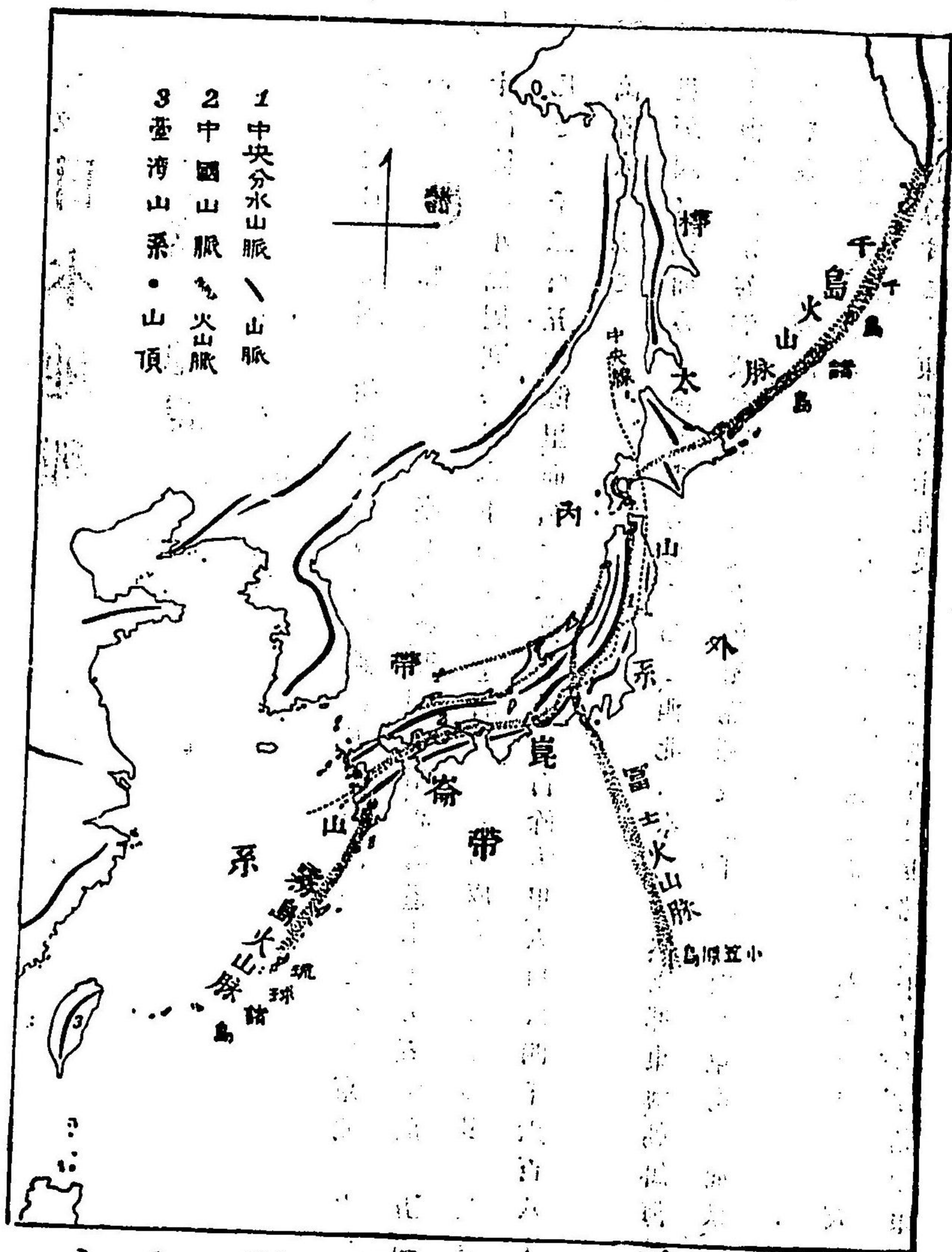
我が國の最西端は、澎湖列島中の花嶼の西端であつて、英國グリニッチ天文臺から起算すると、東經百十九度二十分に當り、最東端は、千島古守島の東端で

經度

四隣

延長、廣
袤、人口

日本地勢略圖



- 1 中央分水脈 / 山脈
- 2 中國山脈 / 火山脈
- 3 臺灣山系 / 山頂

一分三萬三千八百

緯度

經度の差
時差

標準時

中央標準
時

西部標準
時

(3)

東經百五十八度三十二分に當つてゐる。最南端は臺灣南岬の南端で、北緯三十一度四十八分に當り、最北端は千島國アライト島の北端で五十度五十六分に當つてゐる。

太陽は東に出て西に没するものゆゑ、東の方では既に正午であるのに、西の方では、まだ午前であるといふ場合がある。我が國では東西兩端の經度の差が三十九度十二分餘もあるので、其の地方時の差が二時三十六分餘もある。此の通り、地方々々によつて、時刻が違つてゐるは、甚だ不便であるので、一般に守るべき時刻を定める必要がある。此の標準になるべき時刻を、其の國の標準時といふ。我が國では明治二十一年の一月から東經百三十五度の(丹後の福知山近傍)の子午線上の地方時を以て、中央標準時と定めて、一般に用ひることになつてゐたが、明治二十七八年戦役の結果、臺灣が我が版圖となつてから、更に、東經百二十度(臺灣と澎湖島との間)の子午線上の地方時を以て、西部標準時と定めて、臺灣、澎湖列島及び八重山諸島に之を用ひることになつた。

氣候の寒

第二 氣候

黒潮の影

氣候の寒暖は、主として緯度の高低によつて變るものであるが、海拔の高低、海洋よりの遠近等によつても、大なる影響を受けるものである。我が國の地勢を見るに、北方千島は、露領カムチャツカ半島に對して、既に寒帯に近く、南方臺灣は、少しばかり熱帯に這入つてゐる。東南一面は、渺茫たる太平洋に向つてゐる。西北は、一帯の日本海を隔て、亞細亞大陸に向つてゐる。國の内には、各地に高山が聳えてゐて、低地は、海拔僅に數十尺に過ぎないけれども、富士山、新高山などの如きは、一萬尺以上に達してゐる。信濃飛驒などの如きは、平地ですらも、海拔三千餘尺の所がある。故に、地方によつて、氣候の寒暖に大なる差のあることは、免れないが、おしなべていへば、一體に溫和で、寒暑の差が甚しくは無くて、頗る人體に適當してゐる。其の主なる原因は、土地が狹長であつて、遠く海洋を離れた所がなく、隨て海洋の影響を受けて、寒暑の中和を得るためである。緯度の高低は、第一原因であるけれども、殊に本邦の沿岸には、太平洋上の黒潮といふ暖流があつて、東南岸を洗ひ、其の一支

(4)

寒流の影

流は、朝鮮海峡を通つて日本海に入り、北海道に達してゐるので、之がために氣候を和らげることは、少くない。寒流には、千島海流、來滿海流、樺太海流の三つがある。千島海流は、千島諸島を洗ひ、北海道の東南岸から、本州の東海に沿うて、犬吠岬に達するもので、世に之を親潮といふ。樺太海流は、同島の東岸を洗ひ、宗谷海峡を経て、日本海に入るものである。來滿海流は、日本海の西北を流れるものである。これらの寒流の影響を蒙るものは、主に北方の地方である。第二十統計年鑑によつて、左に各地の溫度を抜萃して示さう。之を地圖と對照して見たならば、緯度の影響、海拔の影響、海洋の影響等が、どの位のものであるか、能く了解せられるであらうと思ふ。溫度は攝氏による。△印は零度以下である。

(5)

測候所	最高溫度	最低溫度	平均溫度
澎湖島	三三五	七九	二二四
臺南	三六九	三五	二三二
那霸	三五〇	六七	二二〇
鹿兒島	三六二	△六一	一六八

海洋の影

地名	最高温度	最低温度	差
廣島	三七五	△八四	一四六
大阪	三六五	△七一	一四八
熊本	三八三	△八六	一五八
長崎	三六七	△四九	一五九
名古屋	三六五	△九五	一四六
甲府	三六六	△一七二	一三二
松本	三五二	△二四八	一〇三
東京	三六六	△九二	一三八
金澤	三六八	△九〇	一三三
新潟	三六一	△九四	一二六
福島	三六〇	△一八五	一一七
函館	三三六	△二一七	八四
宗谷	三一・一	△二〇〇	五五
上川	三四九	△三八三	四九

澎湖島の最高温度は三十三度五分であつて、北海道の上川よりも低い之を

(6)

本邦測候所中の最寒地

同緯度の諸外国との比較

(7)

熊本などに較べると四度八分も低いのであるが、これは海洋中にあるためである。信州松本の最低温度は遙に北方にある函館、宗谷等よりも低い。これは、海拔の高いのと、海洋を遠く離れてゐるとのためである。上川の最低温度は零下三十八度三分で、其の地方の宗谷などよりも低く、實に本邦測候所中の最寒地であるが、これも海洋への遠近と海拔の高低とによつて生ずるのである。要するに、海洋より遠く離れてゐる土地は、寒暑ともに、多少酷烈になることを免れないのである。

試に見たまへ。支那、朝鮮、北米合衆國などは、我が國と殆ど緯度を同じくしてゐるに拘はらず、寒暑ともに酷烈であつて、甚だ凌ぎにくいではないか。これは、我が國の氣候が海洋性であるのと異なつて、是等諸國の氣候は大陸性であるがためである。我が國が、他の同緯度の諸國に較べて氣候が遙に順良であるのは、實に國民の幸福と云はねばならぬ。

我が國の西北には、僅に一葦帯水の日本海を隔て、亞細亞の大陸を控へ、東南は太平洋に面するを以て、風向も、主に此の二者に支配される。冬はサイベリヤ地方の寒さが其の極に達して、氣壓も亦、太平洋上よりも高いによつて、

風向

梅雨

二百二十日
二百二十日

雨量

瀬戸内海
と製鹽業

(8)

太平洋に向つて風が吹く。是れが冬期に西北風が多いわけである。夏は之に反して、サイベリヤ地方は暑さが特に烈しく、氣壓も亦太平洋上より低いによつて、太平洋上からサイベリヤに向つて風が吹く。これが夏期に東南風の多いわけである。此の兩風の交代する六月と九月とは風向がまち／＼で天氣が變り易い。特に六月は梅雨期といつて、淫雨霏々として、殆んど三十日間、に亘ることが普通である。又、八九月の頃は、大風の吹くことが多く、二百二十日、二百二十日、立春の日より起算した名稱の厄日といつて昔から農家では、之を恐れる。これは、支那海の邊に低氣壓が生じて、それが漸次東北に進んで来て、我が國を襲ふのである。

雨量(雪の量をも加ふ)も、多く風向の如何に關係するものである。太平洋に向つてゐる所では、東南風の時に雨量が多く、西北風の時に少い。之に反して日本海に向つてゐる所では、西北風の時に雨量が多く、東南風の時に少い。これは、海洋上を吹いて来て濕氣を帯びた風の、直接に當る所に降雨が多いのである。瀬戸内海(山陽道と四國との間のやうに南も北も山脈で遮ぎられてゐる所では、直接に濕氣を帯びた風を受られないによつて、雨量が少い。此の地

臺灣

(9)

方に製鹽業の盛であるのも、主に此のためである。臺灣は冬期に東北風多く、夏期に西南風が多いので、東北部は冬期に雨量が多く、西南部は夏期に雨量が多いのである。左に明治三十三年の雨量の中で、一月七月及び一年間の總量を示さう。例によつて、地圖と對照して見たならば、趣味ある理由が發見せられるであらう。(耗は曲尺の三厘三毛に當る)

● 測候所

	一月	七月	年
臺南	一七七	二四五	一五四五
臺北	九〇七	二〇八七	二二六八九
那霸	一二八七	一九五八	二二一八〇九
高知	五六四	三二五三	二七七九七
和歌山	四八五	一三三七	一四二七六
廣島	四五二	二〇一三	一四六二三
岡山	三八四	一五六二	一〇八五二
大阪	四六七	一三九六	一三三四三
熊本	五八四	二四三七	一六〇七八

嚴原 七三〇 三四二四 二二一〇五
 岐阜 七〇四 二八三〇 二〇四〇四
 名古屋 五一〇 一八五四 一七〇六九
 松本 五三九 一〇二二 一〇九二四
 横濱 七五九 一八八九 一八一六一
 福井 二八九二 二六五九 二四三一九
 金澤 二七四八 二〇〇七 二五四二九
 新潟 一九三一 一五一八 一七六〇一
 福島 四五八 一四九〇 一二三七七
 函館 五四六 一二二六 一一二六四
 上川 七三〇 一〇九一 一〇六九九
 福井、金澤、新潟等の日本海岸と、高知、和歌山、名古屋等の太平洋岸と比較して見ると、冬夏の雨量が互に反對してゐることが分る。

第三 山系

本邦の山岳

大山脈

支那山系
樺太山系

三大火山脈

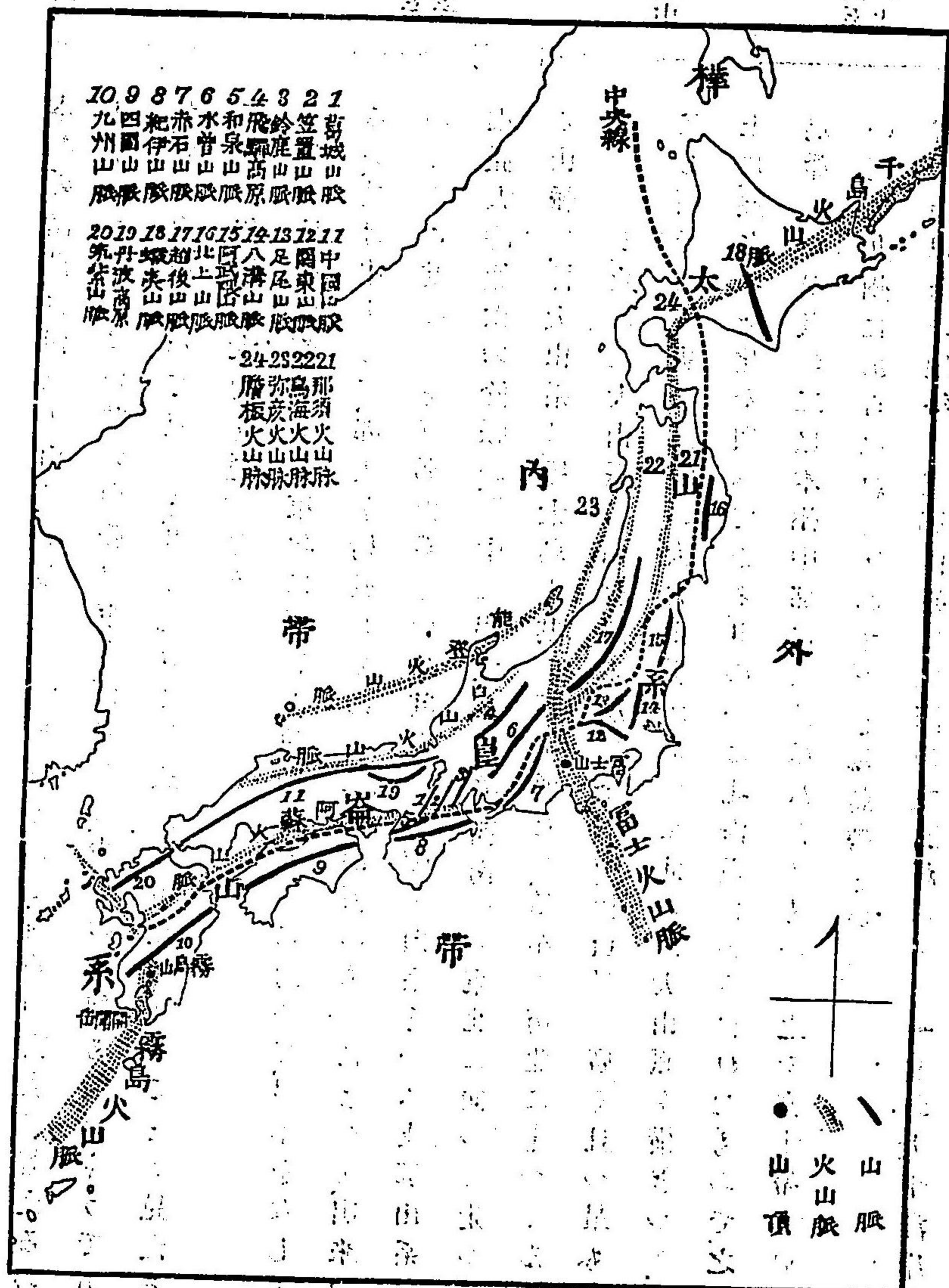
支那山系
二箇の主脈
其の一

本邦の諸島は何れも山岳が多くて、到る所として、峻峰の雲表に聳えるのを見ないことはない。其の山脈は、東奔西走して、少しの規律も無いやうであるが、詳に之を調べて見ると、其の配置に整然たる組織の在ることが見える。試みに其の組織の大要を述べやう。

本邦の地勢は、西南から東北に延びて、亞細亞大陸に向つて、弓形をなしてゐるが、是は主として、邦土を構成してゐる。二大山脈の方向によつて、出来たものである。其の一を支那山系といひ、其の二を樺太山系といふ。支那山系は、亞細亞大陸連山の餘脈が、海中に出没して、略、西南から東北に向つて走つてゐる山脈で、樺太山系は、樺太島と其の脈を通じて、殆んど南北に走つてゐる山脈である。此の二大山脈の相會する所は、全國中、幅員最も廣く且つ最も高峻なる所である。更に三箇の大火山脈があつて、此の二大山脈を横ぎつて、地勢上に、幾多の變化を與へてゐる。其の一は北海道にあらはれたもので、之を千島帯といひ、其の二は本州中部にあらはれたもので、之を富士帯といひ、其の三は九州にあらはれたもので、之を霧島帯といふ。

富士帯以南の地勢、支那山系に二箇の主脈がある。(一)其の太平洋岸を走

山脈



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 九州 四国 紀伊 赤石 水尾 和歌山 飛騨 鈴鹿 笠置 葛城 山脈
 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈
 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11
 九州 丹波 越前 北陸 阿波 八尾 足尾 中東 中國 山脈
 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈
 24 23 22 21
 大内 大内 大内 大内 山脈
 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈 山脈

つてゐるものは九州の中部を殆んど東西に貫いて、市房山肥後祖母岳日向等の高峯を起し、佐賀關に至つて、一旦海に没する。之を九州南部山脈といふ。更に四國に渡つて、伊豫土佐の境を東走して、剣山の高峯を起し、阿波の中央を経て、再び海に没する。之を四國山系といふ。此の山脈は紀淡海峡を渡つて、紀伊にあらはれ、高野山の秀峯となり、大和に入つて、地藏岳、大臺ヶ原山となり、伊勢を経て、三たび海に没する。之を紀伊山山といふ。更に伊勢内海を渡つて、三河の渥美半島にあらはれ、三河遠江の境に至つて、俄に高峻となり、赤石山駿河ヶ岳等の高峯を起し、駒ヶ岳より分れた一派は白根山野上、身延山、斐甲等の高峯を起してゐる。之を赤石山系といふ。(二)支那山系の日本海岸を走つてゐるものは、九州に雷山肥前の高峯を起し、中國に渡つて、徳佐峯となり、それより山陰山陽兩道の間を東に走つて、山城には愛宕山を起し、近江には比叡山を起し、琵琶湖を経て、濃飛の高原に連つてゐる。之を中國山系といふ。(三)支那太兩山系中の、日本海に接して走つて來たもの、相會合する所は、濃飛地方であつて、地勢の高峻なることは、全國第一である。鎗ヶ岳信濃、御岳信濃、乘

其の二

支那の山

支那の山

支那の山

支那の山

霧島帯

臺灣の地勢

北海道の地勢

樺太山系
千島山系

本州東北部の地勢

北上山脈

阿武隈山系

分水山脈

鞍岳信などの如きは、何れも一萬尺前後の高さに達してゐる。之を飛騨山系といふ。飛騨山系の南に連続してゐるものは、木曾山系であつて、赤石山系と相並んで駒ヶ岳、惠那山等の高峯を起して伊勢内海に終つてゐる。

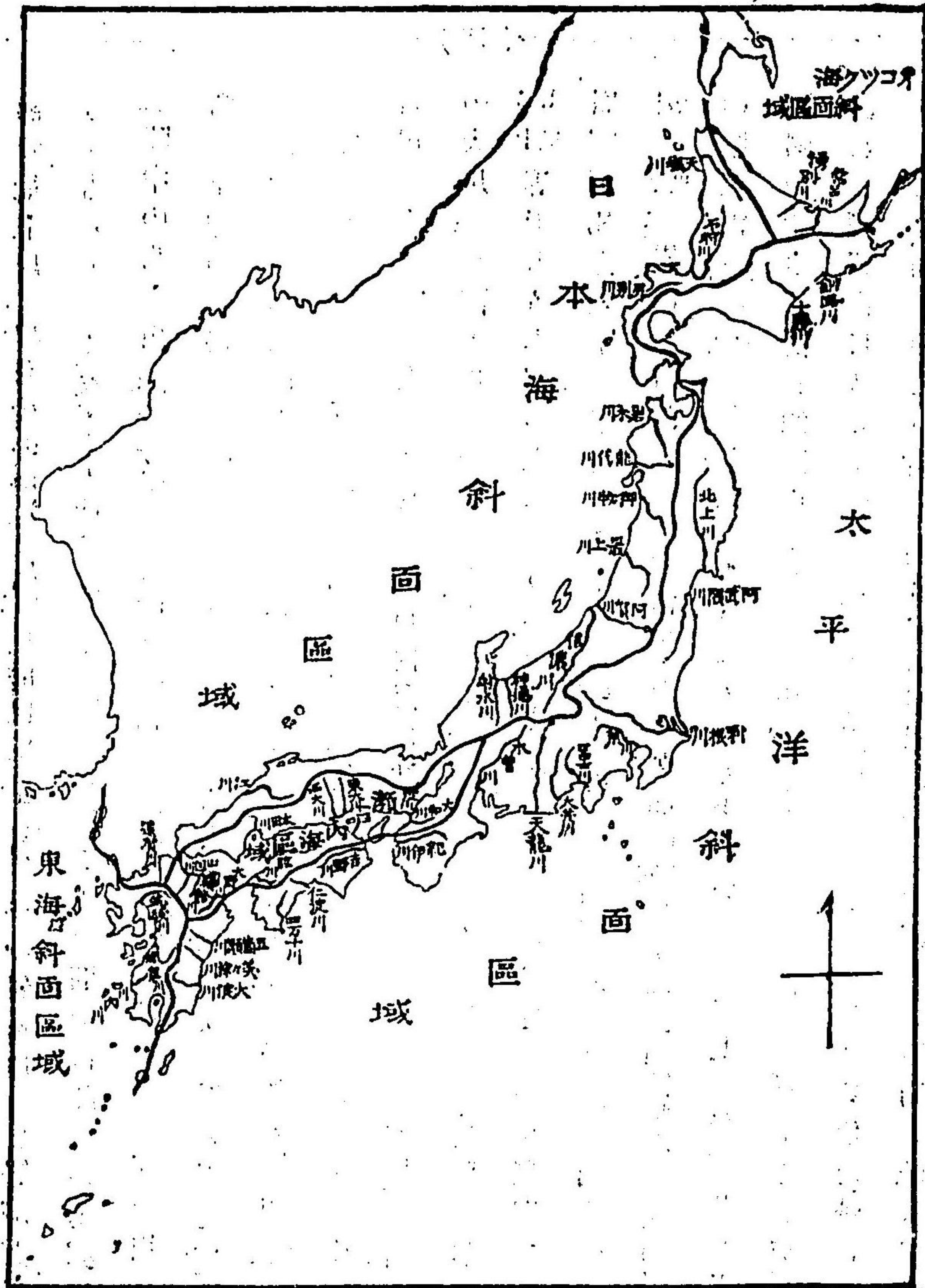
霧島帯の火山脈は、南方遙に臺灣島の大屯山彙に起り、琉球諸島を經、九州を北走して、海間岳、櫻島岳、霧島山、日向等となり、温泉岳前に終つてゐる。臺灣には、南山に走つてゐる一大山脈があつて、地勢を形づくつてゐる。是が即ち玉山山脈である。畢祿山、新高山等は、其の脈中の高峰であつて、其の高さは、富士山と伯仲してゐる。

富士帯以北の地勢、北海道には、縦横の兩山脈があつて、地勢を形づくつてゐる。縦脈は樺太から起つて、宗谷海峡を渡り、本島を殆んど南北に貫いて、襟裳崎に達してゐる。是が即ち樺太山系である。横脈はカムチカ半島から起つて、千島を貫いて本島に渡り、殆んど東西に連亘してゐる。是が即ち千島山系である。此の兩山系の平均の高さは、凡そ二千尺に過ぎないけれども、兩山系の會する所は、地勢頗る高峻で、ヌタブカウシベ山の如きは、海拔七千四百九十八尺に達してゐる。

本州の東北部には、樺太山系の餘派を受けたる二大山脈があつて、地勢を形づくつてゐる。其の一は太平洋岸を走つてゐるもの、其の二は本州の殆んど中部を南走するものである。(一)太平洋岸を走つてゐるものは、馬淵川口から起つて南に走り、陸前を貫き、牡鹿半島となつて、一旦海に没する。是が即ち北上山脈であつて、早池峯は、其の脈中の高峯である。此の脈は、更に阿武隈川の南にあらはれ、南走して八溝山、筑波山等となり、霞ヶ浦に至つて、また海に没する。是が即ち阿武隈山系である。(二)本州北部の中央を南走してゐる山脈は、陸奥の忍山に始まり、一旦陸奥灣底に没して、直に對岸にあらはれ、八甲田山、岩手山、藏王山、駒ヶ岳、森吉山、駒ヶ岳、駒ヶ岳等の高峯を起し、岩代に至つて、いよいよ高峻を極め、大日岳、磐梯山、那須山等の高峯となる。那須山より更に西に折れて、帝釋山、三國峠、に連り、更に一派を出して、男體山、白根山、野野等となり、終に富士帯に連る。此の山脈は、東北地方の分水嶺を爲してゐるによつて、之を分水山脈といふ。

第四 水系

水系



一寸五分五厘 一尺五千五百分

北海道の水系

本州の水系

九州の水系

支那の水系

本邦の地勢は狭長であるによつて、大陸諸國のやうな大河を見ることは出來ない。其の最長流といへども、百餘里に過ぎない。川の方向は土地の高低によつて定まるものゆゑ、山脈の所在を知らば、隨て川の方向も分るものである。北海道の諸水は、樺太山系と千島山系とを以て分水嶺として四方に流れてゐる。西に流れて日本海に入るものは、後志の尻別川(六十里)、石狩の石狩川(百七十里)、天鹽の天鹽川(八十里)が大きなものである。北に走つてオホツカ海に入るものは、北見の常呂川(五十里)、南に流れて太平洋に入るものは、十勝の十勝川(五十里)、高の沙流川(四十里)等が大きなものである。湖水では北見の猿間湖(十里)、北見の網走湖(一里)、十釧路の釧路湖(三里)、十膽振の支笏湖(九里)、洞爺湖(九里)等が大きなものである。其の他、小さいものは甚だ多い。本州の諸水は、三派の樺太山系、三派の支那山系、富士帯の火山脈及び其れ等諸山系の支脈とを以て分水嶺とし、それ／＼の方向を取つて海に流れる。北に流れて日本海に注ぐものをあげると、中國では、岩見の江川(五十里)、出雲の簸川(五十里)、伯耆の日野川(四十里)、丹後の由良川(三十里)、北陸道では、越前の九頭龍川(三十里)、越中の射水川(八十里)、神通川(五十里)、越後の信濃川(百九十里)、阿賀川(七十里)、奥羽では、羽

四國の水

前の最上川^{六十}羽後の御物川^{五十}能代川^{五十}陸奥の岩木川^{二十}等が其の大ききなものである。又太平洋に注ぐものを挙げると奥羽では陸奥の馬淵川^{十二}五陸中の北上川^十凡そ八陸前の阿武隈川^{七十}東海道では常陸の那珂川^{四十}常陸下總の利根川^{七十}武藏の荒川^{四十}多摩川^{八十}相模の馬入川^{三十}駿河の富士川^{五十}三河の矢作川^{七十}美濃尾張の木曾川^{四十}伊勢の宮川^{三十}紀伊では熊野川^{七十}日高川^{三十}紀伊川^{四十}等が其の大ききなものである。中國の諸川のうちでは南に流れて瀬戸内海に注ぐものは播磨の加古川^{八十}備前の大川^{三十}西大川^{七十}備前の高梁川^{八十}安藝の太田川^{三十}周防の岩國川^{七十}等である。本州の湖水のうちで最も大ききものは近江の琵琶湖で、其の周圍が凡そ六十三里ほどある。出雲の中海^{六十}宍道湖^一羽後の八郎潟^十岩代の猪苗代^三常陸の霞ヶ浦^{十六}下總の印旛沼^二遠江の濱名湖^{四十}凡そ等が其の大ききなもので、小さいものは其の数が甚だ多い。四國の諸水は概ね四國山系を以て分水嶺として、各海に流れてゐるが、北に流れて瀬戸内に入るものには、大きな川はない。東に流れて紀伊海峡に入るものには、阿波の吉野川^{六十}といふ四國第一の大河がある。南に流れて太平

九州の水

臺灣の水

海岸線の影響

洋に注ぐものは、土佐の渡川^{五十}仁淀川^{六十}などが、其の大ききなものである。九州の諸川は、概ね霧島帯の火山脈と支那山系とを分水嶺として、各其の方向を取つてゐる。東に流れるものは、日向の美々津川^{八十}一瀬川^{三十}大淀川^{五十}などが、其の大ききなもので、西に流れるものは、薩摩の川内川^{六十}肥後の球磨川^{五十}緑川^{二十}一里^等が、其の大ききなものである。臺灣の諸水は、概ね玉山山脈を以て分水嶺としてゐる。此の山脈は、東海岸に偏して南北に貫いてゐるゆゑに、東岸の諸水は、何れも小さい。西海岸には、淡水溪^北後壘溪^上下淡水溪^南等の諸川があるが、是等といへども、さして大きなものではない。

第五 海岸線、海運、船舶

國の文野は交通の便否に因ることが多く、交通の便否は海岸線の多少に因ることが多いもので、鐵道の開けなかつた時代に在つては、特に其の傾向が多かつたのである。幸に本邦の海岸は、到る處に凸凹があつて、良港の數も乏しからず、面積に比して海岸線が多く、隨て交通の便利が善かつたゆゑ、夙に

臺灣と九州

日本海岸と太平洋岸

北海道の沿岸

(20)

開明の域に進んで、今日では、亞細亞洲中第一の文明國となつたのである。我が國のうちでも、九州と臺灣とは、其の面積が同じ位であるにも拘はらず、臺灣の海岸線は九州の殆んど三分の一である。其の文野の別も、一つは、之に因つたのであらうと思はれる。又日本海岸と太平洋岸との海岸線を較べると、太平洋岸の方が甚だ長い。東京、名古屋、大阪などのやうな大都會は、何れも太平洋岸にあつて、日本海岸にはない。其の最大の都會といはれる富山市といへども、其の人口は名古屋市の三分の一にも足らない。東京市に較べると、十分の一にも足らないのである。これは、徳川幕府が、久しく今の東京市に在つた故にも因らうけれども、一つは、儘に海岸線の影響、即ち交通の便否に因つたのであらう。今後、南洋との交通が、ますます盛になつた日には、太平洋岸は、ますます多望のものといはねばなるまい。今左に岬角と港灣との大略を述べやう。

北海道本土は、おしなべて海岸の出入が少い。岬角の大きなものは、東南海岸では、根室の納沙布岬、日高の襟裳岬、渡島の恵山岬、白神岬等で、西及び北の海岸では、後志の白糸岬、神威岬、北見の宗谷岬、知床岬等である。港灣の大きなも

交通上の障害
本州の沿岸

房總附近の漁獵

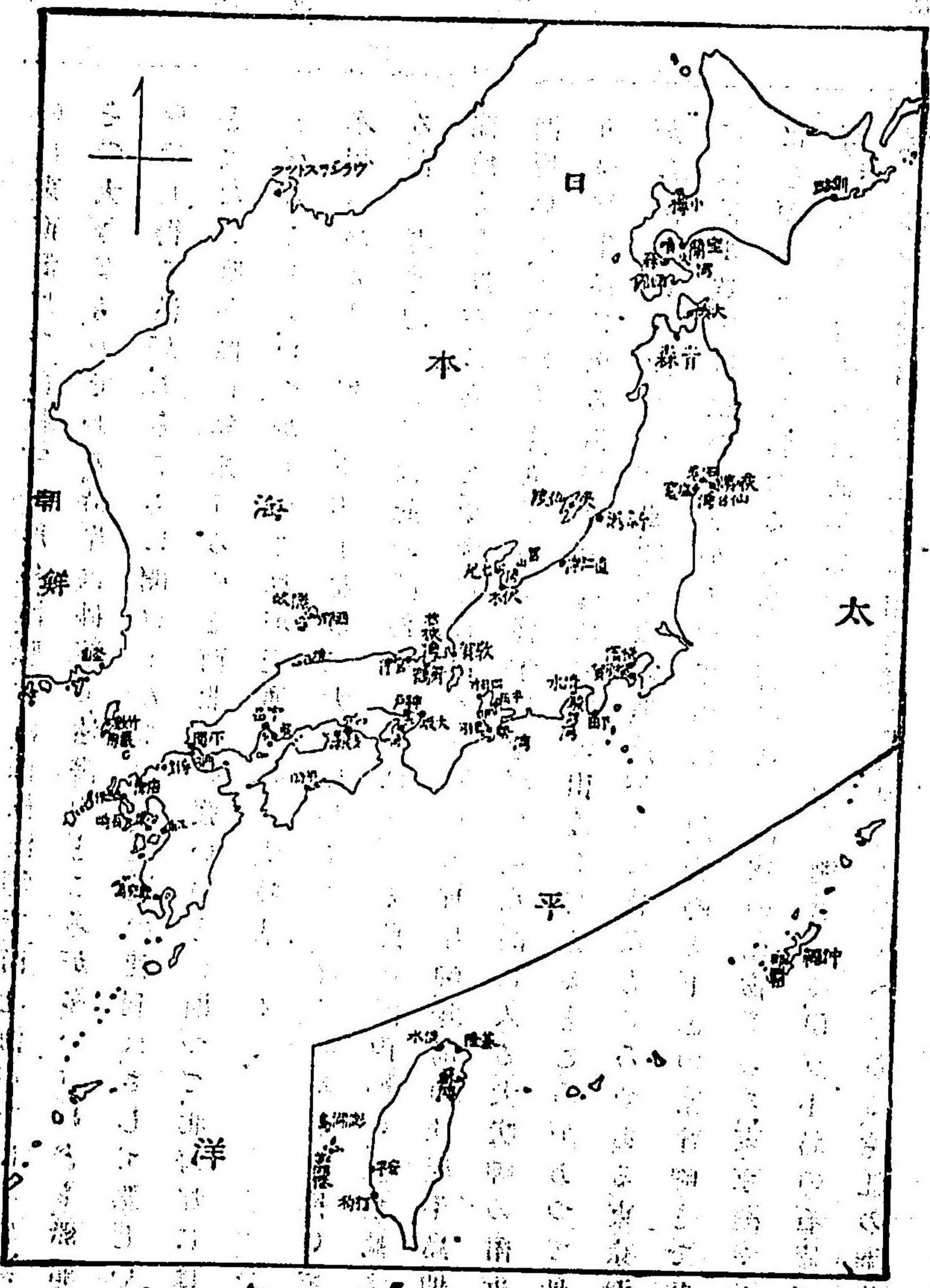
(21)

のは、東南海岸では、根室灣、厚岸灣、噴火灣、函館灣等で、西北海岸では、石狩灣がその大きなものである。沿岸は砂濱で遠淺のところが多いけれども、船舶の碇泊し得る港が、あちこちに開けてゐるので、交通の便利は、さして悪いことはない。唯冬時は結氷するのと、西北風の強いのに因つて、北海岸には船を航行することがむづかしい。これが交通上の一大障害である。

本州へ渡ると、北端に、津輕、下北の二大半島があつて、深く陸奥灣を抱いてゐる。青森野邊池の二港は、此の灣内に開かれてゐる。此の灣内から、龍飛崎と大間崎とを左右に眺めて、東海岸に出ると、陸奥の尻屋岬、陸前の牡鹿半島、仙臺灣、鹿島灘、犬吠岬、九十九里濱、房總半島を経て東京灣に入る。犬吠岬の附近より房總半島に至る沿岸は、海底に岩礁の出沒してゐるところがあつて、舟行が危険である。此の邊は、鯉、鯔、鮪、鯛の漁獵が殊に盛なところである。東京灣内には、横須賀軍港、横濱港等があつて、相模の觀音岬と下總の富津岬とで、其の口を扼してゐる。有名なる淺草海苔は、此の灣内の産物である。東京灣をでて西航すると、相模の三浦半島をまはつて、相模灘に入る。伊豆半島の石廊岬は、遠く海中に突出して、左右に相模灘と駿河灣とを控へてゐる。遠江の御前崎

遠江灘

港 湾



大阪湾

石須磨、明

から志摩の大王崎まで、凡そ七十五里の海上を遠江灘といふ、三河の渥美半島、尾張の知多半島と志摩半島とで、渥美灣、知多灣、伊勢海とを分けてゐる。此の邊の海岸は遠浅で、且つ浪が高いゆゑに、航海者は大に之を恐れる。志摩半島から西南の方潮崎に至る海岸を熊野浦といふ。海岸が概して岩石であつて、絶壁が直に水に通つてゐる。潮岬から西は、所謂紀伊海であつて、紀伊西岸の田邊灣を除いては、大きな凸凹は無い。此處から北へまはると、淡路島を左に眺め、紀淡海峡を経て、大阪灣に入る。大阪港、神戸港などは、皆此の灣内にある。繁華の港である。それより播磨淡路間の明石海峡を通りぬけて、西の方長州の下、關まで、凡そ百餘里の海上を瀬戸内海といふ。海岸は概ね砂濱で、屈曲が著しく、無數の島嶼に松が茂つてゐて、景色が甚だ美しい。須磨、明石、播磨などは、景色を以て名高いところである。備前の小島半島は、小島灣を抱いて、遠く海中に斗出してゐる。之より東を播磨灘といひ、西を水島灘といふ。水島灘の西を備後灘、燧灘といふ。それから音戸瀬戸を通ると、廣島灣に入るのである。此の灣内には、牡蠣の名産があつて、其の味が甚だ甘いといふことである。なほ西航すると、周防灘、下、關海峡を通りぬけて、終に外洋に出る。更に船を轉じ

て、日本海岸を東北に行くと、遂に陸奥の龍飛岬に至つて、これで、本州の沿岸を一週することになる。日本海の沿岸は、概ね平直な砂濱であつて、海岸の出入も甚だ少い。其の大きなものを挙げると、出雲には島根半島が突出してゐて、穴道湖、中海を抱きこんでゐる。丹後から越前に至る海岸は、出入が特に多く、與謝海、小濱灣、敦賀港などが、皆此の間にあつて、鯛鮓などが、此の邊の名産である。それから能登半島をまはると、七尾灣、富山灣などが、深く陸地に彎入して、鯨鮓などが、此の邊で取れる。此處から越後の沿岸にでて、直江津、新潟などを右に眺めて更に北進すると、羽後の男鹿半島が、西に突出して、八郎潟を抱きこんでゐるのを見る。これ等が、日本海岸の著しい凸凹である。四國の海岸は、瀬戸内海に向いてゐる方に、特に凸凹が多い。阿波と淡路の間は、世に名高い鳴門海峡である。此の處は、潮汐の干満ごとに激流を起し、大渦を生じ、舟航甚だ危険である。此の邊に産する魚類は、美味を以て名高い。鳴門より西へまはると、讃岐半島は、西北に突出して、伊豫北部の突出と相對して、豫讃海峡を抱いてゐる。四國の西端は、伊豫の佐田岬で、豊後の地藏崎と相對して、速吸海峡を挟んでゐる。これより南は、所謂豊豫海峡であつて、海岸の出

入多いが、八幡濱、宇和島などの外に、著名のところは無い。南岸へまはると、西に蹉跎岬、土佐東に室戸岬、土佐があつて、土佐灣が深く陸地に彎入してゐる。此の邊は、鯉、珊瑚などの産物を以て名高いところである。九州の沿岸は、概して出入が多いが、西と北とは、特に著しい。豊後の國東半島と豊前の門司とは、相對して、周防灘に向つてゐる。門司をまはつて西へ出ると、玄界灘に入る。博多灣、松浦灣などは、此の沿岸の彎入である。更に西南にまはり、伊萬里灣を左に眺め、平戸海峡を通つて、東南に進むと、肥前の彼杵半島に衝きあたる。彼杵半島は、北に彎曲して、大村灣を抱いてゐる。長崎港は、彼杵半島の西岸にある一大良港で、外國貿易の盛なところである。島原半島は、彼杵半島の東に突出して、東は肥後の宇土半島と相對して、筑紫海の入口を扼し、西は野母崎と相對して、千々岩灘を抱いてゐる。長崎から船を東南に進めて、左に天草諸島を眺め、薩摩の野間岬をまはり、岸に沿うて東進すると、鹿兒島灣に入る。灣内には名高い櫻島の火山があつて、常に火煙を吐いてゐる。これから大隅の佐多岬をまはつて、有明浦を左に眺め、日向、豊後の沿岸を北進すると、速吸海峡を通つて、復瀬戸内海に出られる。

臺灣は概ね海岸線の屈曲が少く、東北に富貴角、北斗角、三貂角などがあつて、南端に南岬があるに過ぎない。東海一帯は、岩壁が水際から直立して數千尺の高さに達してゐるところが多いので、船を繋げる港は甚だ少い。西岸は遠淺であつて、大船を繋ぐに便利がわるい。基隆、淡水、打狗などの諸港があるが、何れも良港とはいひにくい。

海岸線の長短を相待つて、運輸交通の便利を完うするものは船舶である。故に船舶の多少によつて、其の便否の如何を見ることができるといふ。今明治三十三年十二月三十一日の現在によると、噸數を以て數へられる船舶は左の如くである。

汽船	一千三百二十一隻	五十四萬三千二百五十八噸
帆船	三千八百五十隻	三十二萬五千七百七十二噸
計	五千百七十一隻	八十六萬三千八百三十噸

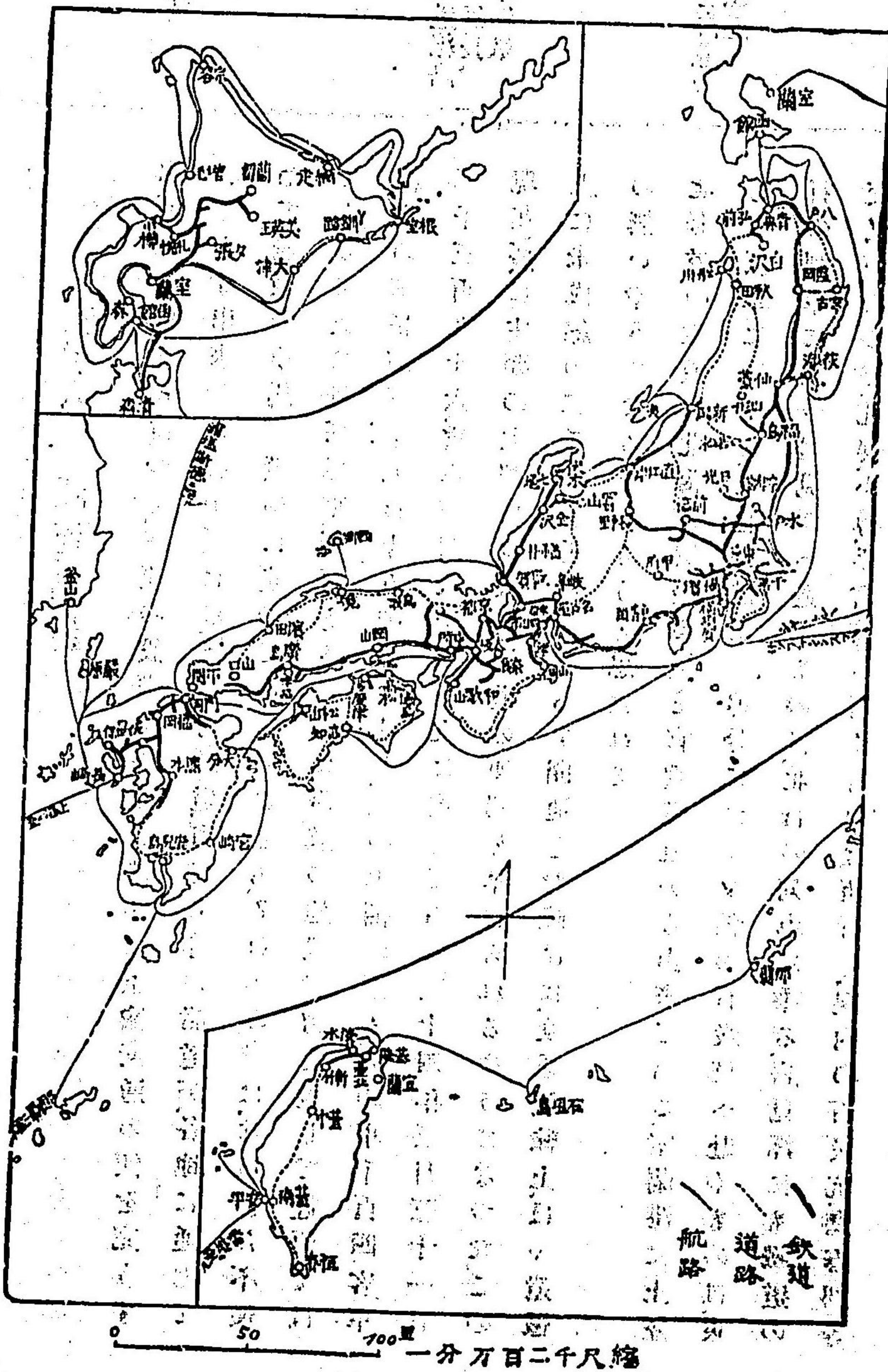
又石數を以て數へられる帆船で、二百石積以上の船數は一萬八千七百九十六隻、二百七十八萬五千百十四石である。此の外、五噸未満、五十石未満の小船に至つては、其の數が極めて多い。

第六 陸運、鐵道

水運の設備と相待つて、陸運の設備が整はなければ、運輸交通の便を完うすることは出来ない。我が國には、國道、府縣道、町村道等の諸道が各地に通じてゐて、無數の車馬が縦横に走つてゐるけれども、これのみでは、なほ甚だ不便であるゆゑに、維新以來、朝野ともに、大に鐵道の建設に力を盡して、近頃では線路の延長が三千九百十五哩餘に達し、其の車輛の數も、機關車千四百、客車三千三百九十六、貨車一萬八千四百九に達してゐる。三十四年三月三十一日現在、故に主要の都會は、大概鐵道の便利を享けられるやうになつた。この上に未成線の二千二百餘哩が残らず開通した曉には、交通運輸上、ほゞ遺憾の無いやうになるであらうと思はれる。

北海道の鐵道は、北海道炭礦鐵道と官設鐵道から出來てゐる。室蘭港に上陸して汽車に乗ると、東北に進んで追分に至る。夕張の石炭坑へ赴くものは、東行の列車に乗り、岩見澤へ赴くものは、北行の列車に乗る。岩見澤にも鐵道の交叉があつて、札幌、小樽、手宮等へ行くものは、西行し、幌内の石炭坑、幾春別等

交通



へ行くものは東行するのである。此處から更に北進すると、砂川、旭川等を経て、終に士別に達する。砂川よりの支線に乗れば、歌志内に行かれ、旭川よりの支線に乗れば、落合に行かれる。此の外に釧路、臼糠間の官設鐵道がある。これが北海道鐵道の大路である。

本州の鐵道は、頗る複雑であつて、一々擧げにくいゆゑ、其の大路だけを述べやう。

東京青森間

奥州線
中仙道線

(29)

東京青森間、東京の上野から、陸奥の青森までは、鐵道線路の延長が四百五十六哩餘あつて、凡そ二十三時間を費して達することが出来るのである。上野から汽車に乗つて、西北に向つて進むと、程なく武藏の大宮に至る。大宮は奥州線と中仙道線との分岐點で、又、日本鐵道工場の在るところである。此處から尙西北に行くのは、中仙道線であつて、熊谷、高崎、碓氷峠、長野等を経て、終に越後の直江津に行かれ、直江津からは、新潟へ行かれるのである。青森に行くものは、大宮から右折して、利根川を渡ると程なく下野の小山に至る。小山も鐵道の交叉してゐる所で、右折すれば水戸に行かれ、左折すれば、前橋を経て高崎に行かれる。小山から尙北行すると、宇都宮に至る。宇都宮は、栃木縣廳

岩越鐵道

(30)

の所在地で、繁華のところである。日光行きの鐵道は此處から左へ分れる。宇都宮から尙北行すると、岩代の郡山に至る。郡山は岩越鐵道の起點であつて、若松、三春等へ赴くものは、此處で乗りかへて、左折するのである。郡山の次には福島がある。此處は福島縣廳の所在地で、鐵道の分岐點である。米澤、山形等へ赴くものは、左行せる汽車へ乗りかへねばならぬ。福島から東北に向つて進むと、岩沼を経て仙臺に至る。仙臺は第二師團、宮城縣廳等の所在地で、東北第一の都會である。なほ北行すると、巖手縣廳の所在地である盛岡を経て終に青森に行かれる。青森は青森縣廳の所在地で、日本鐵道の最終點である。此處から北海道の室蘭、函館等へは、日本郵船會社の定期航海船があつて、毎日二回づつ往復してゐる。青森から西南に迂回してゐる鐵道に乗ると、第八師團の所在地なる弘前を経て、八甲田山、岩木山を左右に眺めて、終に能代港に行かれる。

東京仙臺間

東京の上野から陸前の仙臺までの鐵道線路は二百二十六哩餘あつて、凡そ十一時二十分を費せば行かれる。上野の北方の田端の停車場から右折して東北に進むと我孫子に至る。下總の成田に赴かんとする者は、

東京大原間及銚子間

此處から右折せる汽車に乗りかへねばならぬ。我孫子から北進すると、水戸、勿來等を経て、東海岸に沿うて、終に仙臺に至る。水戸は茨城縣廳の所在地で、勿來は源義家の名歌を以て名高い所である。東京大原間及銚子間、東京本所の停車場から東京灣に沿うて東行すると、下總の千葉に至る。千葉は千葉縣廳の所在地である。此處から左折してゐる汽車へ乗ると、佐倉、成田等を経て、佐原へ行かれ、佐倉から右折すると、九十九里濱に沿うて、終に銚子港に行かれる。千葉から東南に向つて進むと、九十九里濱に沿うて、上總の大原に行かれる。

甲武線

甲武鐵道は、東京の飯田町を起點として西に走り、國分寺、立川等を経て、八王子に通ずる鐵道である。八王子は織物を以て名高い。國分寺から右折して川越に至るものは、川越鐵道で、立川から右折して青梅を経て日向和田に至るものは、青梅鐵道である。

東京神戸間

東京の神橋から攝津の神戸までの鐵道線路は、三百七十七哩餘あつて、急行列車で行くと凡そ十六時間を要する。神橋の停車場から東京灣に沿うて南進すると、横濱を経て、相模の大船に行かれる。横濱は本邦第一

(31)

横須賀線

豆相鐵道

豐川鐵道

關西鐵道

關西鐵道

奈良鐵道

京都鐵道

の貿易港であつて、船舶が常に幅狭してゐる。大船は横須賀線の分岐點であつて、江島、鎌倉等へ行くものは、此處で乗りかへるのである。大船から更に西南に進むと、大磯、三島、沼津、駿河等を経て、駿河の静岡に至る。三島は豆相鐵道の分岐點で、静岡は静岡縣廳の所在地である。更に進んで、大井川、天龍川の鐵橋を渡り、遠江の濱松を経て、三河の豊橋に至る。豊川鐵道は此處から起つて、豊川を経て大海河に達する線路である。豊橋より、岡崎、大府を経て名古屋に至る。名古屋は第三師團、愛知縣廳等の所在地で、金の鯨と名古屋扇とを以て名高い所である。此處は鐵道の交叉點であつて、右折すれば美濃の多治見に行かれ、左折すれば、關西鐵道の列車に乗つて、西行することが出来る。伊勢參宮者は、此處から乗りかへるがよい。名古屋から北進すると、木曾川を渡つて、美濃の岐阜に至る。此處は岐阜縣廳の所在地であつて、長良川の鶉飼、岐阜提灯の産物を以て名高い。岐阜から西走すると、關ヶ原の古戰場を経て、琵琶湖畔の米原に達する。福井、金澤、富山、七尾等へ行くものは、此處で乗りかへて右折するのである。米原より彦根、草津等を経て、京都七條の停車場に着く。京都は名所古跡の多い所である。京都鐵道と奈良鐵道とは、七條から分岐してゐる。

南海鐵道

阪鶴鐵道

山陽線

播但鐵道

る。七條より東折して、奈良を経て櫻井に行かれるのが、奈良鐵道で、七條より西折して、園部に達するのが、京都鐵道である。京都より南進すると、山崎の古戰場を経て、大阪に至る。大阪は第四師團、大阪府廳の所在地で、商工業の盛なることは、本邦第一である。市内に十八ヶ所の停車場の設けられたのを見て、其の繁華を想像することが出来る。大阪の難波を起點として、和泉の堺を経て、紀伊の和歌山に通じてゐるのが、南海鐵道である。大阪から右折すると、神崎に至る。神崎は阪鶴鐵道の起點である。丹波の福知山に行くものは、此處で乗りかへるがよい。神崎の次には、西宮、住吉等を経て、終に神戸に至る。神戸は横濱に次ぐ貿易場であつて、山陽鐵道は此處から起つてゐる。山陽線、山陽鐵道は、神戸を起點として、瀬戸内海に沿うて西走し、長門の馬關に達してゐる。この延長が三百二十九哩餘あつて、急行列車に乗るも十七時間餘を要する。先づ神戸を發して西行すれば、須磨、舞子、明石等の名勝の地を経て、姫路に至る。姫路は播州第一の都會であつて、姫路草の産物を以て名高い。但馬の生野、銀山へ行くものは、此處から播但鐵道に乗りかへるのである。次に備前の岡山に至る。岡山の後樂園は、規模が廣大であつて、水戸の偕樂

國金澤の第六公園

園

馬關

門司八代
長崎間

園金澤の第六公園とともに本邦の三公園と稱せられる。美作の津山へ行くものは、こゝで乗りかへて右折し、讃岐の金刀羅に參詣せんとするものは、次の停車場なる玉島で下車するがよい。更に前進すると、福山、尾道等を経て、安藝の廣島に至る。廣島は山陽道第一の大都會であつて、日清戦役の當時、大本營を置かれたのを以て殊に名高い。宇品港、呉鎮守府、伊豫の道後温泉等へ行かうとするものは、こゝで下車するが善い。嚴島の形勝を賞せんとするものは、次の宮島驛で下車するが善い。更に進むと、程なく周防の岩國に至る。此處は錦帯橋を以て、其の名を知られた所である。岩國より、徳山、三田尻等を経て終に長州の馬關に至る。馬關は山陽鐵道の最終點であつて、日清戦役の當時、媾和談判の開かれたのを以て名高い。此處から九州へ行かうとするものは、海峽連絡汽船に乗つて、豊前の門司に渡れば九州鐵道の列車に乗りこむことが出来る。馬關と門司との間は、海上僅に二十町に過ぎないで、兩岸に精巧な砲臺が築かれてあれば要害極めて堅固である。

門司八代、長崎間 門司から汽車に乗つて西南に走ると、豊前の小倉に至る。行橋、中津、宇佐等へ行くものは、此處で乗りかへて左折するが善い。小倉から

八代線
長崎線

四國の鐵道

臺灣の鐵道

西方に進むと、折尾に至る。此處は鐵道交叉點のある所で、右折すると若松港に行かれ、左折すると、直方に行かれるのである。折尾より更に前進すると、香椎、箱崎、博多等を経て鳥栖に至る。鳥栖は、長崎線八代線の分岐點である。左折するものは八代線であつて、久留米、熊本、宇土等を経て、八代に行かれる。右折するものは長崎線であつて、程なく佐賀に着く。佐賀は佐賀縣廳の所在地である。次に牛津、武雄、有田等を経て早岐に達する。牛津、武雄は其の附近の温泉を以て名高く、有田は陶器を以て其の名を知られてゐる。早岐も鐵道の分岐點であつて、右折すると、佐世保の軍港に行かれ、左折すると、大村を経て長崎港に行かれるのである。

四國には、讃岐の高松から九龜、多度津等を経て琴平に至る。讃岐鐵道、阿波の徳島から船戸に至る徳島鐵道、伊豫の西部に通ずる伊豫鐵道などがある。臺灣には、基隆を以て起點とし、臺北を経て新竹に至る鐵道と、打狗を以て起點とし、臺南を経て新營庄に至る鐵道とがある。此の兩鐵道は、南北の連絡を通ずるために、兩端から其の工事を進行しつゝあるのである。此の連絡が通じたならば、交通運輸の便利は言ふまでもなく、臺灣の統治上に至大の便益

を興へるであらうと思はれる。
以上記した外に、小距離の鐵道は極めて多い。東京附近、大阪、名古屋附近、九州北部には、殊に其の數が多いけれども、今一々之を記さない。委しくは地圖について見るがよい。

第七 通信事業

郵便電信等の通信事業は、海陸運輸の事業と相待つて發達するものである。國の文化が進むにつれて、郵便電信を利用するものが、ますます多くなるもの故、郵便電信の整否を見ると、其の地方の文化の程度が、大略推しはかられるのである。我が國の郵便線路は、鐵道便によるものと、通常道路によるものとを合せて一萬六千百餘里、電信電路は六千餘里、線條の延長は二萬七千三百九十餘里ある。而して一年間に於ける通常郵便物の發送數は七億五千百餘萬通、小包郵便物は七百七十五萬餘箇、電報の發信は一千七百十餘萬通で、其の事務を取扱ふ郵便電信局の總數は三千九百二十四ヶ所、役員及集配人の總數は四萬三千餘人である。清韓に派遣されてゐる郵便局員は此の外で

ある。故に本邦内何れの所でも、郵便の通じない所は無く、昔飛脚屋に頼んで、辛うじて通信をしたとは、雲泥の相違である。特に近頃は、東京、大阪、京都、名古屋などの大都會には、電話が設けられて、各地互に連絡するやうになつたので、通信の便利は、日増しに進んでゆく。

第八 全國の區劃

地理上の區劃 山嶽、河海等の自然の地勢によつて、國を分けて、畿内五國、東海道十五國、東山道十三國、北陸道七國、山陰道八國、山陽道八國、南海道六國、西海道十二國、北海道十一國の八十五國及び臺灣とする。これは昔、行政上の區劃であつたけれども、今では、北海道と臺灣との外は、たゞ地理上の名稱に過ぎない。

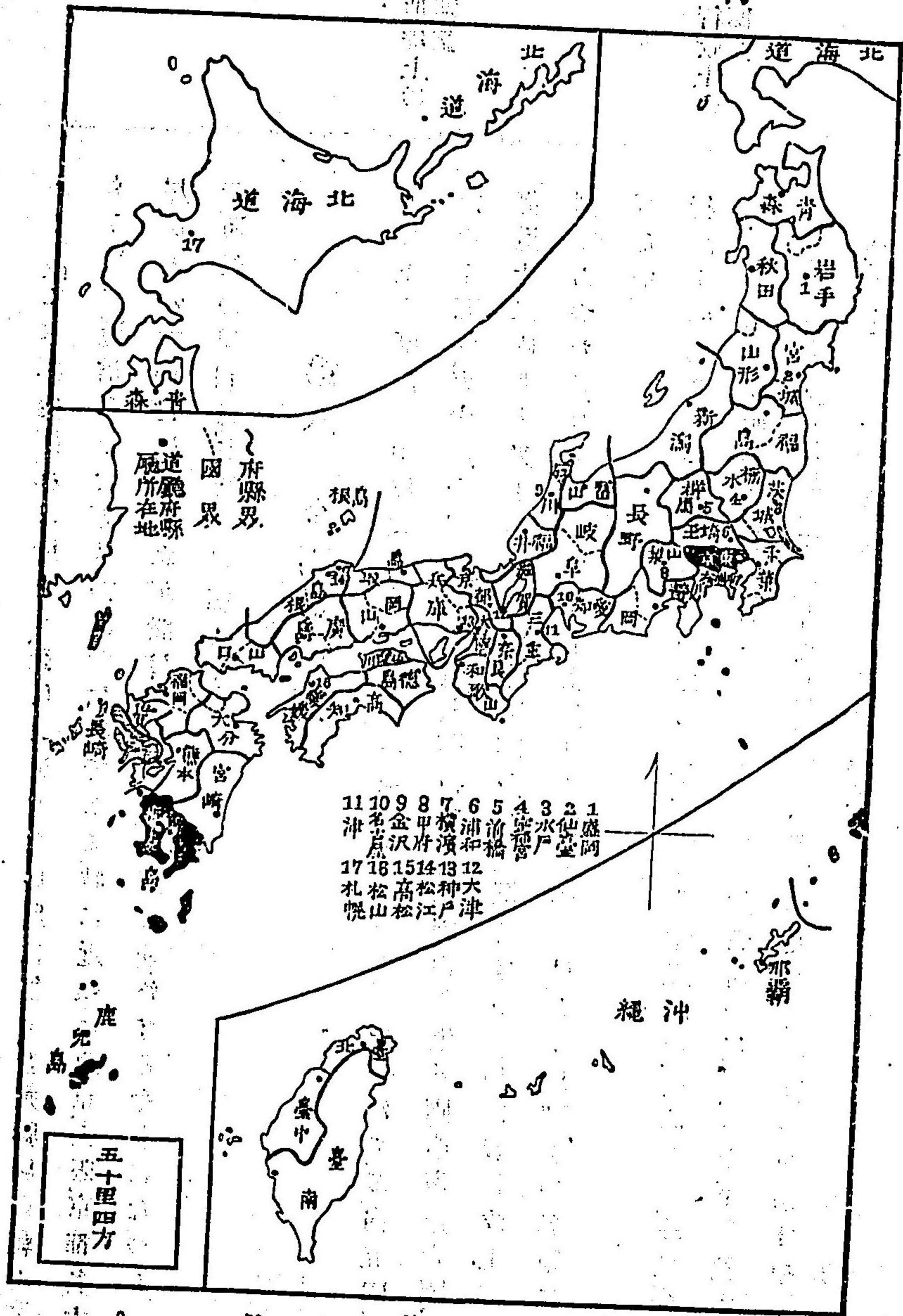
行政上の區劃 行政上の便のため、以上の八十五國を、或は合せ、或は分けて、一道廳、三府、四十三縣の管轄とし、臺灣には總督府を置き、其の下に數多の廳を置いて之を管轄する。左に其の名稱、所在地及び管轄區域を擧げやう。

地方廳

所在地

管轄區域

行政區劃



(39)

北海道廳	札幌區	北海道全部、
東京府	東京市	武藏の一部、豆南七島、小笠原島、
京都府	京都市	山城、丹後、丹波の一部、
大阪府	大阪市	河内、和泉、攝津の一部、
神奈川縣	横浜市	武藏の一部、相模、
兵庫縣	神戸市	播磨、但馬、淡路、攝津の一部、丹波の一部、
長崎縣	長崎市	豊後、對馬、肥前の一部、
新潟縣	新潟市	越後、佐渡、
埼玉縣	浦和町	武藏の一部、
群馬縣	前橋市	上野、
千葉縣	千葉町	安房、上總、下總の一部、
茨城縣	水戸市	常陸、下總の一部、
栃木縣	宇都宮市	下野、
奈良縣	奈良市	大和、
三重縣	津市	伊勢、伊賀、志摩、紀伊の一部、

愛知縣	名古屋市	三河、尾張、
静岡縣	静岡市	駿河、遠江、伊豆(豆南七島を除いて)。
山梨縣	甲府市	甲斐、
滋賀縣	大津市	近江、
岐阜縣	岐阜市	美濃、飛騨、
長野縣	長野市	信濃、
宮城縣	仙臺市	陸前の大部、磐城の一部、
福島縣	福島市	岩代、磐城の大部、
巖手縣	盛岡市	陸前の一部、陸中の大部、陸奥の一部、
青森縣	青森市	陸奥の大部、
山形縣	山形市	羽前、羽後の一部、
秋田縣	秋田市	羽後の大部、陸中の一部
福井縣	福井市	越前、若狹、
石川縣	金澤市	加賀、能登、
富山縣	富山市	越中、

鳥取縣	鳥取市	因幡、伯耆、
島根縣	松江市	出雲、石見、隱岐、
廣島縣	廣島市	安藝、備後、
岡山縣	岡山市	備前、備中、美作、
山口縣	山口町	周防、長門、
和歌山縣	和歌山市	紀伊の大部、
德島縣	德島市	阿波、
香川縣	高松市	讃岐、
愛媛縣	松山市	伊豫、
高知縣	高知市	土佐、
福岡縣	福岡市	筑前筑後、豊前の一部、
大分縣	大分町	豊前の一部、豊後、
佐賀縣	佐賀市	肥前、肥後、
熊本縣	熊本市	肥後、
宮崎縣	宮崎町	日向、

鹿兒島縣 鹿兒島市 大隅、薩摩、
 沖繩縣 那覇區 琉球、
 臺灣總督府 臺北 臺灣及び澎湖列島、

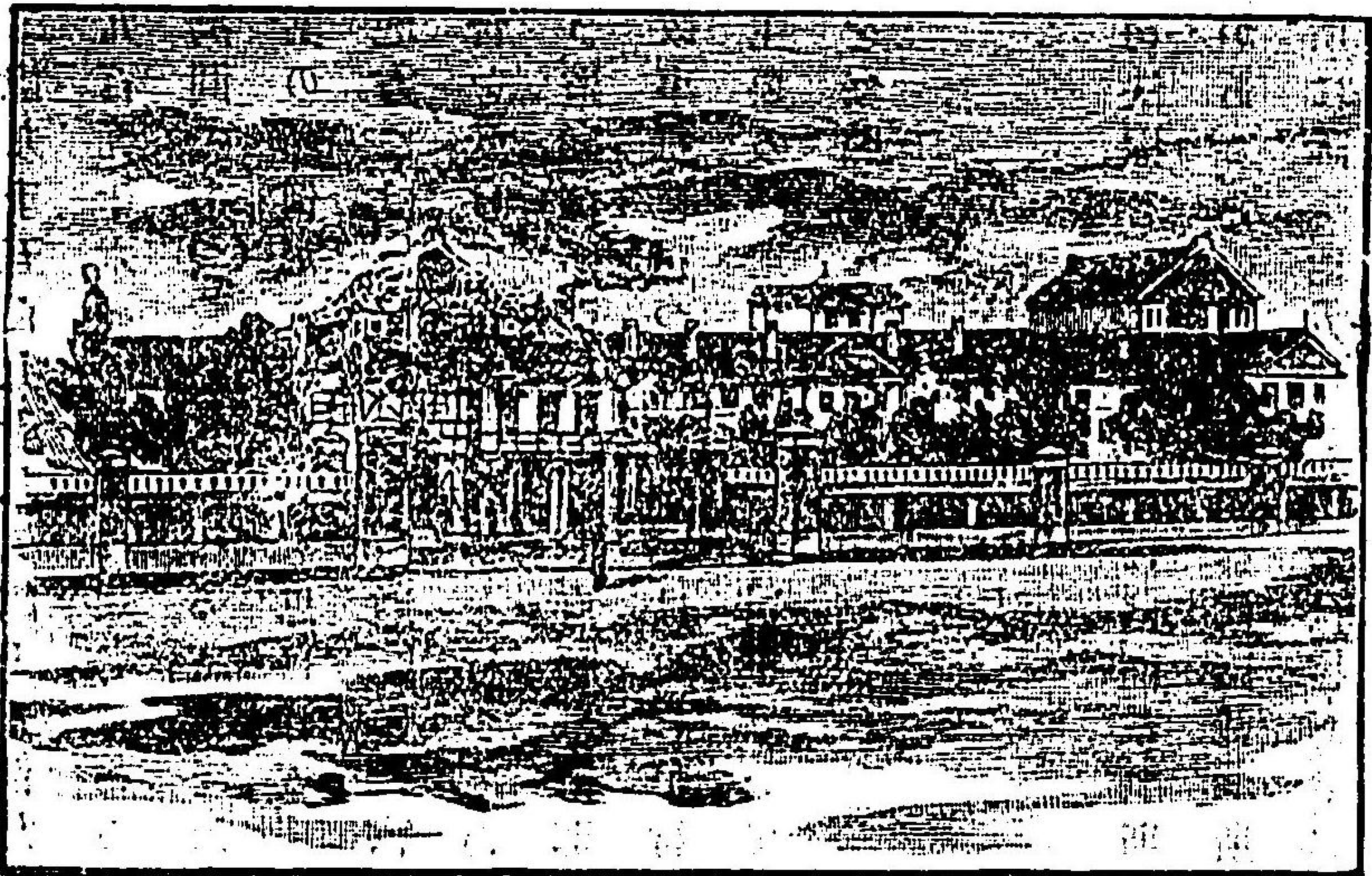
第九 政治

我が國は、開闢以來、一系不變の皇統を奉戴してゐる世界無比の帝國であつて、明治二十二年憲法の大勅が發布せられてからは、純然たる立憲國となつた。天皇陛下は國家の元首であつて、統治權を總攬し、帝國議會の協賛を以て立法權を行ひ、又法律を裁可し、其の公布と執行とを命じ、又宣戰媾和條約の締結、帝國議會の召集と其の開閉、停會及び衆議院の解散を命ずる事等は、皆天皇陛下の大權に屬してゐる。國務大臣は、天皇陛下を輔弼し奉りて其の責に任じ、樞密顧問は、成規に従つて天皇陛下の御諮詢に應へ奉り、重要な國務を審議する役目である。

帝國議會は、貴族院衆議院の兩院から成りたつてゐる。貴族院は、皇族、華族、公侯爵の外互選による、勅選議員、多額納稅者選出の議員、互選によるから成る。

衆議院は、衆議院議員選舉法によつて、各府縣の選舉有權者より選出された三百七十六人の代議士から成り立つてゐる。

帝我が國の行政部は、内閣と外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省とを以て、中央政府を組織してゐる。各省には、それぞれ主務大臣があつて、内閣總理大臣が之を統一してゆく仕組みである。別に宮内省會といふものがあるが、これは専ら皇室の事を司る所で、一般の政務には關係しない。我が國の財政は、日清戰役以後、俄然膨大して、三十三年度の現計は、歳入



財政

中央政府

行政組織

憲法

政體

天皇の大權

國務大臣
樞密顧問

帝國議會

二億九千五百七十九萬四千五百九十二圓歳出二億九千二百七十二萬六千九百九十六圓の巨額に達してゐる。之を戦役以前の歳出入とも凡そ八九千萬圓であつた時に較べると、凡そ三倍に達してゐる。斯る非常の増加は、他に其の類例があるまいと思はれる。

地方には、總督府に總督、道廳に長官、府縣に知事があつて、中央政府の指揮監督を受けて、管内の政務を行つてゐる。總督府は之を小分して多數の廳を置き、道廳は區郡に小別し、府縣は市郡とし、それ／＼其の長があつて、部内の行政事務を司つてゐる。郡は更に町村に分れ、各其の長が置かれてゐる。其の他主要の島地には、特に島司を置いて、之を支配させてゐる。(別項行政區劃の條を参照せよ)

第十 司法

司法權を行ふ裁判所には、區裁判所、地方裁判所、控訴院及び大審院の四段階がある。その順序をいへば、區裁判所の判決に服さないものは、之を地方裁判所に訴へ、地方裁判所のは控訴院に、控訴院のは大審院に訴へて其の審判を

仰ぐのである。大審院は最高の裁判所であつて、其の判決は最後の判決となるものゆゑ、只東京に一ヶ所あるのみであるが、控訴院は、東京の外、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、函館の七ヶ所に置かれてゐる。地方裁判所は、各府縣に一ヶ所づつ、北海道に三ヶ所、札幌、函館、根室あつて、通じて四十九ヶ所である。區裁判所は、最下級の裁判所であつて、全國を通じて二百八十九ヶ所ある。臺灣には、特別の司法制度があつて、地方法院、覆審法院の二段階から成りたつてゐる。地方法院は、臺北、新竹、宜蘭、臺中、臺南、嘉義、鳳山、澎湖の八ヶ所におかれてゐる。覆審法院は、臺灣の最高裁判所であつて、只臺北に一ヶ所設けられてゐる。

第十一 兵備

我が國封建時代の軍備は、専ら武士の任じたものであつたが、維新以後、徵兵令といふものが發布になつて、全國皆兵の制となり、大元帥陛下之を統率したまふことになつた。故に帝國の男兒と生れたものは、滿十七歳より四十歳まで、悉く兵役に服する義務を負うてゐる。兵役には、常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役の四種類があつて、常備兵役は、又分れて現役、豫備役の二種と

なつてゐる。陸軍は現役が三年、豫備役が四年四ヶ月、海軍は現役が四年、豫備役が三年であつて、其の後五年間は、各後備兵役に服するのである。補充兵役は、陸軍では、第一補充兵役は七年四ヶ月、第二補充兵役は一年四ヶ月、海軍では、一年である。此の年限を経過すれば、國民兵役に入るのである。常備兵役、後備兵役、補充兵役に服さない十七歳以上四十歳までの男子は、總て國民兵役に服する定めである。

陸軍は、全國を分つて三都督部とし、一都督部内を四師管に分ち、一師管毎に一師團を置いてあるので、全國の師團數は十二である。此の外に、専ら皇室の警衛に任ずる近衛師團があるので、合せて十三師團となる。師團は又分れて二旅團づつになつてゐるので、全國の旅團數は二十六となる。一師團の現役兵員は凡そ一萬餘人、全國を合して凡そ十五萬人であるが、一朝事があつて、豫備、後備等の兵を徵集する時は、三十萬以上の兵を出すことが出来るのである。

都督部師團及び旅團の所在地を示せば次の如くである。

近衛師團(東京)

- 第一旅團(東京)
- 第二旅團(東京)

東部都督部

(在東京)

- 第一師團(東京) 第一旅團(東京)
- 第二師團(仙臺) 第二旅團(仙臺)
- 第三師團(新發田) 第三旅團(新發田)
- 第四師團(旭川) 第四旅團(旭川)
- 第五師團(旭川) 第五旅團(旭川)
- 第六師團(弘前) 第六旅團(弘前)
- 第七師團(旭川) 第七旅團(旭川)
- 第八師團(弘前) 第八旅團(弘前)

中部都督部

(在東京)

- 第三師團(名古屋) 第五旅團(名古屋)
- 第四師團(大阪) 第七旅團(大阪)
- 第五師團(伏見) 第八旅團(伏見)
- 第六師團(金澤) 第九旅團(金澤)
- 第七師團(鯖江) 第十旅團(鯖江)
- 第八師團(姫路) 第十一旅團(姫路)
- 第九師團(金澤) 第十二旅團(金澤)
- 第十師團(姫路) 第十三旅團(姫路)

西部都督部

(在東京)

- 第五師團(廣島) 第九旅團(廣島)
- 第六師團(熊本) 第十旅團(熊本)
- 第七師團(熊本) 第十一旅團(熊本)
- 第八師團(大村) 第十二旅團(大村)
- 第九師團(丸龜) 第十三旅團(丸龜)
- 第十師團(松山) 第十四旅團(松山)
- 第十一師團(小倉) 第十五旅團(小倉)
- 第十二師團(小倉) 第十六旅團(小倉)

參謀本部
軍人養成所

陸軍には參謀本部があつて、出師、國防、作戰の計畫を司り、教育總監部があつて、陸軍全般の教育を規畫することになつてゐる。軍人を養成する學校には、

大學校、砲工學校、士官學校、戸山學校、軍樂學校、中央幼年學校、地方幼年學校、騎兵實施學校、野戰砲兵射擊學校、要塞砲兵射擊學校、軍醫學校、獸醫學校、經理學校等があつて、常に幾千の軍人を養成してゐる。

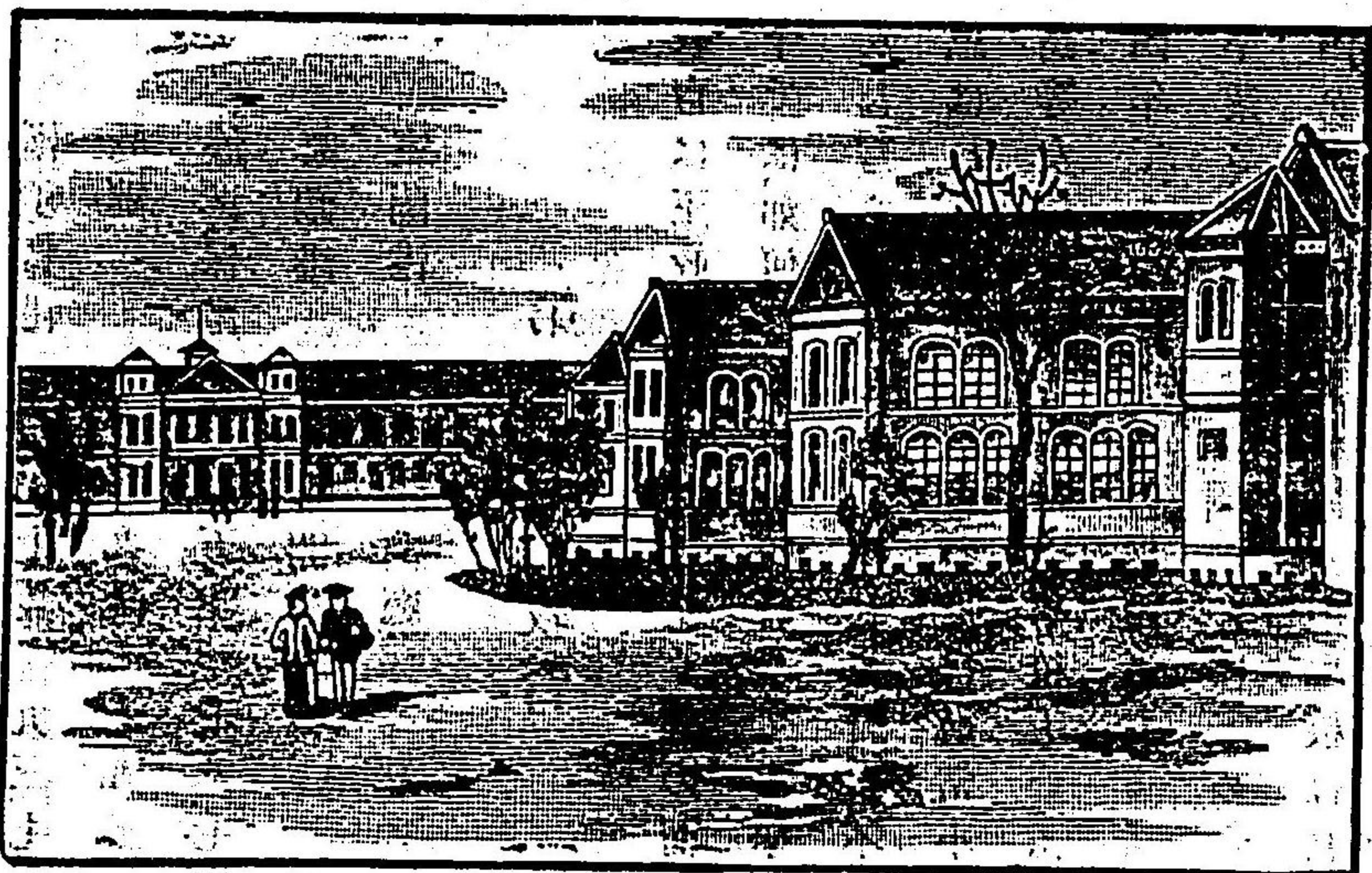
海軍は帝國の海岸海面を五海軍區に分け、每區に軍港をおき、軍港に鎮守府を設け、之に軍艦を附屬させて、海上の警備を司ることになつてゐる。軍艦の數は第二十統計年鑑によれば、七十一隻、二十五萬一千七百六十三噸である。此の中、朝日、初瀬、三笠、敷島の四艦は何れも一萬五千噸以上の鋼鐵戰艦で、富士、八島、八雲、吾妻、磐手、淺間、出雲、常盤等は何れも九千噸以上の大軍艦である。水雷艇は四十五隻、三千五百五十四噸で、此の外に製造中のものが二十一隻、千八百四十八噸ある。海軍軍人の數は、現役、豫備、後備を合せて、凡そ三萬人以上である。軍人の養成所には、大學校、兵學校、機關學校、軍醫學校の外、主計官練習所、砲術練習所、水雷練習所、機關術練習所等がある。海軍軍令部は、出師國防、作戰の計畫を司り、又軍隊の教育訓練を監督する所で、宛も陸軍の參謀本部と教育總監部とを合せたやうなものである。

左に各軍港の軍艦噸數、海岸延長、里程を示さう。

横須賀港	二七隻	九三、七一三噸	一、〇五七海里
吳港	一九隻	七九、三二三噸	二、〇六七海里
佐世保港	二五隻	七八、七二七噸	四、九七七海里
舞鶴港	(未開港)		三、〇五五海里
室蘭港	(未開港)		三、二七六海里

第十二 教育

教育は王政維新と共に、全く其の面目が改まつて、追々に發達して來たので、今では如何なる僻村へ行つても、學校の無い所は無い程である。此の勢で進んだならば、久しからずして、野に不文の民なしといふ程になるであらうと思はれる。現今の教育制度は、尋常小學校、高等小學校、中學校、女子のためには高等女學校、高等學校、大學校といふ順序になつてゐる。尋常小學校の年限は四年であつて、兒童の保護者たるものは、其の兒童に、是非とも尋常小學校を卒業させねばならぬことに定められてゐる。高等小學校には、三ヶ年、三ヶ年、四ヶ年の三種類がある。中學校は、高等小學校の三學年卒業以上の男兒の入



學する所で、五ヶ年を以て卒業する規定である。高等學校は、中學校卒業以上のもの、修學する所で、其の學科は、大學豫科、醫學部、工學部の三つに分れてゐる。大學豫科を卒業したものは、更に大學に入つて、高尚なる專門學を修めるのである。大學は官立には東京帝國大學、京都帝國大學の二つがある。私立には早稻田大學、慶應義塾大學部、大日本女子大學等がある。高等學校は、東京仙臺、金澤、熊本岡山、山口の七ヶ所に設けられてゐて、其の學生の數は五千六百八十四人(明治三十三年十二月現在數)に達してゐる。また中學を卒業して更に實業に關す

る學術を修める者のためには、高等商業學校、高等工業學校、商船學校等が設けられてゐる。小學校の教員を養成するためには、各府縣に師範學校があり、中等諸學校の教員を養成するためには、東京廣島の二高等師範學校各種の教員養成所及び高等の私立學校がある。此の外に農學校、商業學校、工業學校、美術學校、音樂學校、盲啞學校及び各種の實業學校、專門學校等が設けられてあつて、其學生の數は、小學校を除いて計算しても、三十四萬人に餘つてゐる。實に我が國の教育は、旭日冲天の勢を以て進歩發達してゐるのである。かく教育の盛なるにつれて、印刷術も日に開け、圖書の様に上るものが極めて多く、圖書館も漸次其の數を増してゐる。第二十統計年鑑に示す所を見るに、實に左の如くである。

明治三十二年發行の書籍部數	二萬一千四百三十五部
同年末に於ける新聞雜誌數	九百七十八種
同年末に於ける圖書館數	三十八ヶ所
同圖書館の藏書數	十六萬三千三百八冊

宗教

第十三 宗教

古來我が國に行はれてゐた宗教は、神道と佛道とである。此の兩教は、もと其の教旨に大差があるにも拘はらず、久しく並び行はれて、概して同一の人に信仰されてゐる。これは實に不思議な現象である。近來また耶蘇教も行はれて、一部少數の人に信せられるやうになつた。

神道

神社

(52)

神道には大社、扶桑、實行、黒住、修成、大成、神習、御嶽、禊、神理の十大別があつて、此の外に神宮、奉齋會と名けるものがある。神社は宗教とは別種のものであるが、密接の關係があるから、序に記しておかう。伊勢神宮は天照大神を奉祀してある所で、國家の宗廟である。國內神社の數は、五萬六千餘社(外に境外無格社十三萬箇社)もあつて、その社格を官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、町村社等に區別する。尾張の熱田神社、出雲の大社、山城の男山八幡宮、豊前の宇佐神宮、讃岐の琴平神社、東京の靖國神社、攝津の湊川神社、河内の四條畷神社、臺灣の臺灣神社等は、其の最も名高いものである。佛敎は、古代から我が國に傳はつた宗教で、時によつて、多少の盛衰はあつた。

佛敎

耶蘇教

(53)

が、兎に角、最も廣く行はれてゐた宗教である。佛敎には、天台、眞言、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞宗、日蓮、時、融通念佛、法相、華嚴の十二宗派があるが、殊に盛大であるのは、眞宗、曹洞宗、眞言宗、淨土宗等である。寺院數は、すべて七萬餘であつて、京都の東西兩本願寺、知恩院、近江の延曆寺、越前の永平寺、紀伊の金剛峰寺等は、其の最も名高いものである。神佛道以外の宗派は、二十餘派も行はれてゐるが、概して耶蘇教の別派である。耶蘇教は、後奈良天皇の御代に、初めて我が國に傳はつて、一時は多數の信者も出來たが、徳川幕府が、其の教旨を有害のものとして認めて、之を嚴禁したので、一時は全く其の跡を絶つやうになつた。王政維新以後、信敎の自由を許したので、耶蘇教も漸次行はれるやうになつて、會堂及び講義所の數も今では一千餘に上り、十萬近くの信者があるといふことであるが、神佛兩教に較べると、其の勢力は極めて微々たるものである。

第十四 農産

農産物

我が國は寒暖其の中を得、地味また肥沃であるに依て、古から瑞穂國と稱せ

米

茶

繭

雜穀

(54)

られて農産物は極めて豊富である。米麥は本邦人の常食物で、到る所に耕作せられてゐるゆゑ、其の産出も極めて多く、明治三十三年の産米は臺灣を除いて四千餘萬石、麥は二千餘萬石である。米の收穫の最も多いのは新潟の二百三十五萬石で、之に次ぐのは兵庫、福岡、愛知、千葉、富山、山形、福島等の諸縣である。麥は埼玉の百萬石が全國第一である。之に次ぐのは、茨城、愛知、千葉、群馬、兵庫、熊本等の諸縣である。製茶も亦重要な産物であつて、年額七百餘萬貫を生じ、京都の宇治茶、埼玉の狭山茶等は、風味の佳良を以て名高い。收穫の最も多いのは静岡の百九十二萬貫を筆頭として、徳島、京都、三重、熊本、岐阜等の諸府縣が、其の次に位してゐる。養蠶は特に本邦の風土に適してゐるので、近來廣く各地に行はれ、繭の總額は二百七十餘萬石に達するやうになつた。其の産出の最も多いのは、長野の四十二萬石、群馬の二十七萬石、埼玉、福島の二十萬石等である。生絲と絹布とは、最も重要な輸出品であつて、輸出品中の第一位を占め、年額七千餘萬圓(三十三年)の多きに達してゐる。雜穀のうち、多量に産するものは大豆の三百萬石、粟の二百萬石、蕎麥の百萬石、稗及び小豆の八十萬石等である。大豆は埼玉の二十萬石を最として、茨城、長野、熊本、千葉等の諸

大麻、葉
藍、實綿
其の他

林産

(55)

縣が、其の次に位してゐる。粟は熊本の五十萬石を第一として、福岡、神奈川、千葉等の諸縣が之に次いでゐる。大麻は栃木、廣島、新潟、長野等に、葉藍は、徳島、愛知、福岡等に、實綿は、大阪、廣島、愛知、埼玉、千葉、新潟等の諸府縣に多量に産して、何れも主要の産物である。煙草は各地に産してゐるが、鹿兒島、茨城等から産するものが最も名高い。此の外、甘藷、馬鈴薯、砂糖等も亦主要の産物である。

第十五 林産

我が國には山岳が極めて多く、地味が肥えてゐて雨量にも富んでゐるので、植物の生育には最も適當してゐる。鬱蒼たる森林は到る所に散見して、全國の建築用材と薪炭とを供給するに足る。木曾山林、天城山林、紀伊大和の諸山林などは、其の最も名高いもので、廣さが數十里に亙つてゐる。松、杉、檜、樺等の良材を産することが極めて多い。山林の副産物として、樟腦、木蠟、漆、椎茸等を産することも頗る多く、國內の需要を充たして、尙ほ海外に數百萬圓を輸出してゐる。殊に木蠟の如きは、其の産出が最も盛であつて、輸出額はかりでも五六十万圓に達してゐる。

山林は林産物を出だす外に水源を涵養し、寒暑を調和し、洪水を防ぐ等の効用があつて、極めて大切のものである。我が國では、維新以後、濫伐が行はれて、古來有名な山林も、將に荒廢に傾かうとしたので、政府は嚴に其の保護法を立て、全國を十六大林區に分け、毎區に大林區署を置いて、山林の保護、伐木、其の他一切の事務を掌らせることにした。但し、北海道と臺灣とは此の外である。

第十六 海産

我が國は四面皆海を繞らしてゐるので、漁獵は廣く沿岸地方に行はれて、海産物を出だすことは、實に夥しいものである。北海道の沿岸では、鮭、鱈、鯨、昆布等を夥しく産し、東南海岸からは、鰺、鯉、鯛、烏賊、章魚、貝類等を盛に出だし、其の最として、三重、愛知等につき、鯉は静岡を最として、高知、三重等につき、鯛は山口を最として、廣島、静岡が之に附いてゐる。是等は主に内地の食料、肥料等に用ひられてゐて、未だ盛に輸出する程には達しないが、魚介類は三百七

十四萬餘圓、海草類は百八十六萬餘圓を輸出するやうになつた。我が國の近海は、世界有数の漁場であるにも拘はらず、漁具、海船等が、甚だ不完全であつて、遠洋漁業を企つることも出来ず、僅に沿岸の漁獵のみに安んじてゐるのは、實に嘆かばしいことである。

食鹽は重要な海産物であつて、吾人の日常缺くべからざる必要品である。製鹽業の盛に行はれてゐる地方は、瀬戸内海の沿岸であつて、香川、山口の百餘萬石を第一とし、兵庫、廣島、岡山、愛媛、徳島等が、其の次に位してゐる。

第十七 鑛産

我が國には、鑛山が所々にあつて、採掘鑛區の数が五千ヶ所以上になり、其の總坪数は五億五千百餘萬坪に達してゐる。従つて、金、銀、銅、鉛、鐵、安質母、ニ、滿、銻、石炭、硫黄、石油等を産出することも、甚だ多量である。金は北海道及び新潟、鹿兒島等の諸縣から出て、年額百三十貫以上に達してゐる。銀は秋田、岐阜、兵庫等の諸縣から出て、殆ど一萬五千貫に達する。就中、銅と石炭とは極めて多量に産出して、其の輸出額ばかりでも、何れも一千二百萬圓以上もある。銅は枋

木秋田の九百萬斤を第一として、愛媛の七百萬斤が其の次に位してゐる。石炭は主に九州から出て、多く東洋諸港に輸出するのである。其の産地は福岡の四百萬噸を第一として、北海道の六十餘萬噸、佐賀の五十餘萬噸、長崎の四十餘萬噸等が其の次に位してゐる。石油は殆ど全く新潟の産出であつて、其の他は數ふるに足らない。年々の産出は總額四十七萬餘石に達するけれども、國內の需要を充たすにも足らない。近年新潟に大會社が設けられて、盛に採掘に従事してゐるゆゑ、おひく多量の産出を見るやうにならう。硫黄の産出は世界に名高いもので、年々百七十餘萬斤を産出する。此の外に、岐阜、茨城、山口等の諸縣からは大理石を出し、瀬戸内海の沿岸地方及び茨城等からは花崗石を産出する。

第十八 畜産

我が國では、中古以來久しく獸肉を食はなかつたために、牧畜業の見るべきものがなく、只労働用として、牛馬を飼養し、食用としては僅に家禽等を飼養するのみであつたが、近年は肉食が大に行はれて、牛の約二十萬頭、馬の四萬

餘頭、豚の八萬餘頭を屠り食ふほどになつたので、牧畜業も次第に開けて、今では大牧場があちこちにあるやうになつた。今、牛の現存數を見るに、臺灣を除いて、百二十五萬餘頭である。其の最も多い地方は、廣島、岡山、兵庫、長崎等の諸縣で、何れも八萬頭以上を有してゐる。馬は牛よりも多く、總數百五十餘萬頭もあつて、鹿、兒島、熊本の兩縣は十萬頭以上を有し、岩手、福島、二縣は九萬頭以上を有してゐる。豚は最も多く、臺灣に産し、其の他各地に養はれる。家禽は農家の副産業として、全國到る所に飼養されてゐる。

第十九 工産

我が國の人は、手工に巧なのを以て、世界に名を知られてゐるが、大器械を發明する者もなく、従て之を使用するものも無かつたために、工業としては、別に見るべき程のものが無かつたのである。然るに近年歐米より、精良の大器械を輸入して、大仕掛に製造に従事するやうになつたので、其の發達も極めて著しく、先年までは、外國からの輸入を仰いでゐた綿絲、綿布などを、今では正反對に二千萬圓以上も輸出するやうになつた。勿論綿花は外國から輸入

生絲

織物

染物

洋紙

して、それを製造するのである。紡績業の最も盛大な所は大阪であつて、二十萬貫目以上の綿絲を製出する。之れに次ぐのは、東京、愛知、三重、岡山等の諸府縣であつて、何れも大倉社から製出するのである。生絲は年々二百四十九萬四千貫目以上を産出し、國內の需要を充たした上に、尙、四千萬圓以上を輸出するので、輸出品の第一位を占めてゐる。この製造の最も盛大な所は、長野、群馬、福島、埼玉等の諸縣である。絹織物に名高いのは、京都の西陣が第一、足利、桐生、福井なども著れてゐる。綿織物は愛知、和歌山、埼玉等が最も盛大な所である。今、男女織工の多い府縣を見るに、愛知七萬七千餘人、埼玉五萬九千餘人、京都五萬餘人、沖繩四萬九千餘人、群馬四萬三千餘人であつて、全國を通じて七百八十萬人に達してゐる。これに其の盛況が、如何に伺はれる。染物は京都の友禪染が最も名高く、陶器は京都の清水焼、加賀の九谷焼、尾張の瀬戸焼、薩摩焼、有田焼、萬古焼等が著はれてゐて、約二百萬圓を輸出してゐる。和紙の製造は高知を第一として、香川、岐阜、福岡、兵庫等が其の次に位してゐる。是等は何れも、手工にかゝるもので、外國には絶えて類の無いものである。西洋紙の製造は、東京を第一とし、大阪、兵庫が其の次である。是れは大仕掛の器械を要する。

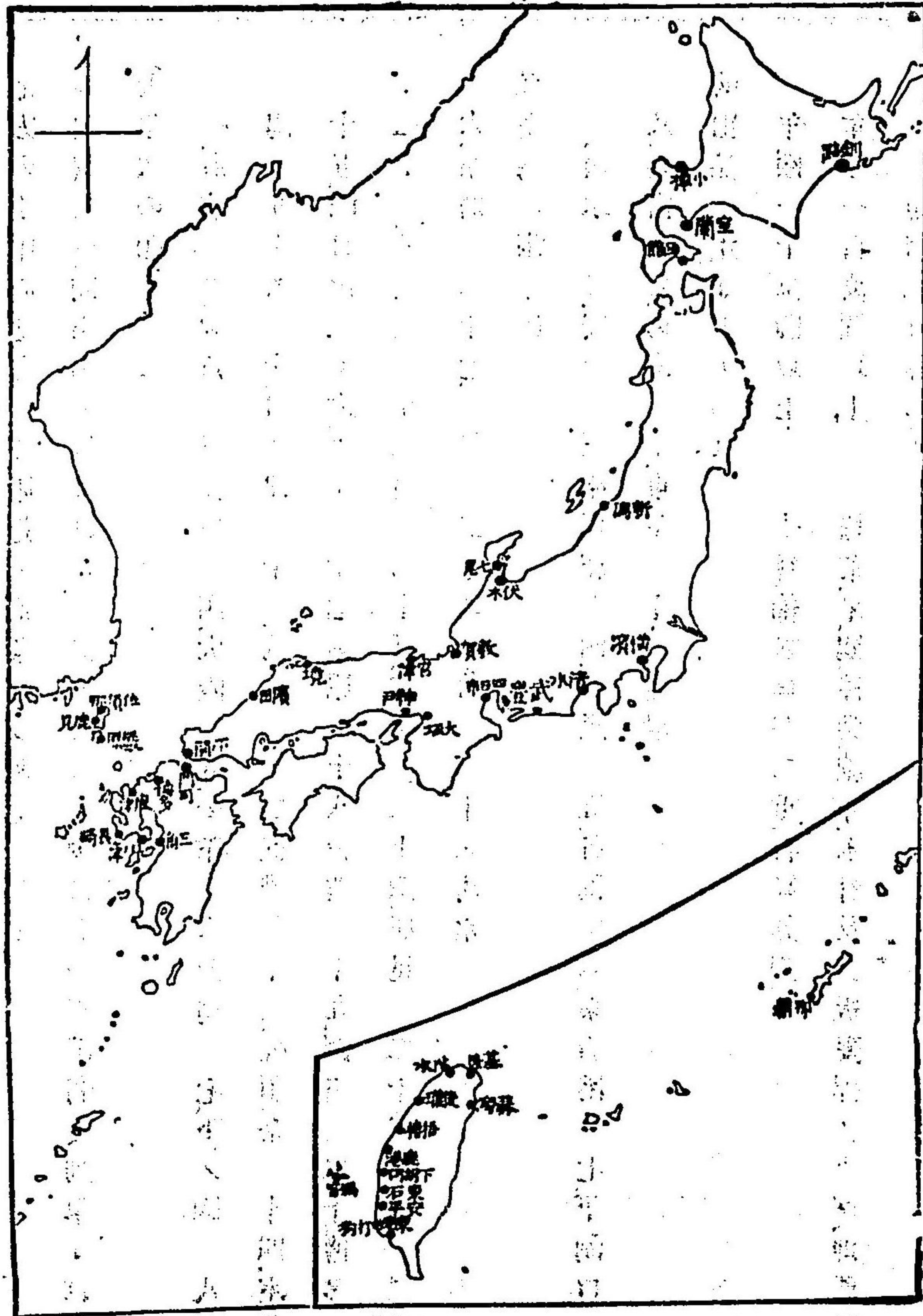
ゆゑ、上記三府縣の外には、三重、京都に各一ヶ所の製造所があるのみである。されども其の製造高は甚だ多く、年額八千封度^{ポンド}に達し、價額は約五百萬圓に達する。燐寸^{リン}の製造は兵庫の二百五十餘萬圓が最も大きなもので、愛知、大阪、東京等が其の次に位する。此の品は、初め専ら輸入を仰いだものであつたが、今では、東洋及び南洋地方に向つて、毎年五百萬圓以上を輸出するやうになつた。蠶表、莫産類の製造は、大分縣が全國第一で、岡山、広島、静岡等の諸縣が其の次に位してゐる。是れも重要な貿易品で、毎年三百萬圓以上を輸出する。漆器は本邦特産物の一つであつて、其の名は海外にまでも聞え、百萬圓以上の輸出がある。輪島塗、春慶塗、津輕塗、日光塗等何れも名高い。清酒の製造は、兵庫縣が最も盛で、伊丹酒、灘酒などは、其の名が夙に著れてゐる。次に盛大の地方は、福岡、京都、広島等の諸縣である。醤油は千葉縣を以て全國第一とし、香川、兵庫、茨城等の諸縣からも多量に産する。近來麥酒、葡萄酒等の製造も、やゝ盛になつて、麥酒は五十萬以上を輸出するやうになつた。

第二十 商業

我が國は、氣候溫和、地味肥沃で、日用の必需品は、大概産出しない事は無いので、古來農業を尊んで、國の本と稱へてをつた、故に工業は勿論、商業と雖も、極めて小規模であつて、僅に内地間の需要を充たすに過ぎなかつたのである。が、鎖港攘夷の奮闘が醒めて、諸外國と通商往來するやうになつては、舊時のやうに専ら農業ばかりを尊んでゐるわけには行かぬ。綿花、砂糖などは、内地で製出するよりも外國から買入れた方が、遙に廉價である。生絲、茶などを作つて外國へ賣ることは、米麥などを耕してゐるよりも、有利の仕事である。同然の人情であれば、内國商業と共に、外國貿易も、必然的に盛大になつてゆくのである。

商業は、専ら需要供給の媒介を爲すものゆゑ、最も多く其の便宜を有してゐる所が、必然繁昌するのである。内地の商業で取引の最も盛大に行はれるのは、米穀、酒、醬油、生絲、織物、陶磁器、木材、薪炭、魚介等であつて、關東では、東京が其の大中心となつて、盛大を極めてゐる。關西では、大阪が其大中心で、東京と其の繁榮を競うてゐる。名古屋、仙臺、金澤、新潟、廣島、徳島、福岡、函館等、何れも其の

開港場



一分万五千尺縮 100里

外國貿易

地方の小中心となつて、附近の商業を支配してゐる。外國貿易は、開港場で行はれる。今輸入税の多少に従つて港名を列挙すれば、大略次の順序になる。

- 一、横濱
- 二、神戸
- 三、長崎
- 四、大阪
- 五、函館
- 六、門司
- 七、下ノ關
- 八、新潟
- 九、小樽
- 十、口ノ津
- 十一、伏木
- 十二、武豊
- 十三、佐須奈
- 十四、室蘭
- 十五、四日市
- 十六、唐津
- 十七、嚴原
- 十八、敦賀
- 十九、釧路
- 二十、博多
- 二十一、那覇
- 二十二、境
- 二十三、宮津
- 二十四、鹿見
- 二十五、濱田
- 二十六、六、糸崎
- 二十七、七尾
- 二十八、三角
- 二十九、清水

又、臺灣の港では、

- 一、淡水
- 二、安平
- 三、塗萬窟
- 四、基隆
- 五、打狗
- 六、東石港
- 七、下湖口
- 八、媽宮
- 九、舊港
- 十、東港
- 十一、後壠

輸出品

輸出品の主なるものは、

- 年額一千万圓以上 生絲、綿織絲、羽二重、石炭、熟銅
- 年額一百万圓以上 綠茶、米、錫、樟腦、綿布、木材及び板、麥桿、サナダ、地膚、陶磁器、燐寸、漆器等

輸出入の差

であつて、總計二億二千十三萬四千九百九十一圓に達してゐる。又、輸入品の主なるものは、

- 年額一千万圓以上 線綿、砂糖、石油
- 年額一百万圓以上 米、麥粉、豆、鹹魚、生卵、乾藍、アニリン、西洋紙、苧麻類、綿織絲、生金巾、晒金巾、更紗、綿織子、綿フランネル、羊毛、毛絲、メリンス、セルジス、羅紗、綿羅紗、毛織子、熟皮、鋼板、鐵管、鐵軌、條鐵、熟鐵、鐵釘、鐵線、電線機關車、汽船、石炭、油糟等

であつて、其總額は五億四千七百六萬三千八百八十圓になつてをわつて、差引き一億六百七十九萬四千六百九十八圓の輸入超過になるのである。日清戦争以前には、概して輸出超過の傾きであつたが、明治二十七年より巨大の輸入超過となつて、特に明治三十一年などには一億六千萬以上の巨額に達してゐる。これには種々の原因もあらうけれども、兎に角喜ぶべき現象ではない。内地の生産業を盛にして、速に輸出入の平均を得しむるやうに勉めねばなるまい。商工業の盛なるにつれて、必然起るべきものは、金融機關たる銀行業である。

銀行業

我が國の銀行は日本銀行、橫濱正金銀行、日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、臺灣銀行の外に各府縣の農工銀行四十六、普通銀行一千八百二、貯蓄銀行四百十九、貯蓄銀行で普通銀行を兼ねてゐるものが二百六十二に達してゐる。之がために金融の圓滑を助けることは莫大なものである。

後篇 特説

第一 畿内

畿内は本土の中央より少しく西南の方に位してゐる。四方は概ね山積さであつて、唯西方の一部だけが海に臨んでゐる。

境界 北 山陰、北道、東山道 東 東山、東海道、紀伊

南 紀伊 西 茅渚海、山陽、山陰道

面積 四百四十五方里餘 人口 二百七十餘萬

畿内を分つて、山城、大和、河内、和泉、攝津の五國とし、更に之を小別して、五市三十三郡とする。

山城(一市八郡) 京都市、愛宕、葛野、乙訓、紀伊、宇治、久世、綴喜、相樂

大和(一市十一郡) 奈良市、添上、生駒、山邊、磯城、宇陀、高市、北葛城、南葛城、宇智、吉野、河内(三郡) 南河内、中河内、北河内

和泉(一市二郡) 境市、泉北、泉南

攝津(二市八郡) 大阪市、神戸市、西成、東成、三島、豊野、武庫、川邊、有馬、明石

位置境界

國郡

府縣

氣候

沿岸

山城

畿内には、京都、大阪の二府、兵庫、奈良の二縣が設けられてあるが、其の管轄區域は畿内以外にまで及んでゐるのである。畿内の氣候は、一般に溫和であるが、其の内にも、西南の沿岸の地は、最も平順で、健康に適當してゐる。

畿内の中で、海に臨んでゐるのは、攝津、和泉の二國ばかりである。和泉は大阪灣に向つてゐて、沿岸凡そ十八里の間、砂濱が連つてゐて、佐野、松原、高石、濱等があり、西に神戸港がある。兵庫は神戸港の西に接してゐて、和田岬は其の南に突出してゐる。此處より西、播磨の境に至る間は、風光明媚であつて、名勝地が甚だ多い。有名な須磨浦も此の間に在るのである。

畿内の地は、一體に肥えてゐて、山も河も多い。河には大阪灣に注ぐものと、紀伊に流下するものがある。左に各國の山河の大要を述べやう。

山城は四方皆山で、西南に少しばかりの平地がある。

愛宕山は、西方丹波の境に聳え、比叡山は、東方近江の境に峙つてゐる。北方に鞍馬山、東南に鷲峰山がある。笠置山は、南朝の舊蹟であつて、伊賀、大和の

(68)

(69)

大和

境に跨つてゐる。此の外、如意岳、高雄山、笠取山、嵐山等の諸山があつて、山河自然に城を形づくつてゐる。是れ山城の國名の起つたわけである。嵐山は、大堰川の西岸に枕んでゐて、其の峯は高くないけれども、櫻花を以て其の名が著はれてゐる。加茂川は、鞍馬、比叡兩山の間から出て、京都を過ぎ、西南に流れて桂川に注ぎ、其の水極めて清冷である。桂川は、上流を保津川とも大堰川ともいつて、丹波から流れて來る川である。之に清瀧川が合して、嵐山の麓をめぐつてゐる。宇治川は、琵琶湖から出て、西に流れて、伏見で、桂川と合して淀河となる。木津川は、伊賀から來て、國の南部を過ぎて、北に流れて淀河に合する。

大和は、吉野川を以て地勢を兩分してゐるので、自ら南北二部になつてゐる。南部には山岳が多く、北部は平坦の沃野である。

西方河内の境には、葛城、二上、信貴、生駒の諸山が並んでゐる。北方山城の境には、三笠山、春日山等が並んでゐる。金峰山は國の中央に聳えてゐて、畿内第一の高山である。此の山の北方六里計の所に吉野山があつて、吉野川が其の麓を流れてゐる。沿岸一里餘の間、櫻樹が山に満ちてゐて、花時の眺め

は最も美しいものである。金峰山の南には、山岳が重疊してゐて、伊勢、紀伊の境に至つて大臺ヶ原山となる。其の北に高見山があつて、伊勢に接してゐる。伊賀の境には、三國山、屏風岳、寶生山、國見山などがある。其の他、北部に多武峯、音羽山などがある。吉野川は、大臺ヶ原山から出て、吉野を過ぎて丹生川に合し、紀伊に入つて紀川となる。十津川は、上流を天川といふ。此の川は、山上ヶ岳から起つて、紀伊に走つて熊野川となる。大和川は、北部の中央から出て、西流して奈良川、布留川、飛鳥川等を合せて河内に入る。

河内は東南は皆山で、西北に淀河が流れてゐる。大和川が國の中央を貫いてゐて、土地は肥沃である。

東方大和の境に、二上、信貴、生駒の諸山が並峙してゐる。金剛山は即ち大和の葛城山であつて、半腹に千早城趾がある。これは、楠木正成の立てこもつたので、其の名が著れてゐる。此の脈が、和泉、紀伊の境に連つてゐて、藏王岳を起してゐる。此の外、國內に、鷲尾山、飯盛山などがあるが、何れも高くはない。淀河は西北の境を流れて攝津に注いでゐる。大和川は、二上、信貴兩山の間から國の中央を貫いて西に流れ、東條、西條の諸水を合せて、攝津、和泉の

間から海に入る。此の川は、運漕の便がよく、舟楫の往來が極めて多い。和泉は東南二方に山を負ひ、西北は海に臨んで、土地が肥えてゐる。

横尾山は東境に峙ち、牛瀧山、七越嶺、葛城山と相並んで西に走り、更に飯盛山、犬吠山等となつて、紀伊に境してゐる。大津川は、横尾山から出て、西に流れ、海に入る。此の外に、石津、岡田、津田等の諸川があるが、平時は、水が殆ど涸れてゐる。

攝津は西北に山を負うてゐて、東南には平地が多い。

武庫山は、摩耶山と相並んで、國の西南に峙つてゐる。武庫山の麓に有馬温泉があつて、摩耶山の麓に布引の瀑布がある。何れも其の名の著れたものである。武庫の東に兜山があり、摩耶の西端に鐵柵峯がある。鐵柵峯の鵜越は、源平の戦争を以て、其の名が知られてゐる。淀河は畿内第一の巨流であつて、數多の河川が、之に集まる故に、時々水害の憂がある。されども、平時には舟楫往來して水運の利を與ふことは莫大である。此の河は、河内の境に沿うて六里ばかり流れて、神崎川を分ち、本流は南に赴いて、復中津川を分ち、遂に安治川、木津川の兩川となつて海に入る。河口は古の難波津であ

湖沼

つて、數千の船舶が常に輻輳してゐる。大和川は、大和から来て、河内を過ぎ、和泉の境から海に入る。池田川は丹波から来て、淀河の分派である所の神崎川に入る。武庫川も亦丹波から来て、南走じて海に入る。左に著名の湖沼をあげやう。

山城の巨椋池は畿内第一の大湖であつて、周圍四里餘ある。これは豊太閤が淀河の水害を防ぐために掘つたものである。

河内の狭山池は周圍一里の小湖水であるが、灌漑の便利は極めて多い。これは、崇神天皇の掘らせられたもので、今日に至るまで、民が其の遺澤を蒙つてゐるのである。

瀑布

瀑布、大和の中、瀑は大臺原山に在つて、下流は北山川に注ぐ。東西二瀑に分れてゐて、高さ百五十丈、幅十五間といふことである。

山城の明神大瀑は、伊賀の境にあつて、其の下流は木津川に入る。高さ凡そ百五十丈。

平野

攝津の布引瀑は、高さ十六丈に充たないが、風景を以て名高い。平野の大きなものは、只、攝津の志手原野ばかりである。これも、東西一里十五

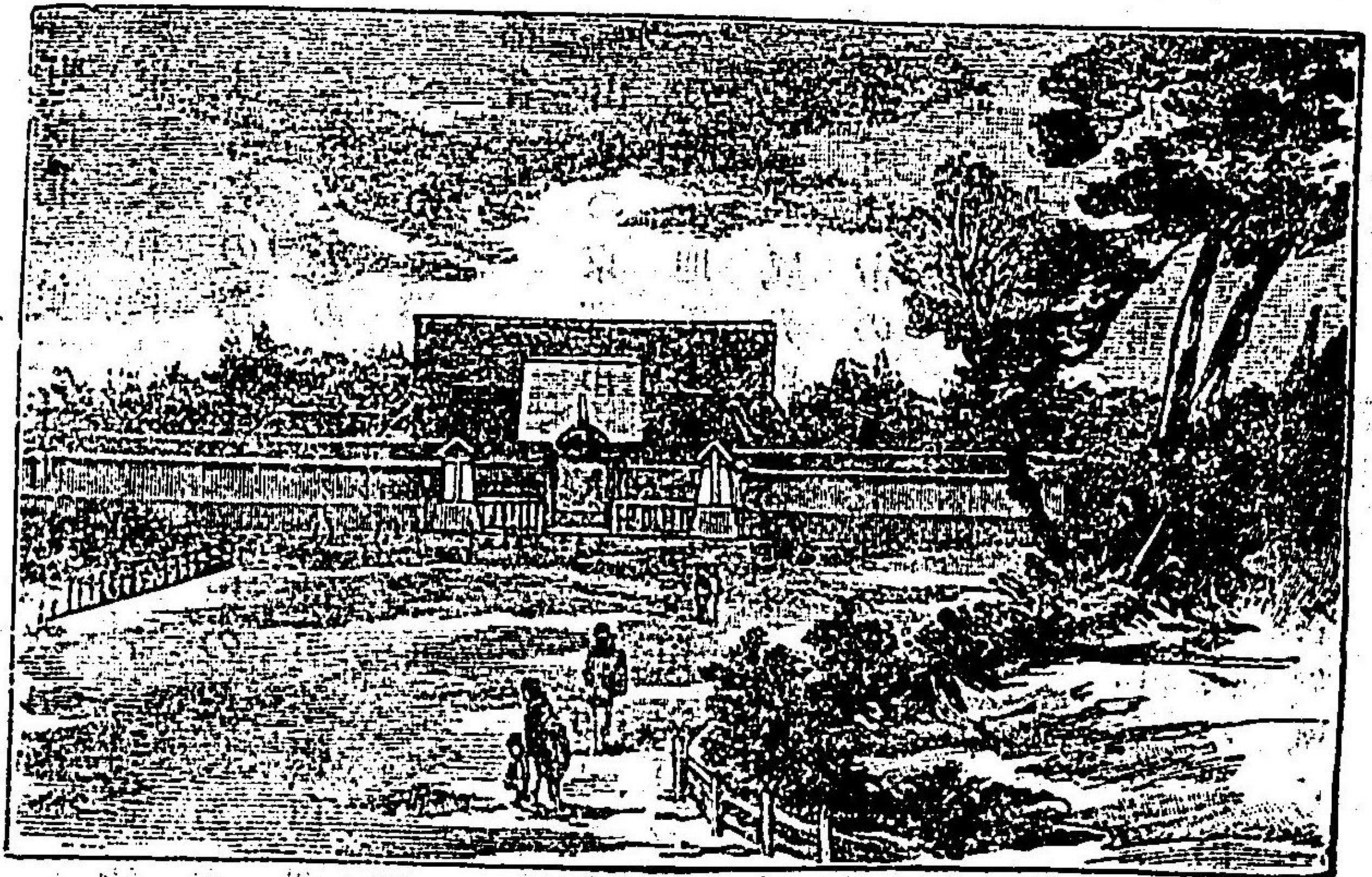
鑛泉

町、南北一里二十町に過ぎない。鑛泉は、大和に東泉寺、柳本、岩谷村、攝津に平野、馬淵、淡山、有馬などがある。有馬は有名の温泉で、武庫山の麓にある。泉質は鹽酸を含んでゐて、濕瘡、脚氣等に特效がある。此處は、舒明、孝德、白河三帝の行幸のあつた所で、浴舎軒を並べてゐて、浴客が甚だ多い。

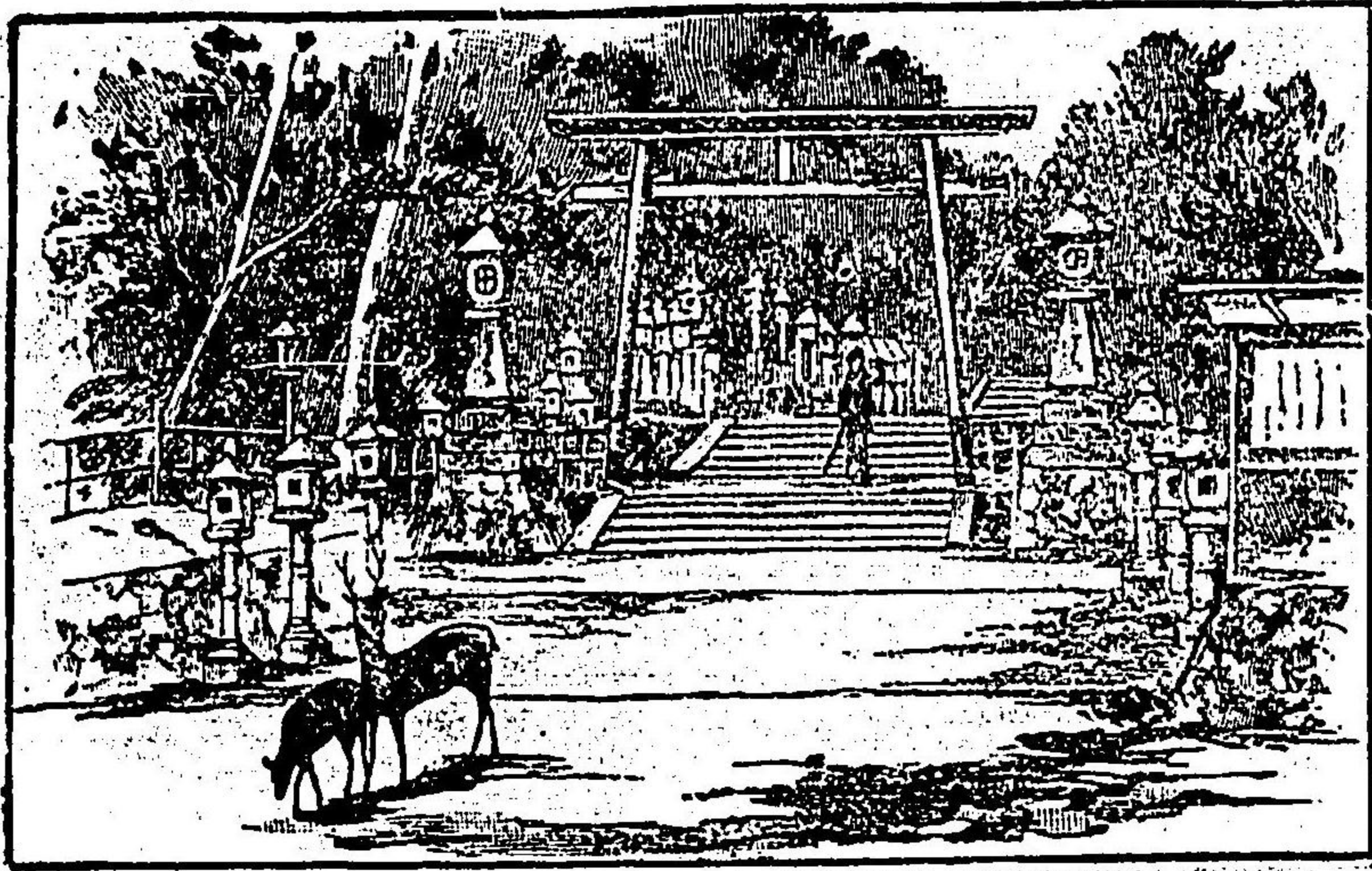
京都

都會

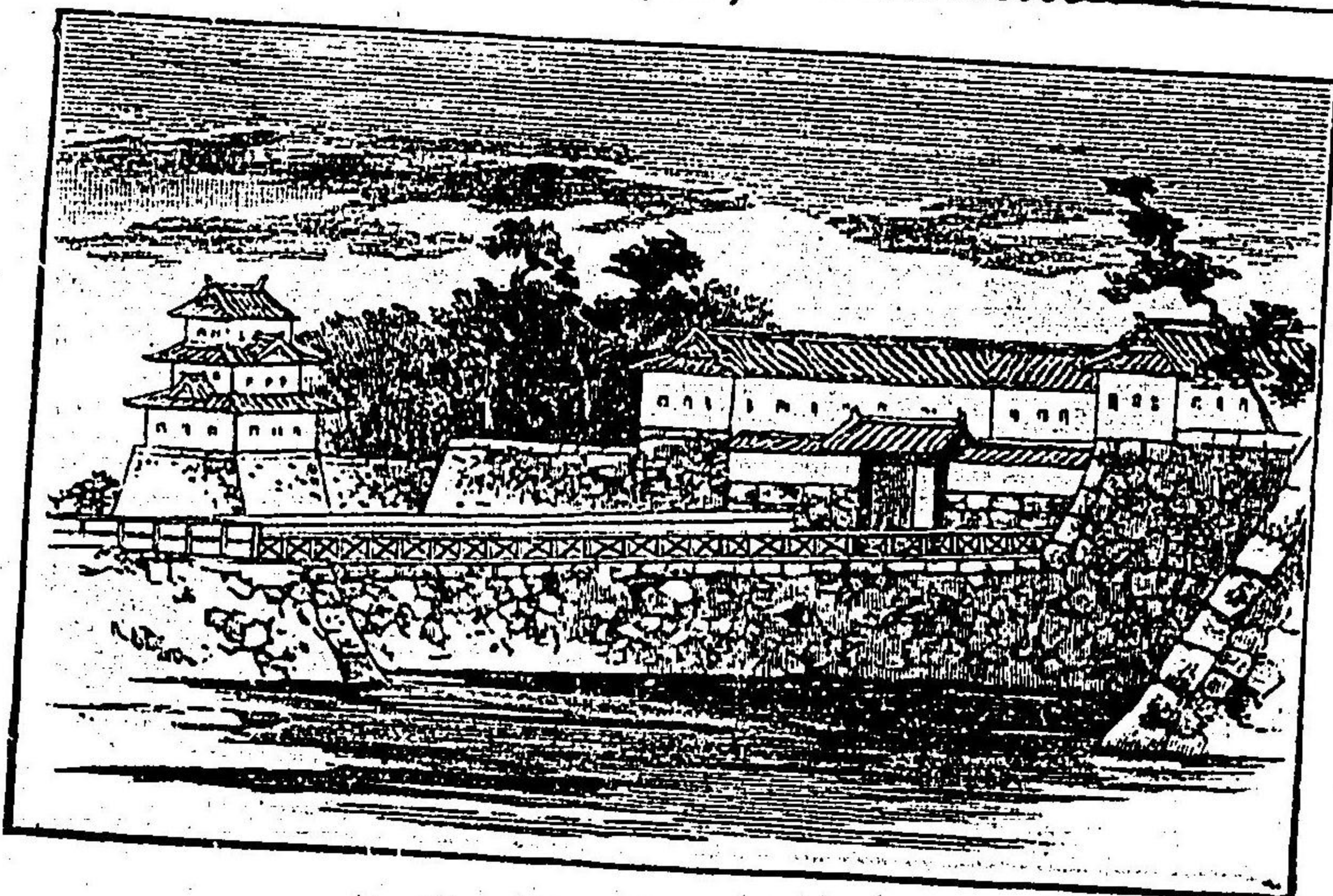
山城の京都市は、人口三十五萬餘、我が國第三の大都會であつて、京都府廳の所在地であるが、加茂川が市の東を流れ、三方に東山、西山、北山を繞らしてゐて、風光明媚、街衢また井然として、實に本邦の名都たるに負かない。舊御所は市の北部にあつて、二條離宮は市の西端にある。只今、京都帝室博物館、京都帝國大學、高等工業學校、第三高等學校等がおかれてゐる。此の地は、桓武天皇以來、七十一代、一千餘年間の帝都であつたために、市の内外に、名所舊蹟が極めて多い。殊に久しく美術の中心となつてゐたので、市民は一般に工藝に巧であつて、其の製出する西陣織、友仙染、加茂川晒布、清水焼、粟田焼、京人形等は、其の名が、夙に著れてゐる。琵琶湖の水を疏通して、加茂川



に落すやうになつてから、其の水力を利用するやうになつて、工業が益々進歩した。近年市内に電氣鐵道が布かれて、伏見まで延長し、其の上に、京各地に通ずる鐵道が開かれたので、交通は極めて便利である。京都伏見は京都市の南方にあつて、淀河に臨んでゐる。往時は淀の夜船といふ御つて、三十石船を以て大阪に往來する發着所であつたが、大阪奈良と京所車汽船の便が開けてから益々賑かになつてきた。町の東北に桃山といふ丘陵がある。これは豊太閤の城趾で眺望絶佳である。大和の奈良市は、大和一圓を支配す

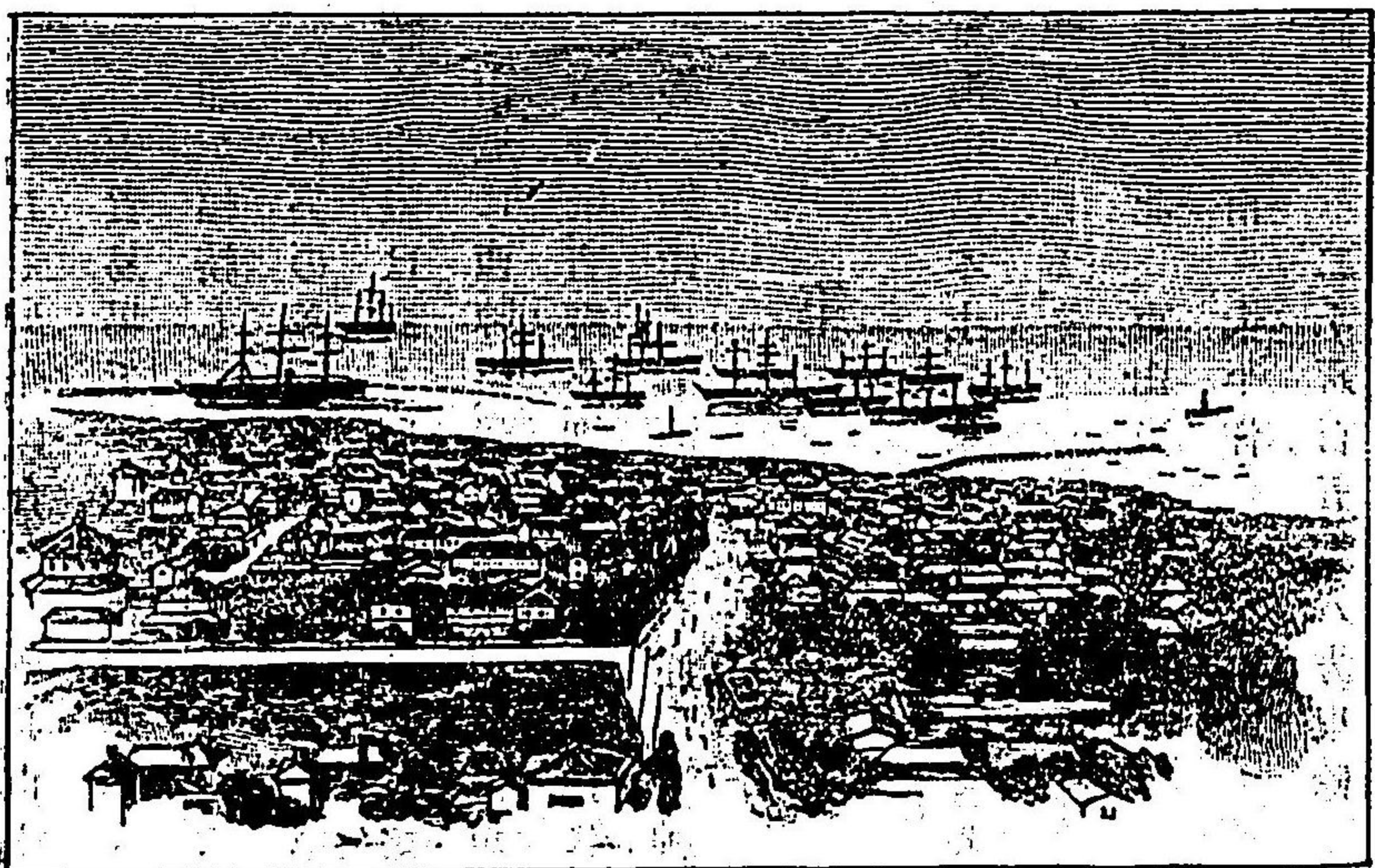


る奈良縣廳の所在地である。此處は、元明天皇から七代八十餘年の帝都であつたので、世に南都とも稱へて、古蹟に富んでゐる。東大寺の大佛は、聖武天皇の御建立で、殊に名高く、奈良帝室博物館の陳列品は、上古の雅致を以て著しい。奈良漬、奈良晒布、奈良人形等は、此の地から出るのである。和泉の堺市は、大和川の口にある有名な港であつて、人口五萬餘人に達してゐる。往時は、外國の貿易も盛に行はれて、市況繁盛であつたが、港内の水が淺いために、神戸が榮えて、此の地は漸次衰へた。鐵器段通織は、此



大 阪 城

の地の名産である。攝津の大阪市は、本邦第二の大都會であつて、人口は八十二萬に達してゐる。河内、和泉の全部と攝津の一部とを支配してゐる大阪府廳は此の市内にある。此の地は、仁徳天皇の都されたのを始めとして、豊太閤の築城によつて、市況頓に繁盛に赴いて、今では、第四師團司令部、控訴院、造幣局、砲兵工廠、工業學校、商船學校などもあつて、非常に榮えてゐる。此の地は、淀河の三角洲上に在つて、市内には、東横堀、西横堀、長堀、道頓堀等の溝渠が縦横に貫いてゐるので、極めて水運の便に富み、且つ鐵道の敷設は、



神 戸 港

殆んど四通八達ともいふべき程であるので、水陸相待つて、交通の便利を極めてゐる。此の地は盛大の開港場であるので、數多の外國人も住んでゐる。安治川口の天保山沖には、内外の船舶が夥しく輻輳してゐる。工業の盛大なことは、實に此の地の偉觀であつて、無數の煙突から吐きだす黒烟は、天を蔽ふほどである。神戸市は、播磨、但馬、淡路、攝津の一部、丹波の一部を支配する兵庫縣廳の所在地で、大阪灣の西北に位してゐる。楠公の戦死を以て名高い湊川は、市の中央を貫いて、市を兩分じてゐる。川の東を神戸、西を兵庫といつた

のであるが、今は合して神戸市といやふうになつた神戸港は横濱につける大貿易場であつて、港内水深く、船舶の碇泊に便利であるので、無数の船舶が輻輳してゐる。楠公を祭つてある湊川神社は、市の北に在つて、千古の下、尚公の義烈を慕はしめる趣きがある。
物産(米穀は到る所に産する故に之を記さない)
山城に西陣織、鴨川染、宇治茶、白川石、清水焼、扇子、松茸等、大和に奈良晒布、吉野紙、吉野葛、烟草、漆等、河内に木綿、柿等、和泉に堺段通、紋羽、磁器、烟草等、攝津に灘酒、御影石、池田炭、神戸牛、綿等。

第二 東海道

東海道は、本土の東南部に位してゐて、西北には山岳連接し、東南は太平洋に臨んでゐる。

境界	北 東山道	東 太平洋
	南 太平洋	西 畿内、紀伊
面積	二千八百五十八方里餘	人口 一千萬餘

本道を分けて、伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武蔵、安房、上總、下總、常陸の十五國とし、更に之を小別して、八市百六郡とする。

伊賀(三郡) 名賀、阿山、

伊勢(三市八郡) 津市、四日市市、桑名、員辨、三重、鈴鹿、河藝、安濃、一志、飯南、多氣、度

會

志摩(一郡) 志摩、

尾張(一市九郡) 名古屋市、愛知、東春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海西、知

多、

三河(十郡) 碧海、幡豆、額田、西加茂、東加茂、北設樂、南設樂、寶飯、渥美、八名、

遠江(六郡) 榛原、小笠、周智、磐田、濱名、引佐、

駿河(二市五郡) 静岡市、駿東、富士、庵原、安倍、志太、

甲斐(一市九郡) 甲府市、東山梨、西山梨、東八代、西八代、南巨摩、中巨摩、北巨摩、南

都留、北都留、

伊豆(三郡) 賀茂、田方、

相模(八郡) 三浦、鎌倉、高座、中、足柄上、足柄下、愛甲、津久井、

府縣

氣候

沿岸

(80)

武蔵(三市二十郡)東京市、横濱市、在原、豊多摩、北豊島、南足立、南葛飾、西多摩、南多摩、北多摩、原、久良岐、橋樹、都筑、北足立、入間、比企、秩父、兒玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾、

安房(一郡) 安房、市原、長生、山武、君津、夷隅、下總(九郡) 千葉、印旛、香取、海上、匝瑳、東葛飾、結城、猿島、北相馬、常陸(一市十一郡)水戸市、東茨城、西茨城、那珂、久慈、多賀、鹿島、行方、稻敷、新治、筑波、真壁、

本道には、東京府、及び三重、愛知、静岡、山梨、神奈川、埼玉、千葉、茨城の三府八縣があつて、只三重縣だけが、本道の外の紀伊二郡を合轄し、他は皆、本道の中を管轄してゐる。

本道は、北方に山を負うて寒風を防ぎ、南方は海に面してゐて、融和の海風を受くるゆゑに、氣候が温和で、寒暑ともに人體に適してゐる。此の中で駿河、安房、相模が最も溫暖で、只伊賀だけが、寒氣が強い。本道は、伊賀、甲斐二國の外は、皆海に臨んでゐる。志摩は伊勢の東端に突出し

四日市

桑名

熱田

濱名灣

(81)

て三河の伊良胡崎、尾張の師崎と相對して、鼎足の勢を爲し、北に鳥羽、東に的矢の兩港がある。伊勢には、二見浦、鼓浦、阿漕浦等の勝地がある。南に大湊があつて、山田に接し、北に四日市がある。四日市は開港場であつて、陸には鐵道が通じ、海には横濱との定期航海船があるけれども、取引は盛では無い。桑名は、木曾河口に臨んで伊勢海の要津に當つてゐて、豪商が多く、米穀の取引が甚だ盛である。尾張には、師崎(一名幡豆崎)があつて、海中に突出すること十八里、知多半島を成して、内海を隔て、伊勢に對してをる。内海の東北隅に熱田があつて、鳴海灣に面してゐる。草薙御劔を奉祀せる熱田神宮は此の地に鎮座してゐる。知多半島東岸の中央に武豊港があつて、其の北に半田港があつて、龜崎に接してゐる。三河には、龜崎と相對して大濱港があつて、矢矧川が此處に注いでゐる。渥美半島は西に突出してゐて、其の端を伊良胡崎といふ。此處より東の方遠江の御前崎に至るまで、海岸が殆んど一直線をなしてゐる。遠江の西南岸に濱名灣として、東西二里餘、南北三里ばかりで、其の口が僅に町餘の入江がある。これはもと一の湖水であつたが、明應八年の地震のために、土地が陥没して内海となつたといふことである。此の國には、掛塚、福田の二港

横須賀

があるが、水が浅くて、大船を容れることが出来ない。御前崎は、遠く伊豆に對して、駿河灣を擁してゐる。此の邊は、岩礁屹立して風浪險惡の所である。駿河には、中央に清見瀨があつて、細長い洲が南に突出すること一里ばかり、白沙青松相映じて眺望が甚だ美しい。之を三保松原といふ。清水港は此の灣内にあつて、良港である。伊豆は大半島であつて、其の南端を石廊崎といふ。其の東南端に下田港がある。これは、我が國の開港歴史に關係のある有名の港である。伊豆七島は、此處から遙なる東南海上に散布してゐる島である。相模には、西に眞鶴崎、東に三崎があつて、其の中間の沙濱を洶綾磯といふ。三浦半島の東岸には、浦賀、横須賀の兩港がある。浦賀は開港歴史に名高い所、横須賀は第一海軍區の鎮守府の在る所で、東洋第一の造船所が此處にある。三浦半島の觀音崎は、上總の富津崎と相對して、東京灣の口を扼し、要害極めて堅固である。武藏には、本牧崎が少し突出して、横濱港を庇うてゐる。上總の西岸には、木更津港があつて、其の西南に富津崎が突出してゐる。安房には、西に面して館山港があつて、其の西端を洲崎といふ。上總の大東崎より東北に延びて、一帯の沙濱が二十里ばかりもつゞいて、弓形を爲してゐる。此處が所謂九十九里

本道の山

伊賀

で、鯉の漁獵を以て名高い。下總には東北に犬吠崎があつて、常陸の羽崎と相對して、銚子港を控へてゐる。海岸線が此處から一折して、直に磐城の界に至つてゐる。常陸には、中央に那珂港があつて、大洗は之に近く、其の北に平潟港がある。本道には、東山道の界に、山脈が連つてゐるけれども、平坦の地も少くは無い。其の中にも、相模から東は、平野が遠く續いて、關東の大平原を成してゐる。地味は肥瘠相半してゐて、河流は、伊賀を除くの外、概して東南に流れて海に注いでゐる。伊賀は東北に山が多く、西南に平地があるので、河流は東北に發源して、西に向つて流れる。高旗山、篠ヶ岳、靈山、寺山は、北近江の境に峙ち、茶臼山、鷹塚山は、西大和の間に聳え、伊勢の境に尾岳、大山岳、布引山などがある。伊賀川は、伊勢の柘植川と近江の河合川の合流であつて、服部川、長田川を合せて、山城に入つて、木津川となる。名張川は、其上流を梁瀬川といふ。伊勢大和の諸水合流して、山城に入つて、亦木津川に合する川である。築瀬川の沿岸大和の界に接して、梅

を以て有名なる月瀬がある。

伊勢は西には山があつて、東南はやゝ平坦で、土地は頗る肥えてゐる。

近江の界に藤原岳、鈴鹿山等の諸山があつて、少し其の南に方て錫杖岳、經ヶ

峯がある。伊賀の界には、布引山、尼ヶ岳等が並んでゐる。白倉山は大和に近く、

朝熊山は志摩の界に接し、多度山は美濃に接して峙つてゐる。三國山は、美

濃近江に跨かつてゐて、矢頭山は國の中央にある。宮川は大和紀伊の界か

ら來て、山田を過ぎて海に入る。其の北に櫛田川がある。此の外に五十鈴川、

鈴鹿川等の小流がある。

志摩の地脈は、西北から來て、海上に突出してゐて、土地は狭く、地味は瘠せて、

又記すべき程の山川もない。

尾張は、土地が平坦で、高山は無いが、東方には小丘が起伏して、半島中に連つ

てゐる。木曾川は國の西北を繞つて海に注いでゐる。地味は膏腴で、米穀は能

く登る。

小富士山は正北に在つて、美濃に接し、其の西南に、小牧山がある。之は古戦

場として名を知られてゐる所である。木曾川は、信濃から來て、美濃の界に

傍うて南に流れ、伊勢の界から海に入る。庄内川は上流を玉野川といふ、中

部の諸水を合せて海に入る。

三河は東北に山脈が連り、數條の河流があつて、土地は、肥瘠相半してゐる。

中央に本宮山があつて、其の脈が南北に亘つてゐる。其の東北に鳳來寺山

があつて、尾張の界に猿投山がある。矢矧川は、美濃の阿賀瀧山に發し、南流

して足助川を合せ、岡崎を過ぎて海に入る。大平川は、本宮山から出て西に

流れ、岡崎に至つて、矢矧川に合する。豊川は、東部の諸水を合せて、豊橋を経

て海に入る。此の三大河があるので、三河の國名が出來たといふことであ

る。

遠江の地勢は、北信濃の界は高峻で、南するに従つて平坦となつてゐる。

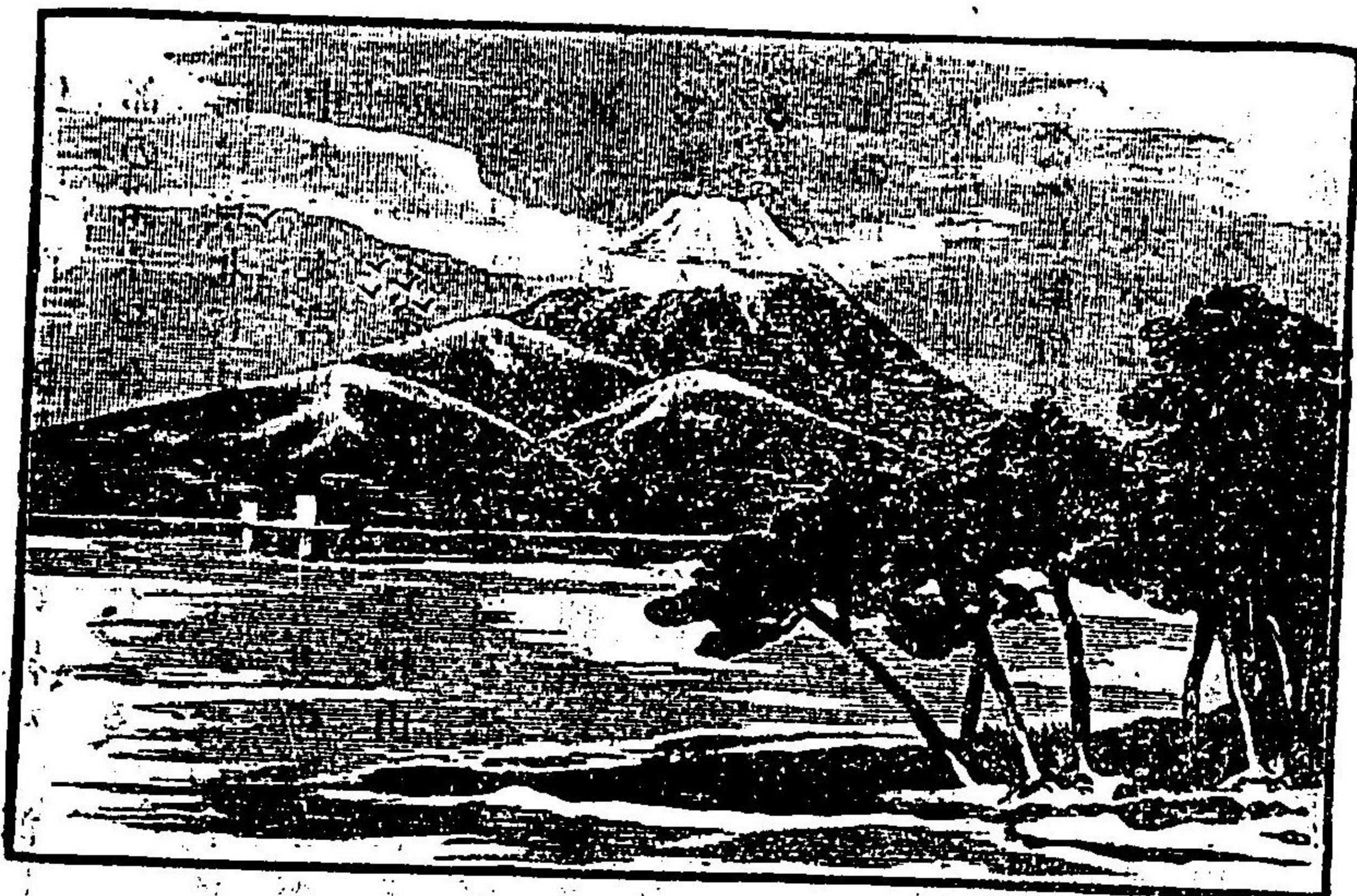
黒法師岳は、朝日岳と共に北隅に聳え、秋葉山は國の中央に峙ち、大日岳は

東境に屹立してゐる。天龍川は、信濃の諏訪湖から出て、秋葉山の西麓を過

ぎて、大小二派となつて掛塚港に注ぐ。此の川は急流を以て名を知られて

ゐる。大井川は、甲斐の白峯から出て、駿河の境に沿うて海に入る。此の川は

洪水のために、其の河道が幾度か變つたといふことである。



駿河は、北に富士山を負ひ、其の脈伊豆に亘つてゐる。西北は、山岳重疊して土質礫確である。

富士山は最も著名の高山で、甲斐に跨り、其の状は播鉢を伏せたやうで、何れから見ても同じである。頂上には噴火口があつて、東腹に寶永山がある。寶永山は寶永年間の噴火で生じたものである。其の麓に愛鷹山があつて、西方には高根山、大日岳等が並んでゐる。中部に久能山があつて、宇津谷嶺と並立してゐる。富士川は、甲斐から來て、東南に流れて田子浦に入る。水勢極めて急であるので、駿河の名

富士山景

が起つたといふことである。安倍川は、大河内、中河内、西河内、三川の合流であつて、静岡の西を経て海に入る。

甲斐は山國で、四面に山岳が重疊してゐるが、中央は平坦で、美田が多い。白根山、地藏岳等は西隅に聳えてゐて、其の脈は北に走つて駒ヶ岳、八ヶ岳、金峯山等となり、東走して、武蔵の秩父山に續いてゐる。是より一支脈が西南に亘つて、大菩薩山、天目山等となつてゐる。西南駿河の境に七面山、身延山などがある。笛吹川、釜無川は北境から出て、市川町の近傍で、合して富士川となつて南に流れる。桂川は、山中湖から出て、相模に入つて、相模川となる。伊豆の山脈は相模から來て、其の餘勢が海に入つて、更に豆南諸島を起してゐる。土地は最も礫確である。

箱根山は相模の境に跨つてゐて、天城山は、高く中央に屹立してゐる。天城の山林は、良材を以て名高い。狩野川は天城山から出て、北流して駿河に入る。

相模は西に山岳連亘し、東に丘陵が起伏してゐて、地味は概ね肥えてゐる。箱根山中に駒ヶ岳、二子山等があつて、其の北に足柄山がある。大山は國の中

中央にある高山で、山上に雨降神社がある。世に大山参りといふのは、此の社に参詣するのである。相模川は、甲斐の桂川の下流で馬入を過ぎて海に入る。故に又馬入川といふ。酒匂川は、富士山麓から来て、小田原の東に至つて海に入る。

武蔵は、北に利根川東に江戸川があつて、西部の外は、すべて平野で、数十里の廣さに亙つてゐる。

秩父山麓は西方に在つて、甲斐、信濃、上野の境に連つてゐる。武甲山、三峯山、兩神山等は、其の山麓中の高峯である。多摩川は甲斐から来て、東流して東京灣に注ぐ。其の下流を六郷川といつて、水が極めて清澄である。東京市の飲用水となつてゐる。玉川上水は、此の水を引いたものである。荒川は秩父山中の水を集めて東北に流れ、更に東南に轉じ、東京に至つて、東京灣に注ぐ。其の下流を隅田川といつて、其の沿岸に櫻の名所がある。江戸川は、利根川の分流で、武蔵下總の間を流れて、東京灣に入る。

安房は、北方に山を負ひ、其の一支脈が南に走つてゐて、土質は肥瘠相半してゐる。

鋸山は北隅に聳えてゐて、遠く之を望めば、恰も鋸状の如くである。其の脈が上總の境に走つて清澄山となる。

上總は南に山を負ひ、北に平地を有してゐる。

山脈は安房の境から来て鹿野山となり、其の他に小山が多い。養老川、小櫃川は、何れも清澄山から出て、西北に流れて東京灣に入る。夷隅川、一宮川は東流して外洋に注いでゐる。

下總は有名な平地で、全國に山が無く沼澤が極めて多い。

利根川は、阪東太郎といつて、其の源は、上野の文珠山から出て、兩野の水を集め、武蔵の境を経て關宿に至つて、江戸川を分つてゐる。其の本流は絹川を合せて東に流れ、銚子に至つて外洋に入る。河口には巨石が亂立して、水流相激してゐる。

常陸は、山脈が磐城から来て、南走して下野に連つてゐて、南方に平野がある。北方には山岳相連り、南方曠原の中央に、筑波山が屹立してゐる。足尾山、加波山等は相延いて下野に連つてゐる。那珂川は、下野から来て、水戸の北を過ぎて、那珂港に至つて、鹿島灘に入る。久慈川は、磐城下野の境にある八溝

湖水

平原

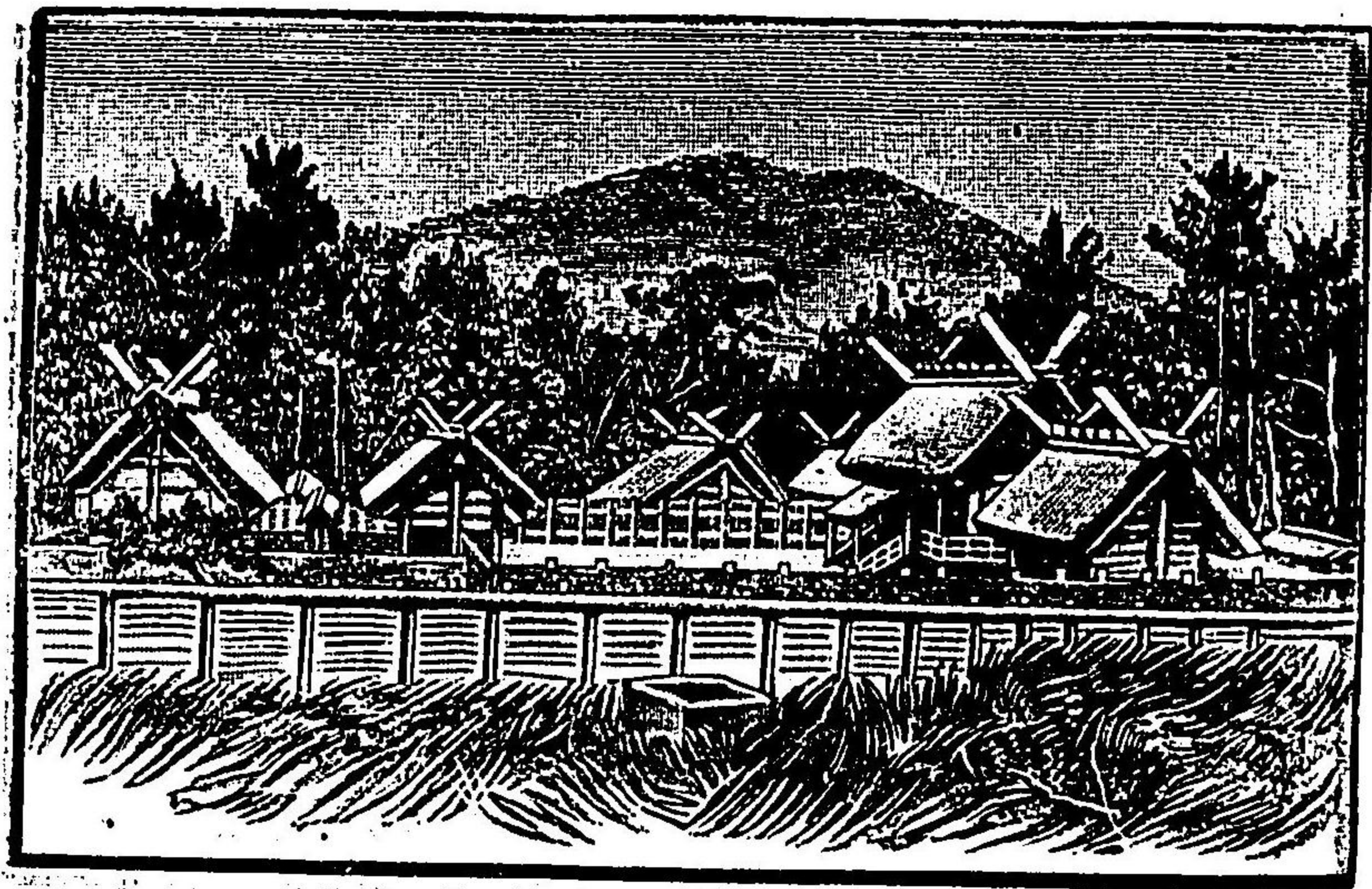
(90)

山から出て、南に流れて海に入る。
 左に本道著名の湖水を挙げやう。
 常陸の霞ヶ浦は、琵琶湖に次いでゐる大湖水で、周回が三十六里ある。其の東に北浦といふ周回十五里の湖がある。兩湖の水は相合して浪逆浦から利根川に入る。
 下總の印旛沼は、周回十二里、舟楫の便、魚蝦の利に富んでゐて、同じく利根川に通ずる。
 富士の八湖とは、甲斐の川口湖、山中湖、本栖湖、西湖、精進湖、四尾連湖、駿河の平富士湖、相模の蘆湖を合せていふのである。
 平原は、遠江に三方原、牧野原、駿河に大野原、甲斐に富士裾野、相模に相模原、下總に小金原、習志野、常陸に女化原がある。富士裾野は、全面焼土であつて、五穀は登らない。東西三里、南北七里ある。
 鑛泉は、伊勢に湯山、甲斐に湯林、伊豆に熱海、伊豆山、修善寺、相模に湯本、塔澤、宮下、堂島、底倉、木賀、藤湯以上箱根七湯、常陸に湯島等がある。熱海は、伊豆の東北隅にある。其の泉は、晝夜六回づゝ、時を定めて噴出する間歇泉である。

都會
四日市

名古屋

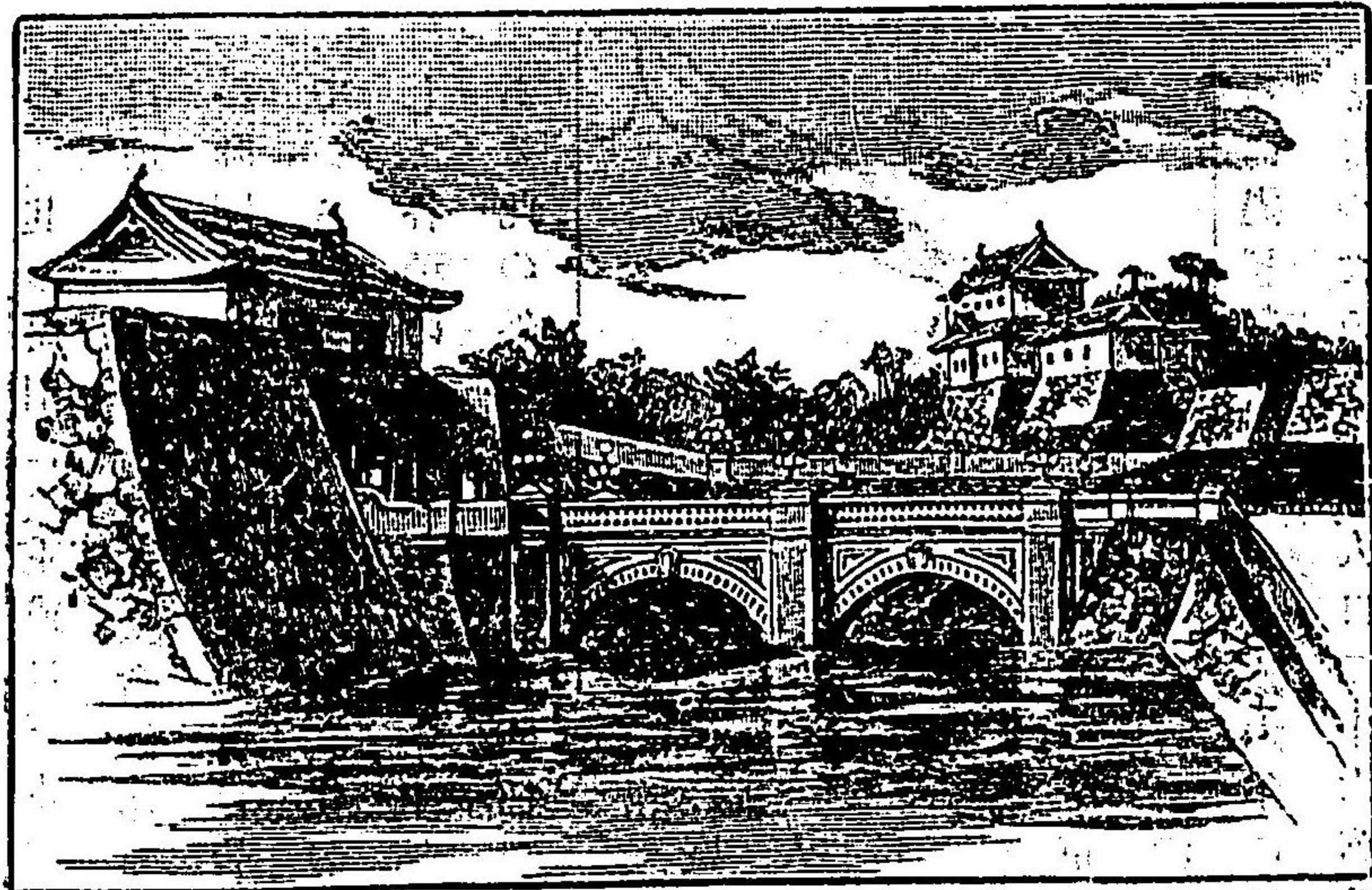
(91)



伊勢神宮

都會

伊勢の津市は、阿漕浦に臨んでゐて、三重縣廳の所在地である。絹子織、紗織、阿漕焼は此の地の産物である。人口三萬三千。宇治山田町は大廟の在る所で、宇治の内宮には、天照大神を祭り、山田の外宮には、豊受大神を祭つてゐるので、諸國から参拜するものが、四時絶えない。伊勢参りと稱するのが即ち之である。故に市況は甚だ賑がである。人口二萬七千。
 尾張の名古屋市は、徳川氏の舊城下で、金の鯨を以て名高い。今

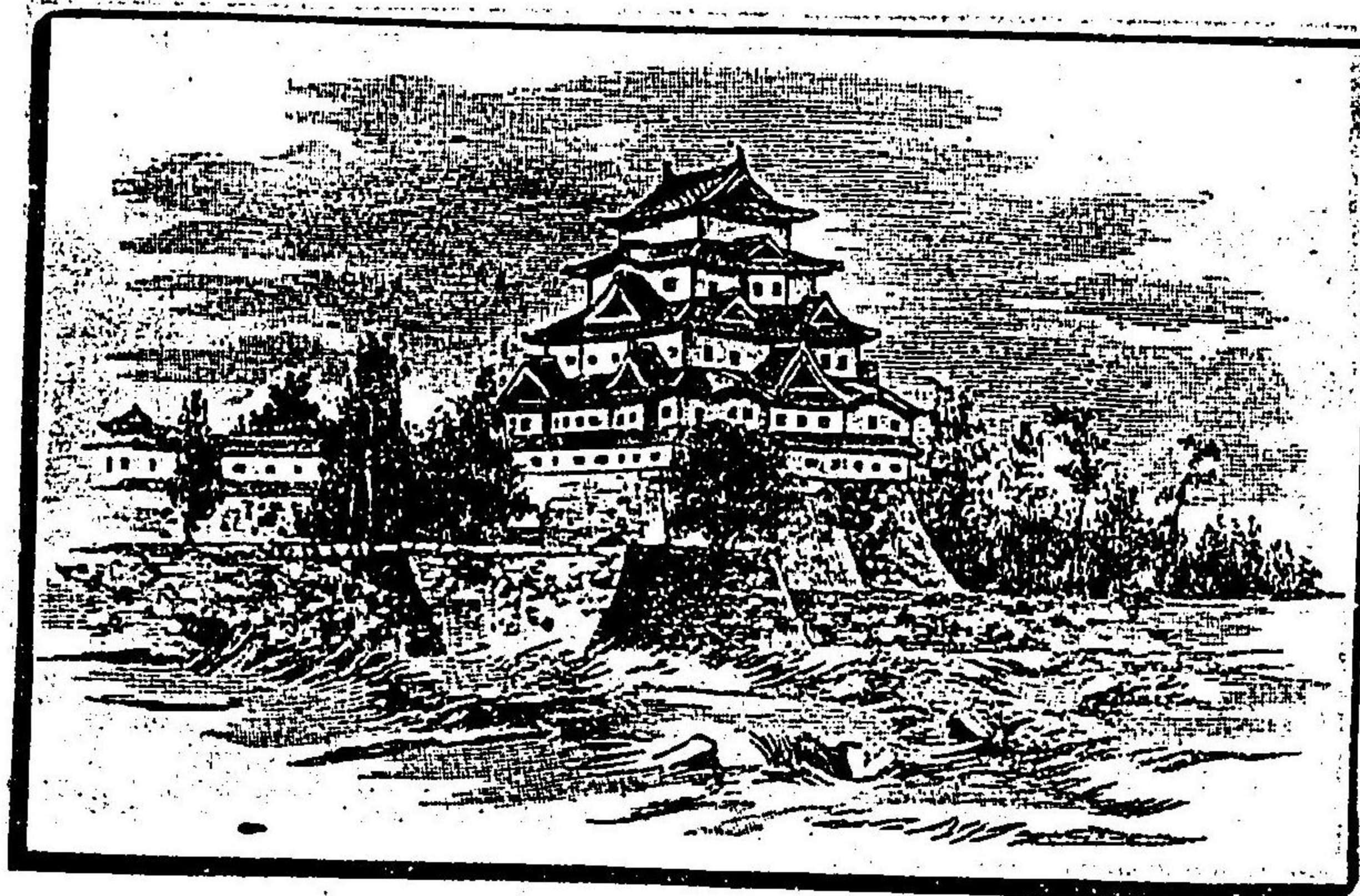


宮 城 二 重 橋

ともいふ。静岡縣廳の所在地で、市況は繁盛である。人口四萬二千。

甲斐の甲府市は、山梨縣廳の所在地で、四方物産の集散市場である。ために商況甚だ盛である。人口三萬七千。

武藏の東京市は、中央政府及び東京府廳等の所在地で舊名を江戸といひ、徳川幕府の在つた所である。南に東京灣を控へ隅田川は東部に流れ、數多の鐵道は、此處を起點として、八方に通じてゐるので、交通の便利を極めてをる。皇城は市の中央にあ



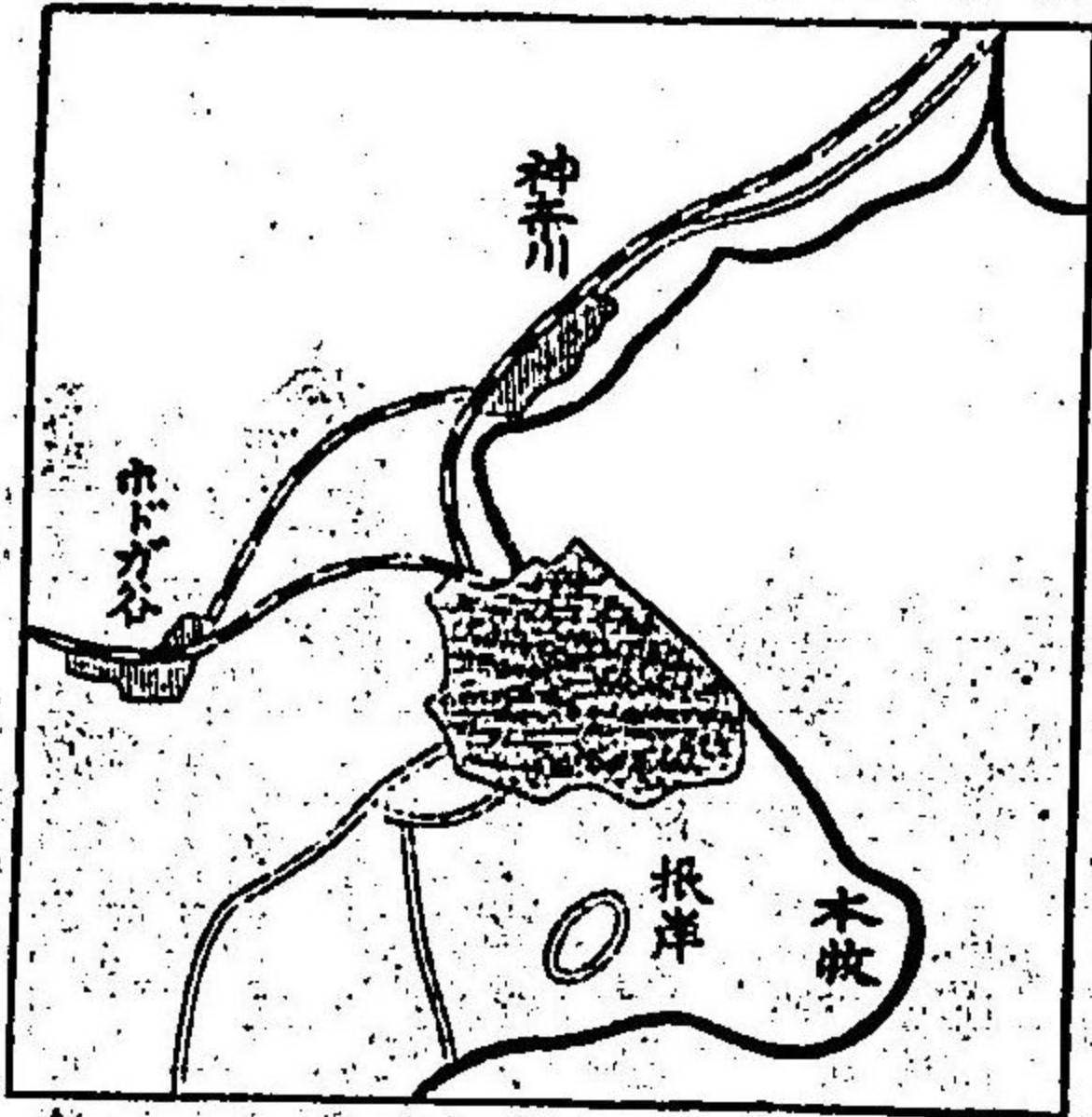
名 古 屋 城

では第三師團の司令部が置いてあつて、其の牙城は離宮になつてゐる。愛知縣廳は此處にあつて、尾張三河の二國を管轄する。此の地はもとより、東海道の大都會であつたが、鐵道が開通してから益々繁昌になつて、本邦第四の大都會になつた。名古屋扇、七寶燒、紡績絲、陶器等が此の地の産物である。人口二十四萬四千。

○熱田は熱田神宮の在る所で、俗に宮といひ、伊勢に渡る要津である。

駿河の靜市は、駿府又は府中

横濱



るに過ぎなかつたが、安政六年に外人と互市を開いてから、俄に繁盛の地となつたのである。人口二十六萬千。

200000 濱 横

つて、其の周圍に二重或は三重の濱を繞らし、内閣、宮内省、樞密院、近衛師團は城内に、他の諸官省、國會議事堂、大審院、控訴院、行政裁判所、會計検査院第一師團、警視廳、外國公使館等は皆城外にある。此の市は、單に政治の大中心であるばかりではなく、又文化の大中心であつて、東京帝國大學を始めとして各種の高等専門學校、中學程度の諸學校等が、此處彼處に設けられてある。此の外に、東京帝室博物館、動物園、植物園、圖書館等の文化に必要なものは、殆んど備はらないものはない。商業の盛なこと本邦第一で、市内熱鬧を極め、詩人は紅塵萬丈と稱する程であるが、又各所に公園があつて、樹木鬱蒼としてゐて、殆んど別天地の感がある。人口百四十四萬、横濱市は、神奈川縣廳の所在地で、本邦第一の開港場である。此の地は、もと海濱の一漁村たるに過ぎなかつたが、安政六年に外人と互市を開いてから、俄に繁盛の地となつたのである。人口二十六萬千。

物産

屬島

物産

常陸の水戸市は、茨城縣廳の所在地で、北に那珂川を帶び、南に千波沼を控へてゐる。此の地は、徳川氏の舊城下で、弘道館、偕樂園などは、今に其の舊型を存してゐる。人口三萬三千。

伊賀に薪炭、松茸等、伊勢に水晶茶、木綿、蝦子織、紗織、萬古燒等、志摩に魚類、海藻等、尾張に瀬戸燒、七寶燒、扇子、有松絞、海參、海鼠腸等、三河に石材、砥石、茶、木綿等、遠江に茶、木綿、椎茸、材木等、駿河に茶、漆器、紙、竹細工等、甲斐に水晶硯石、生絲、甲斐絹、郡内紬、葡萄等、伊豆に石材、薪炭、椎茸、雁皮紙等、相模に石材、烟草、生絲、織物、湯本細工、鏝等、武藏に紡績絲、生絲、西洋紙、海苔、織物、鍔物、團扇、錦繪等、安房に魚類、磨砂等、上總に茶、薪炭、魚類等、下總に木綿、結城紬、佐倉炭、醬油、味醂等、常陸に石材、木綿、紙、烟草、魚介等、

屬島

伊豆七島は、伊豆の東南海上四十里ばかりの所に羅列してゐる島で、大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島の七つである。八丈島と御倉島との間に黒瀬川といふ潮流がある。幅二十町程あつて急潮が東奔してゐる。

小笠原島は八丈島の南東百八十里の所にある大小九十四の島嶼で、此の中、父島母島の二島が最も大きい。これは文祿二年に小笠原貞頼の發見したので、此の名がある。地が熱帯に近いために椰樹、鳳梨等が繁生してゐる。

第三 東山道

東山道は、本土の中央から東北に亙つてゐて、中山道と奥羽との二部に分れる。下野から西は中山道で、磐城以北が奥羽である。

境界 北 津輕海峽

東 太平洋

南 東海道

西 日本海、北陸、畿内、山陰

面積 六千八百四十九方里、人口 九百三十餘萬

本道を分けて、近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後、の十三國とし、更に之を小別して十四市百卅七郡とする。

近江(二市十二郡) 大津市、滋賀、栗太、野州、甲賀、蒲生、神崎、愛知、犬上、阪田、東淺井、伊香、高島

伊香、高島

美濃(二市十五郡) 岐阜市、稻葉、羽島、海津、養老、不破、安八、揖斐、本巢、山縣、郡上、武

儀可兒、土岐、惠那

飛騨(三郡) 大野、益田、吉城

信濃(一市十六郡) 長野市、南佐久、北佐久、小縣、諏訪、上伊那、下伊那、西筑摩、東筑

摩、南安曇、北安曇、更級、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内

上野(二市十一郡) 前橋市、高崎市、勢多、群馬、多野、北甘樂、碓氷、吾妻、利根、山田、新

田、邑樂、佐波

下野(一市八郡) 宇都宮市、足利、安蘇、上都賀、下都賀、河内、芳賀、鹽谷、那須

磐城(十郡) 東白川、西白川、石川、田村、石城、雙葉、相馬、刈田、伊具、互理

岩代(一市十郡) 若松市、信夫、伊達、安達、安積、岩瀬、南會津、北會津、耶麻河沼、大沼

陸前(一市十三郡) 柴田、名取、宮城、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉、黒川、加美、志田

玉造

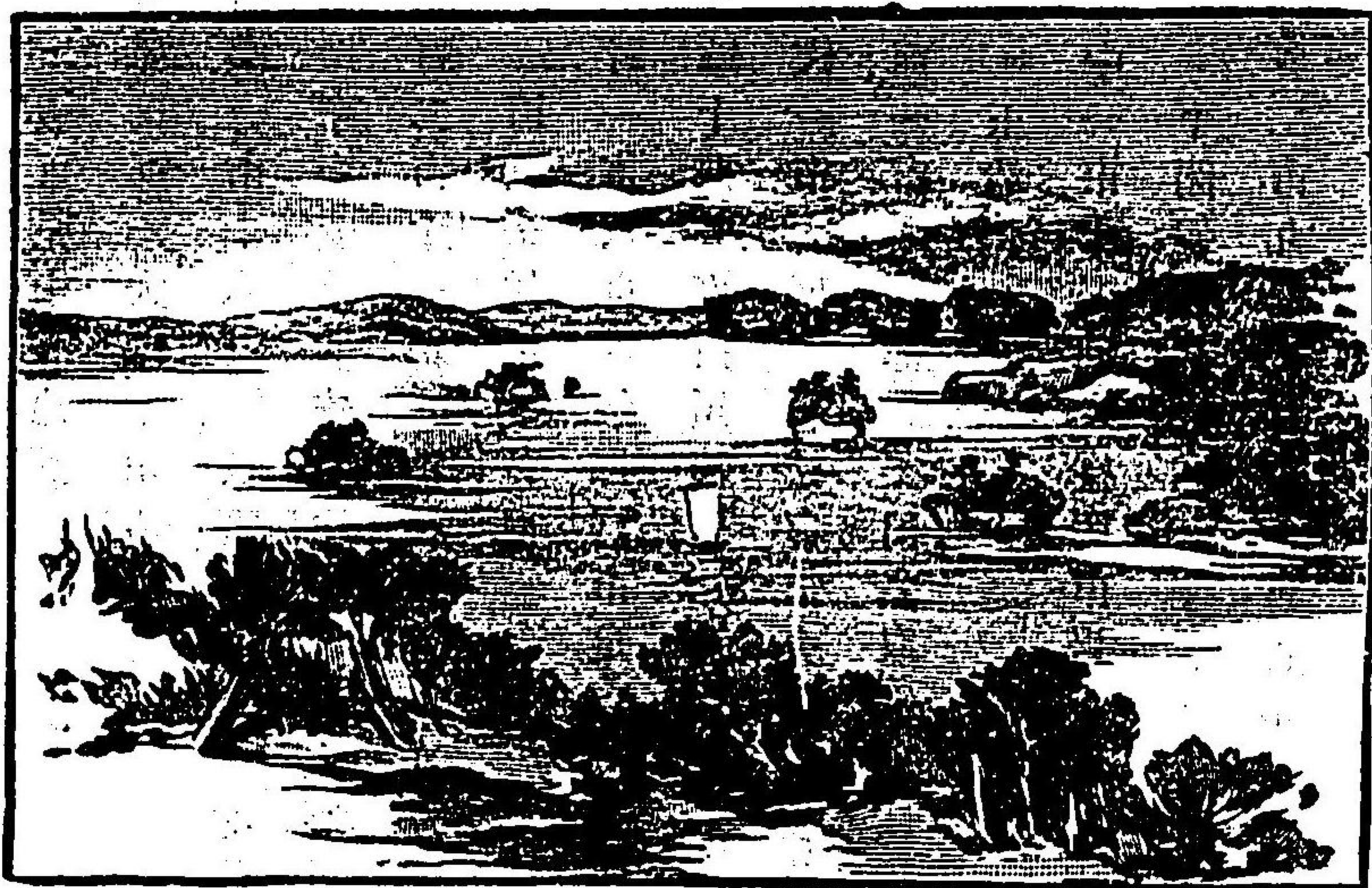
陸中(一市十二郡) 盛岡市、岩手、紫波、稗貫、和賀、江刺、西磐井、東磐井、膽澤、上閉伊

下閉伊、九戸、鹿角

陸奥(二市九郡) 弘前市、青森市、東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、上北、下北、三戸、二戸

氣候

(98)



羽前(二市九郡) 山形市、米澤市、

南村山、北村山、東村山、西村

山、最上、東田川、西置賜、東置

賜、南置賜、

松 羽後(一市九郡) 秋田市、南秋田、

北秋田、山本、河邊、由利、仙北、

平鹿、雄勝、飽海、

本道は、西南から斜に東北に延

の 長してゐて、氣候の寒暖は、處に

よつて、甚しい差異がある。中山

道の飛騨、信濃は、積雪深く、寒氣

が強い。奥羽では、陸中、陸奥、兩羽

が最も寒く、氷雪が多い。其の外

は、大概溫和である。

中山道と岩代とは、海に臨んで

沿海

松島

(99)

地勢

近江

のない。今奥羽の沿海を略叙しやう。磐城には南に小名濱港があつて、阿武隈河口に荒濱港がある。沿岸は概ね水が淺くて著しい岬港はない。陸前に牡鹿半島が海に突出して仙臺灣を抱いてゐる。灣内に無数の小島があつて、松が茂つて美しい。是れが即ち有名松島である。石巻港は北上河の口にあつて、此の國の良港である。陸中には南に釜石港、其の北に山田港、尙其の北に宮古港がある。陸奥には馬淵川の口に八戸港がある。斗南半島は本土の最北端に突出してゐる半島で、形は恰も斧の如く、津輕半島と相對して、陸奥灣を抱いてゐる。灣内は二つに分れて、野邊地灣、青森灣となつて、同名の港がある。津輕半島の西部に十三瀨といふ周圍六里餘の湖水があつて、海水が相通じてゐる。羽後には男鹿半島が日本海に斗出して、八郎瀨を包んでゐる。土崎港は御物河口に、酒田港は、最上河口にある。

本道には、一般に山が多く、其の中にも、中山道は山嶺重疊して、河流は、北陸、東海の二道に流れ、奥羽地方は東西二方に流れる。地味はおしなべて肥沃である。近江は四境に山があつて、中央に大湖を抱き、地味は肥えてゐる。

甲賀山は南方に聳え、大湖の東南に三上山がある。三國山は美濃伊勢の界にあつて、其の脈が北に赴いて釋迦山となり、遙に伊吹山に連つてゐる。湖北に賤岳がある。比叡山、比良山、石山は共に湖西にある。勢多山は大湖から出て、南流して山城の宇治川となる。四境の山岳から流れて湖水に注ぐ諸川は、其の數が極めて多いが、皆小流である。

美濃は東北西の三方に山があつて、中央と西南とに平原がある。地味は膏腴である。

伊勢の境に烏帽子岳があつて、三國山は之についで近江に跨つてゐる。大日岳は飛驒越前の境に、惠那山は信濃の境に峙つてゐる。木曾川は信濃から來て、飛驒川を合せて尾張の境に沿うて、伊勢の間に入る。長良は大日岳から出て、糸貫川を合せて墨股川となつて、木曾川に合する。揖斐川は西隅から出て、勢飛の境で、木曾川に入る。

飛驒は有名の山國で、平地は甚だ少ない。

乗鞍岳は信濃の界に聳えてゐて、其の脈がうねくとして越中の境に達する。國の中央に位山があつて、川上岳が其の南にある。益田川は、乗鞍岳の

大池から出て、美濃に入つて飛驒川となる。宮川は川上岳から起つて高原川と共に越中に入つて神通川となる。白川は西部の水を集めて北に流れ、越中に入つて射水川となる。

信濃も山岳が重疊してゐて平地が少く、土質礫礫である。

北方越後の境に接して戸隠山、黒姫山、高妻山、乙妻山等がある。有明山は飛驒の烏帽子岳と連なつて南に走り、御嶽の高峯を起してゐる。此處から南は、所謂木曾山中で、群山連り聳えてゐる。木曾川を越えたと惠那山が高く、美濃の境に聳えてゐる。西南に駒岳があつて、御嶽に對して木曾川を夾んでゐる。姥捨山は國の中央に在つて、千曲川に臨み、觀月の名所である。三國山は、武藏上野の間に在つて、其の脈は北に走つて、荒船山、碓氷嶺、淺間山、吾妻山、白根山等の諸山となり、上野の境を限つてゐる。淺間山は有名の火山で、常に黒烟を吐き、時々爆發して灰石を飛ばすことがある。赤石山は天龍川、大井川の間に聳えてゐる大高山である。天龍川は諏訪湖から出て、南流して遠江に入る。千曲川は甲斐の金峯山から來て、北流して犀川に合し、尙北走して越後に入る。犀川は駒岳から出て、其の支流に數多の小川がある。

上野

下野

上野は西南に山岳が連り聳え、東南は概して平野で肥えてゐる。信濃の境に白根、淺間、碓氷等の諸山がある。妙義山は碓氷の東南に峙ち、榛名山は利根川を夾んで、赤城山に對してゐる。伊香保温泉は、榛名の山腹にあつて、浴客が輻輳してゐる。利根川は文珠山から出て、吾妻川、烏川、片品川を合せ、武藏の境を東流してゐる。片品川は戸倉山中から出て、蕪川、神流川と共に、東に流れて烏川に入る。

下野は西北二方に山を負ひ、中央に平地があるが、多くは瘠せてゐる。

北境に那須岳がある。其の高峯を茶白山といつて噴火山である。日光山は國の西邊にあつて、其の高峯を黒髮山(一名男體山)といふ。山中に中禪寺湖があつて、其の水が溢れて華嚴瀧となり、山麓に東照宮があつて、結構壯麗を極めて實に天下の名區である。日光の西に白根山があつて上野に跨つてゐる。其の南に庚申山、二子山がある。二子山の東は即ち足尾銅山である。那珂川は那須山中の男鹿沼に發し、諸川を合せて常陸に入る。鬼怒川は北隅の衣沼から出て、日光山から來る大谷川を合せて南に流れ、渡瀬川は上野から來て東流し、共に下總に入つて利根川に合する。

磐城

岩代

陸前

磐城は山脈が岩代から來て、常陸の境に連つてゐる。土地が半は礫礫である。常陸下野の境に入溝山があり、西南隅には旭岳、甲子山などがある。東南部及び岩代の境には群山連り聳え、陸前羽後の境に藏王岳が峙つてゐる。阿武隈川は甲子山中から出て、岩代に出入して、益、大河となつて、陸前の境から東折して海に入る。此の川は大きいけれども、舟楫の便が乏しい。

岩代は北方から山脈が來て、一は磐城に入り、一は羽前越後の間に蹠る。中央猪苗代湖の近傍が、少しく平坦である。

東苗代湖の北に磐梯山がある。飯豊山は高く、羽越の境に聳えて、其の脈は東に走つて吾妻山となる。上野の境に接して赤安山、燧岳がある。其の北に駒ヶ岳が連り、尙其の東北に七ッ森山がある。日橋川は、猪苗代湖から出て、西に流れて、黒川、鶴沼川、只見川等を合せ、越後に入つて阿賀川となる。

陸前は西北南の三方は山が連つて、中央は、土地平衍で良田が多い。磐城の境に藏王岳があつて、其の脈が北に走つて、諸山を起してゐる。仙臺の西北に泉岳があり、陸中羽前の境に酢川岳が高く聳えてゐる。北上川は陸中から來て、二派に分れ、一は南流して石巻に入り、一は東流し

陸中

て長面濱から海に入る。追波川が是である。北上川は、七十餘里の間舟楫を通じて、運漕の便あることは、本邦諸川の第一である。鳴瀬川は西境から来て、國の中部を貫いて野蒜港に注ぐ。陸中には、羽後の境に山岳が連り、一條の山脈が、又、中央に連つてゐる。土地は概して礫確である。

陸奥

岩手山は、盛岡の西北に聳えて、姫神山に對し、早池峰岳はやちねは殆んど國の中央に峙つてゐる。北上川は國の北境から出て、國の中央を流れて、諸を水合せ終に陸中に入る。能代川は、陸奥から来て、北に折れ、更に轉じて、羽後に入る。馬淵川は、北邊に發して、西北に流れて、陸奥に入る。陸奥は、山脈が中央を貫いて、南走してゐる。東部には曠野があるが、多くは不毛である。西部は之に反して、稍、肥えてゐる。岩木山は、一名を津輕富士といつて、西部に峙つてゐる。八甲田山中央にあつて、其の東北に八幡山がある。恐山は、斗南半島にあつて、噴火山である。津輕半島から、陸中の境にかけて、群山が連り聳えてゐる。岩木川は、羽後境の泊岳から出て、北流して、十三瀨に注ぐ。馬淵川は、陸中から来て、諸川を合せ、

羽前

八戸に至つて海に入る。能代川は、稻度岳から出て、西流して、陸中に入る。羽前は、越後岩代の境から山脈が来て、中部に連り、北方に平地がある。土質は肥瘠相半してゐる。

羽後

國の中央に、月山、葉山、湯殿山がある。羽黒山は、羽後に接して、最上川の南岸に峙つてゐる。越後の境に朝日岳があり、岩代の境に吾妻山、大日岳があつて、其の脈は西に走つて、飯豊山に連つてゐる。最上川は、上流を松川といつて、大日岳から出て、米澤を過ぎて、から最上川となり、北流して、諸川を合せ、羽後の境から海に入る。此の川は、流れが急で、舟楫の利に乏しい。羽後には、陸奥の山脈が北から来て、別に羽越山脈が國の西南に起つてゐる。土地は概して礫確である。大平山、森吉山、大佛岳は國の中央に鼎立し、田代山、高祖山、袴越山等は、北境に聳え、西南には、鳥海山が高く、海邊に聳えてゐる。御物川は、院内銀山から出て、北流して、諸川を合せ、秋田を過ぎ、土崎に至つて海に入る。能代川は、陸中から来て、大館川、小阿仁川等を合せて、西に流れて、能代港に注ぐ。最上、御物、能代の三川を、羽州の三大川といふ。

著名の湖沼

近江の琵琶湖は本邦第一の大湖で、周回六十餘里に達する。其の中に沖島、多景島、竹生島等があつて、風光絶佳である。其の水は南に流れて勢田川となる。勢田の大橋は、此の川に懸つた橋である。

岩代の猪苗代湖は、周回十六里餘の大湖水で、中に翁島がある。

羽後の八郎潟は、周回十五里、陸奥の小河原沼は十三里餘、陸奥の十和田湖は十里、下野の中禪寺湖は八里、信濃の諏訪湖は四里餘の湖水である。

瀑布の著名なものは、飛騨の白水瀑、羽後の白糸瀑、下野の華嚴の瀑等である。平原の大きなものは、美濃の各務野、上野、信濃の浅間野、下野の那須野、陸奥の一本木野、陸奥の三本木原、羽後の若林野、大野臺、金光寺野等である。那須野は最も大きく、東西六里、南北十里もあるが、土壌が荒廢してゐる。三本木野は、東西八里、南北三里餘、相阪川が其の中央を流れてゐるが、亦不毛の荒野である。

都會

近江の大津市は、滋賀縣廳の所在地であつて、琵琶湖の南岸に在る。此の地



長良川の鵜飼

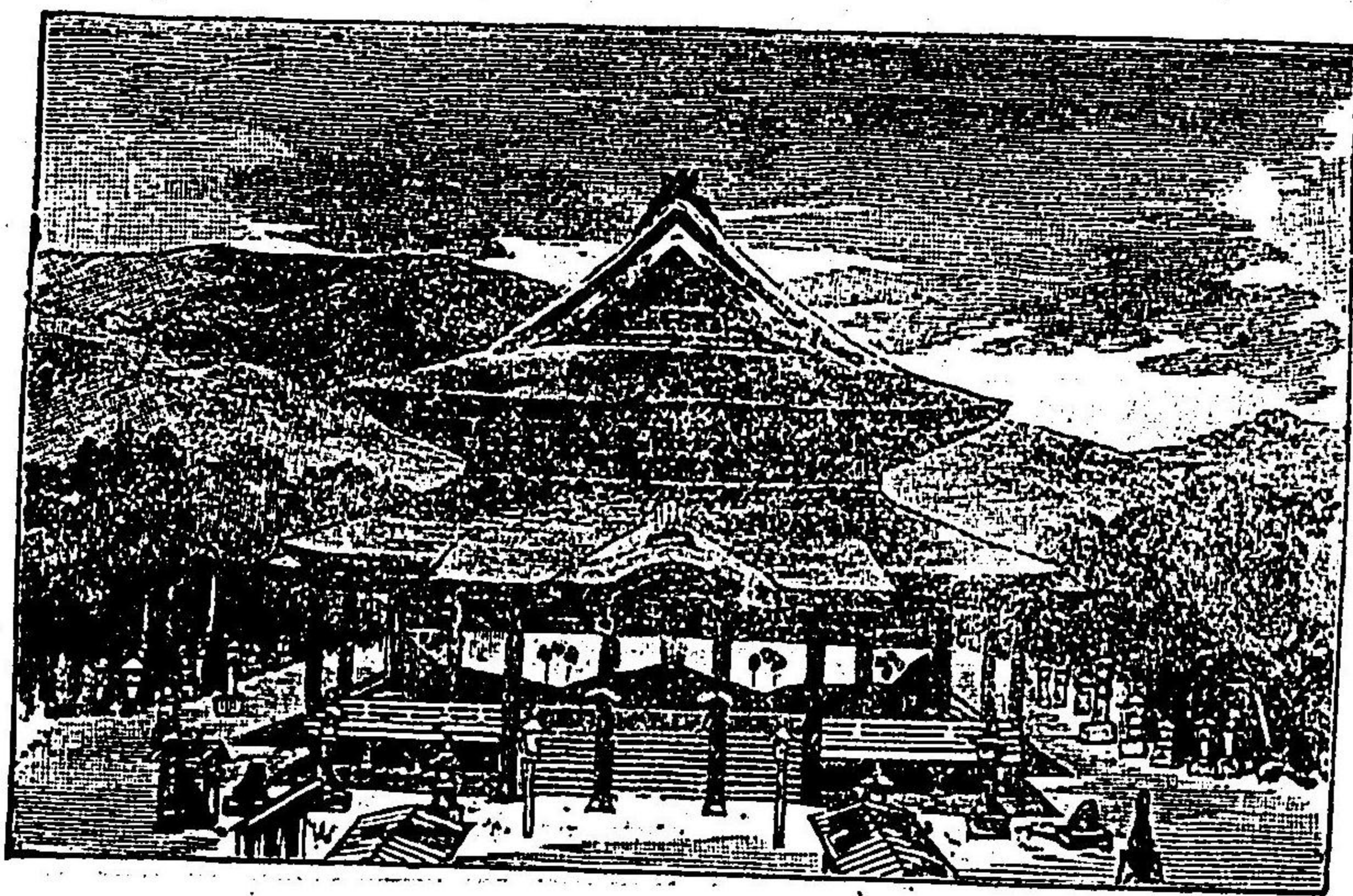
は、湖上を廻航する蒸汽船の發著所でもあり、又、京都に接近してゐるので、貨物の出入も多く、商業が盛大である。人口三萬四千。

美濃の岐阜市は、岐阜縣廳の所在地で、東に稻葉山を負ひ、長良川に臨んでゐる。名古屋、米原と鐵道の便利が開けて、市況も賑かである。

美濃紙、岐阜提灯は此の地の名産である。長良川の鵜飼も其の名が聞えてゐる。人口三萬一千。岐阜の西に大垣がある。これも繁華の所である。

信濃の長野市は、長野縣廳の所在地で、信越鐵道の通路に當つてゐる。

高橋 前橋



善光寺

るのと、善光寺の大伽藍があるの
とに因て、市街が賑かである。人口
三萬一千、千曲川、犀川の兩河は、市
の南方で合流して信濃川となる。
兩河の間は即ち川中島で、武田上
杉の古戦場である。松本町は、信州
第二の都會で、犀川の上流に臨ん
である。此の附近は養蠶業が極め
て盛大である。
上野の前橋市は、群馬縣廳の所在
地で、生絲取引の極めて盛な所
である。人口三萬四千。高崎市は前橋
の西南で、汽車時僅に二十分の所
にある。人口三萬。上野第二の都會
である。

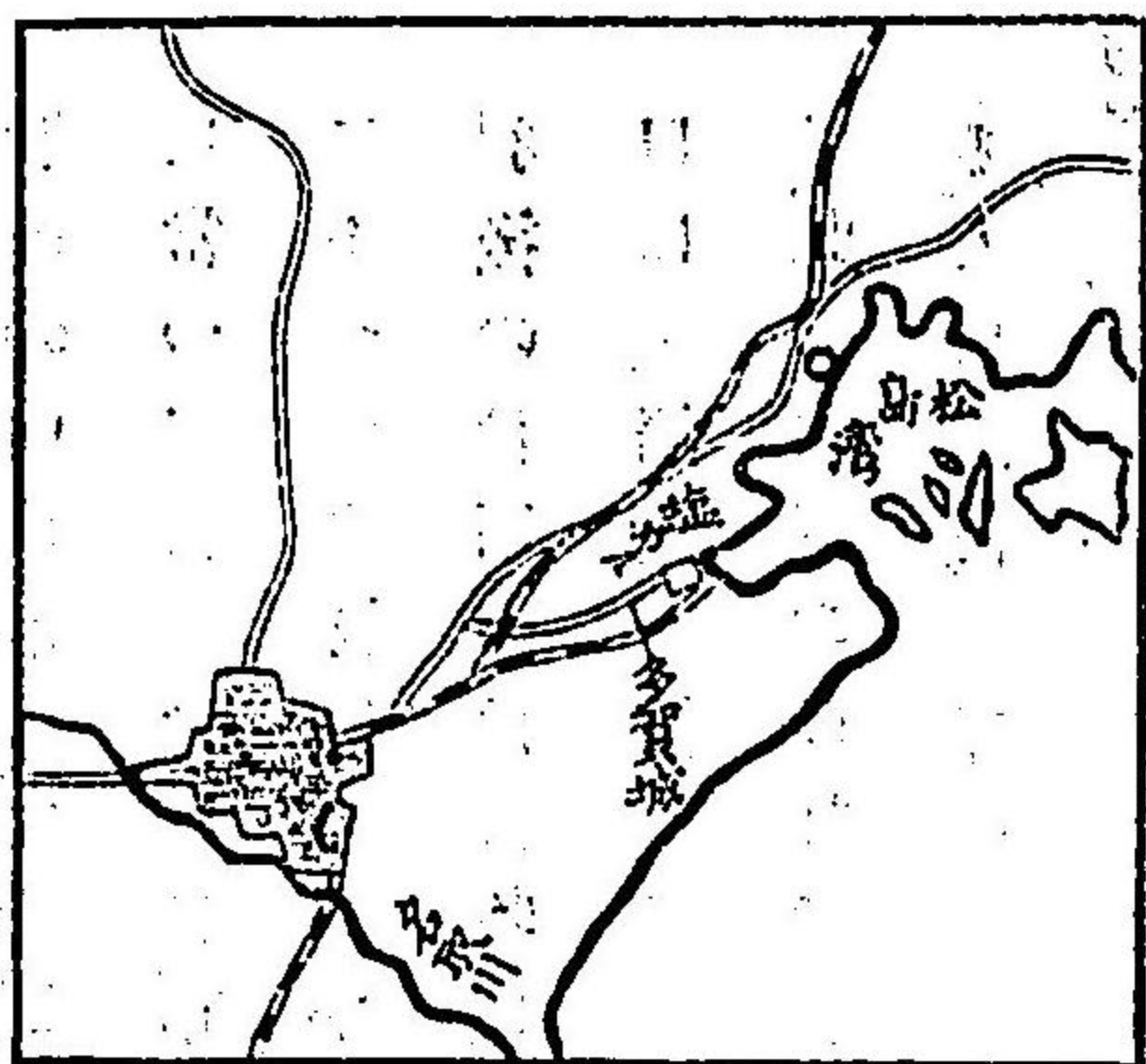
宇都宮

若松

福島

仙臺

盛岡



仙臺 近附 1/500000

下野の宇都宮市は、栃木縣廳の所在地で、下野第一の都會である。日光鐵道
は、此の地で奥州線と連絡して、日光に通じてゐるので、市況が賑かである。
人口三萬二千。足利町は國の西南にあつて、織物の名所である。
岩代の若松市は、猪苗代湖の西に在つて、舊名を會津といひ、維新の史上に

名高い。會津塗、會津焼は此の地の産物であ
る。近頃鐵道が開通したので、交通が便利に
なつた。人口二萬九千。福島町は福島縣廳の
所在地で、生絲、蠶卵紙の取引を以て名高い。
岩代第二の都會である。

陸前の仙臺市は、東山道第一の都會で、宮
城縣廳、第二師團、控訴院、第二高等學校等の
所在地である。人口八萬三千。仙臺平織、埋木

細工は此の地の名産である。

陸中の盛岡市は、岩手縣廳の所在地で、北上川の東岸に臨んでゐる。南部縮
緬、蠶絲等は、此の市の名産である。

弘前 森青

山形

米澤

秋田

物産

(110)

陸奥の弘前市は第八師團の所在地で、國中第一の都會である。人口三萬四千。津輕塗は此の地の名産である。青森市は青森縣廳の所在地で陸奥灣の良港である。人口二萬八千。

羽前の山形市は山形縣廳の所在地で、國の東部に位してゐる。四通の要路に當つてゐるために、市況繁盛である。人口三萬五千。米澤市は山形の南方にあつて、米澤織の産地である。人口三萬。

羽後の秋田市は、御物川の東岸に臨んでゐて、秋田縣廳の所在地である。河口に土崎港を控へてゐて市況が賑かである。人口二萬九千。有名秋田藩は、此の附近の産物である。酒田は最上川口にあつて、國中第一の良港である。人口二萬一千。

物産

近江に茶、縮緬、羽二重、天鵝絨、艾、壺表等。美濃に紙、生絲、提灯、及物等。飛騨に材木、獸皮、硫黃、砥石等。信濃に生絲、織物、蕎麥、寒水石、材木等。上野に生絲、織物、茶、麻等。下野に銅、蠟石、材木、綿、織物、漆器、麻等。磐城に生絲、馬、石炭、紙布等。岩代に生絲、銀、漆器、陶器、鐵瓶等。陸前に織物、味噌、魚類、埋木、細工。

等。陸中に牛、馬、鐵瓶、銅、織物等。陸奥に硫黃、牛、馬、漆器、晒蠟、林檎等。羽前に生絲、織物、漆器等。羽後に材木、生絲、漆器、銀織物、蔭、林檎等。

第四 北陸道

境界 北 日本海、東海道 東 東山道

南 東山道 西 日本海、山陰道

面積 千五百七十七方里 人口 三百八十九萬

本道に分けて、若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の七國とし、更に之を小別して五市四十五郡とする。

若狹(三郡) 三方、遠敷、大飯。

越前(一市八郡) 福井市、足羽、吉田、阪井、大野、南條、今立、丹生、敦賀。

加賀(一市四郡) 金澤市、江沼、能美、石川、河北。

能登(四郡) 羽咋、鹿島、鳳至、珠洲。

越中(二市八郡) 富山市、高岡市、上新川、下新川、中新川、氷見、婦負、射水、東礪波、西礪波。

(111)

國郡

府縣
氣候

沿岸

(112)

越後(一市十五郡) 新潟市、東蒲原、西蒲原、中蒲原、北蒲原、南蒲原、古志、北魚沼、中魚沼、三島、南魚沼、刈羽、東頸城、中頸城、西頸城、岩船、佐渡(一郡) 佐渡

本道には、福井、富山、石川、新潟の四縣がおかれてある。本道は、東南に山脈があつて暖風を遮り、西北は海に面してゐて北風を受け、るために、氣候は寒冷である。

本道は、全く海に臨んでゐるけれども、沿岸の屈曲は少く、只能登の一國が大半島となつて、日本海に突出してゐるのみである。若狹には赤礁崎、松崎の二岬が相對して、小濱港を抱いてゐて、其の東に常神崎がある。越前には西南に立石崎が突出して、敦賀港を抱き、其の北方に越前崎がある。越前崎の沿岸は、岩礁出沒して舟を近接難い。加賀には一の岬角もなく、良港もない。能登半島の東北端を珠洲崎といふ、巖礁累々として北陸第一の險處である。珠洲崎を廻ると、海水が深く灣入して、越中と相對して一大内海をなしてゐる。七尾灣は内海の更に灣入してゐる所で、中に七尾港がある。越中には、射水河口に伏木港がある。越後には、越中の境に有名の親不知の險處がある。此處は波が岸

地勢

若狹

越中

越前

加賀

(113)

を撲つて、往來の危險な所である。荒川の口に直江津があり、信濃河の口に新潟がある。佐渡は日本海中の孤島で、夷港は、其の東岸の良港である。本道は、山脈が東山道から來て、境上に續いてゐるが、海岸には平地がある。河水は皆北に流れて日本海に入る。地味は肥瘠相交つてゐる。若狹は其の境上に山脈があつて、土質礫確である。

青葉山は丹後の境に跨つてゐて、此の外に小山が多い。北川は近江から來て小濱港に入り、南川は丹波の境から出て、北流して北川に合する。

越前は土地が東南に高く、白山脈が境上に互つてゐるが、土質は肥えてゐる。野阪岳は若狹の境に、油阪嶺、毘沙門岳は美濃の境に、大日岳は加賀の境に、ある。毘沙門岳の西に荒島岳、立石崎の南方に榮螺岳、越前の北に國見岳があつて、文珠山、飯盛山は國の中央に連つてゐる。日野川は近江の境から、足羽川は國の南邊から來て、福井の北で、合して安居川となる。九頭龍川は美濃の境から來て、福井の北で、安居川と合して、彌、大河となり、三國港に至つて流に入る。

加賀は東南に山が多く、海岸は僅ばかり平坦である。

越前の境に山脈が續いてゐて、飛騨の境に近い處に白山が聳えてゐる。白山は北陸道の名山であつて、其の北に釋迦岳、妙法山、笈岳などがあり、越中の境に醫王山、彌波山などが連つてゐる。手取川は、白山から出て、西北に流れて海に入る。犀川は國の東南部から出て、金澤の南を流れて、金石港に入る。大聖寺川は、大日岳から出て、九谷を経て、大聖寺に至つて海に入る。能登は山脈が加賀から来て、中央を走つてゐる。土地は瘠薄である。三國山は加越の間に峙つて、寶達山に連り、其の脈が石動、別所の諸山なる。高洲山、寶立山等は東北部に續いてゐる山である。羽咋川、神代川などがあるが、其の流れは長くない。越中は東南西の三面に山脈があつて、北部は稍平坦で、地味は肥瘠相半してゐる。

立山は國の東南に聳えて、其の北に劔山がある。大連華山は、越後信濃の境にあつて、北陸第一の高峯である。其の脈は南に走つて、藥師山、鷲羽山となつてゐる。飛騨の境に祖父岳、金剛岳等があつて、西南隅に袴腰山がある。射水川は、飛騨から来て、西邊の諸水を集め、北流して、伏木港に入る。神通川は

飛騨の宮川の下流であつて、國の中央を貫いて、富山を経て海に入る。水が深く、舟行に便利である。常願寺川は、藥師岳から出て、北流して海に入る。黒部川は、鷲羽山から出て、國の東邊を流れて海に入る。射水、神通、常願寺、黒部、信濃、手取及び九頭龍を北陸の七大河といふ。越後は國境に山岳が重疊してゐるが、沿岸は概して、平瀬で、地味豊沃である。海岸に米山、彌彦山の二山があつて、國中を三分してゐる。米山以西を上越後、彌彦山以北を下越後、二山の間を中越後といふ。

羽前の境に朝日岳があつて、其の脈は南に走つて、鷲巢山、飯豊山となり、大日岳は其の西にある。更に其の南に御神樂山、五劍谷山、守門岳などがある。岩代の境をなしてゐる。東南上野の境に近い所に御月山、八海山等がある。苗場山は信濃の境にあつて、信濃川の東に峙つてゐる。妙高山は焼山と並んで上越後の南の隅に、大連華山は越中の境にある。信濃川は千曲川の下流であつて、南から来て、國の中央を貫いて、新潟に至つて海に入る。其の長さは百里もあるが、船運の便利は下流の二十餘里に止る。阿賀川は岩代から来て、松崎に至つて海に入る。上越後の荒川は、上流を關川といつて、直

佐渡

湖沼

瀑布

温泉

平原

都會

(116)

江津に注ぎ、魚沼川は中越後にあつて、信濃川に入る。
 佐渡には二條の山脈が南北にあつて、其の間に平地がある。
 金北山は西北に峙つてゐて、其の南部に金銀坑がある。
 著名の湖沼

加賀の河北潟は金澤の北に在つて、周回六里、越前の北潟入江は國の北隅にあつて、周回五里、加賀の大聖寺川は、これに注ぐ。佐渡の加茂湖は中部の東岸にあつて、周回四里、此の外、越後の福島潟、加賀の柴山潟、能登の邑知潟等は何れも周回三里以上の湖水である。

瀑布

加賀の千俣瀑は白山の中央御前峯の絶壁にかゝつてゐて、高さ凡そ二百丈、北陸第一の大瀑布である。越後の不動大瀑、幣瀑、三十三丈瀑等も著名の瀑布である。

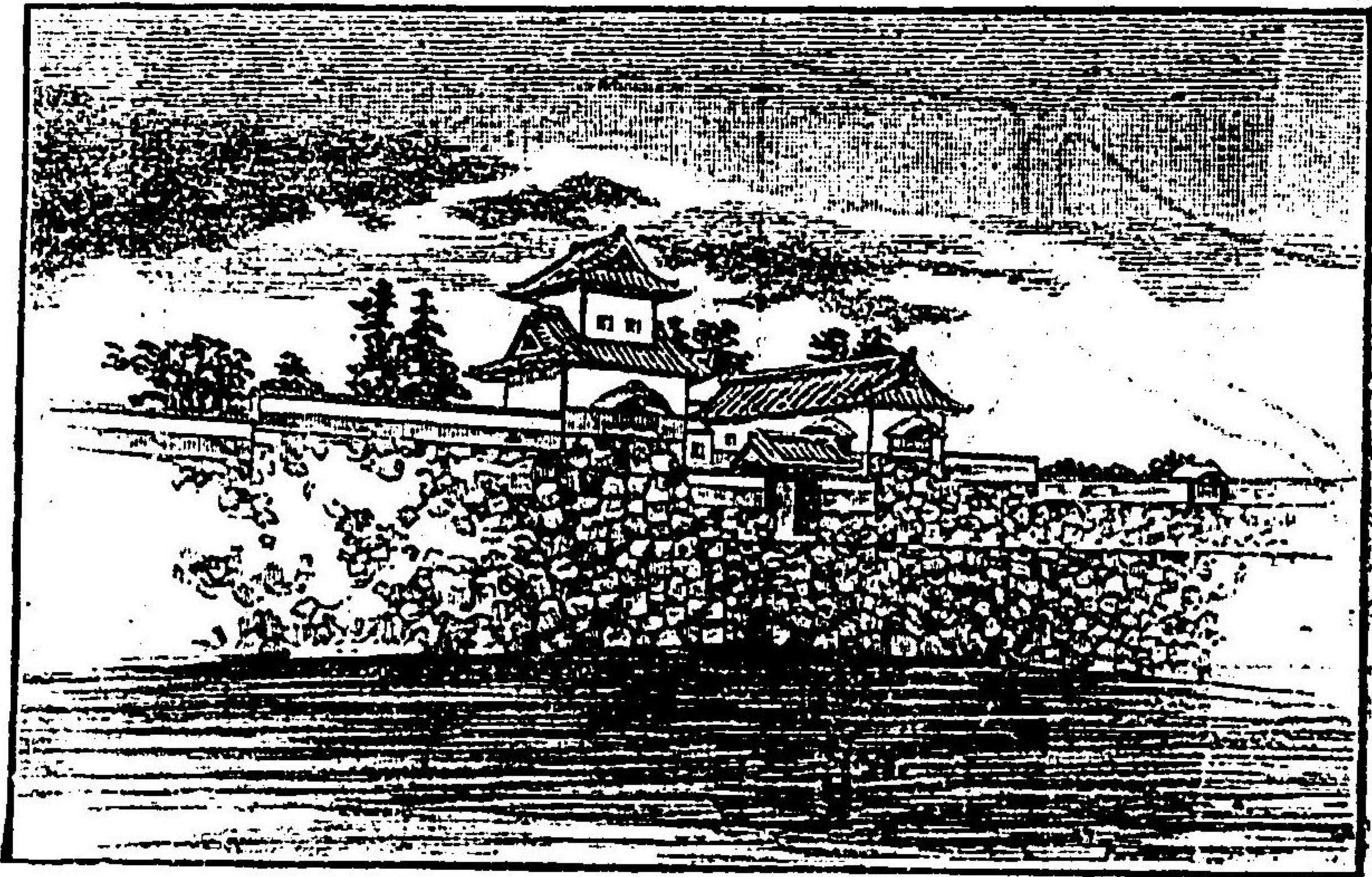
平原の大きなものには越前に塚原野がある。廣さは東西五里餘、南北四里餘で、荒島岳の西北に在る。

都會

福井

金澤

(117)



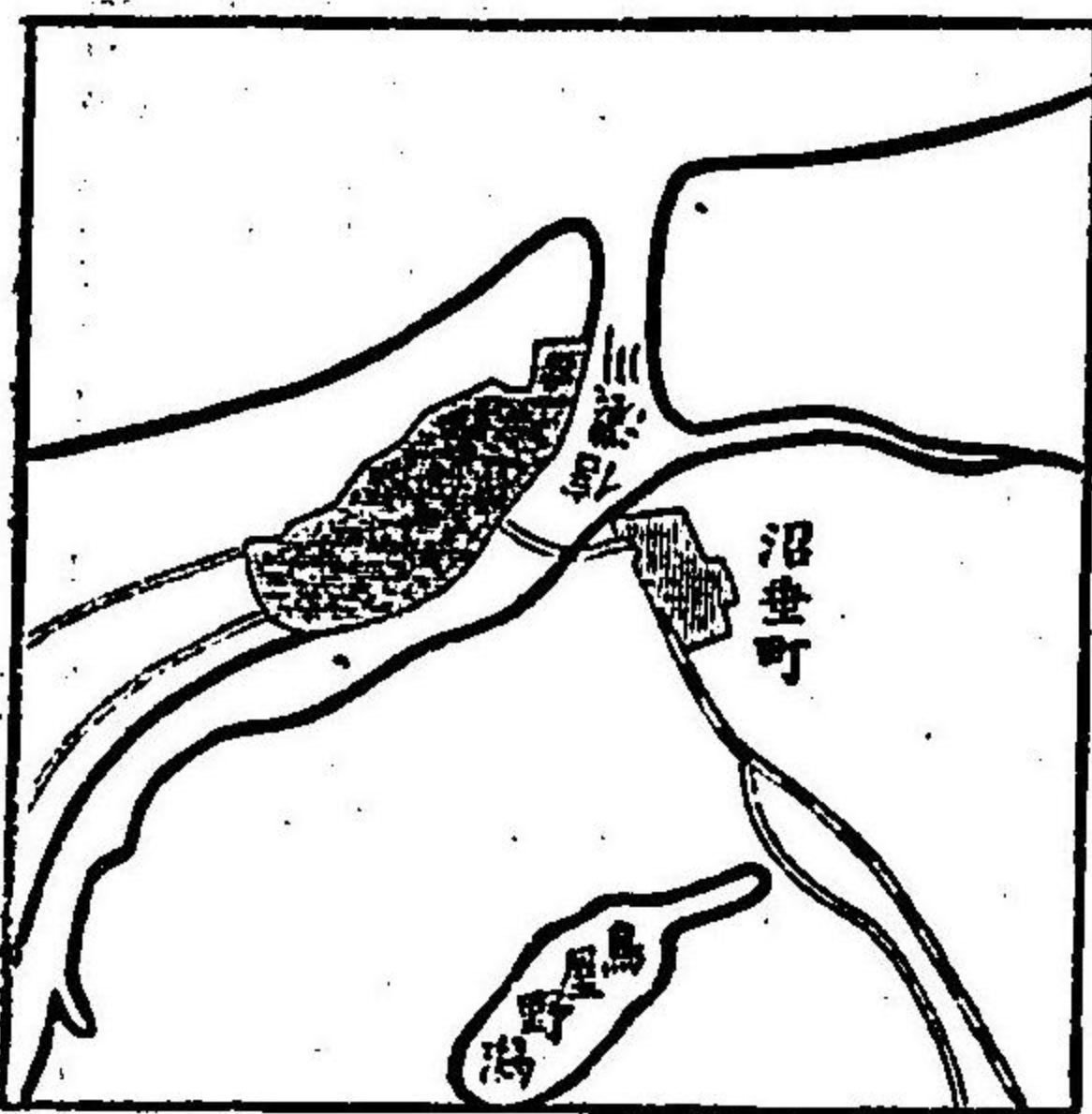
金澤城

若狹の小濱町は北陸の良港で、塗物、瑪瑙細工等の出る所である。越前の福井市は、足羽川に臨んでゐて、福井縣廳の所在地である。此の地は機織の甚だ盛な所で、羽二重、絹手巾などを出だし、市況は賑かである。人口四萬四千。此の地の藤島神社は新田義貞を祭つた社である。敦賀町は敦賀灣に臨んでゐる開港場で、歩兵第十八旅團司令部の在る所である。

加賀の金澤市は石川縣廳、第九師團司令部、第四高等學校等の所在地で、北陸第一の大都會である。此の市からは象眼細工、陶器、銅器、漆

器等の産物が出て、商工業ともに盛大である。人口八萬三千。此の市の兼六公園は、規模が大きく、閑雅の趣があつて、本邦三公園(金澤の兼六公園、岡山の後樂園、水戸の偕樂園)の第一といはれる。能登の七尾町は、七尾灣に臨んでゐる開港場である。人口一萬一千。輪島町は七尾の北にあつて、輪島塗を以て名高い。

越中の富山市は富山縣廳の所在地で、神通川に臨んでゐる。鐵道の便が開かれてから、貨物の集散が甚だ盛になつた。此の地は昔から賣藥製造の盛大な所で、其の名は遠近に響いてゐる。人口五萬九千。高岡市は富山の西北



新潟 1/200000

に在る一都會で、射水、小矢部、兩流の間に位してゐる。人口三萬一千。伏木町は神通河口にある開港場で、米穀の輸出が盛である。此の外、魚津、滑川等も一都會をなしてゐる。越後の新潟市は信濃川の河口に臨んでゐる。新潟縣廳の所在地である。此の地は開港場であるが、河口が淺いので、冬、日波が荒い

とによつて、碇船に不便であるので、貿易は盛ではない。只信濃川の流域にあつて、交通の便利があるために、市況は賑かである。人口五萬三千。長岡、新發田、高田等は何れも越後の都會である。佐渡の相川町は島の中央にある都會で、東北に金北山の金坑を控へてゐる。市況は賑かである。

物産

若狹に硯石、漆器、魚類等。越前に雲母、奉書紙、奉書紙、鳥子紙、蚊帳等。加賀に陶器、絹、杉原紙、象眼細工等。能登に輪島塗、鯨、鹽等。越中に藥劑、織物、硝石、硫黃、銅、鐵器、漆器等。越後に絹縮、五泉平、木綿、石油、金、銀、銅、石炭等。佐渡に金、銀、鑛物、細工等。

第五 山陰道

境界 北 日本海

南 山陽道

面積 一千八十七方里

東 畿内、北陸道

西 日本海

人口 百八十六萬

國郡

(120)

本道は丹波丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐の八國より成つてゐる。

丹波(七郡) 南桑田、北桑田、船井、天田、何鹿、多紀、氷上、

丹後(五郡) 加佐、與謝、中竹野、熊野、

但馬(五郡) 城崎、出石、養父、朝來、美方、

因幡(一市三郡) 鳥取市、岩美、八頭、氣高、

伯耆(三郡) 東伯、西伯、日野、

出雲(一市六郡) 松江市、八束、能義、仁多、大原、簸川、飯石、

石見(六郡) 邇摩、安濃、邑智、那賀、美濃、鹿足、

隱岐(四郡) 海士、周吉、穩地、知夫、

府縣 氣候 沿岸

本道には鳥取島根の二縣が置かれてあるが、丹波、丹後、但馬の三國は京都府又は兵庫縣の管轄である。

本道は東南の二方は畿内及び山陽道に圍まれ、北は日本海に向つてゐるので、地勢も氣候も北陸道に似てゐて、丹波は殊に寒氣が強い。

本道は丹波の外は皆海に臨んでゐる。丹後の海岸は屈曲が極め多く、成生崎は國の東北に突出し、博奕岬は鷲岬と相對して内海を擁してゐる。舞鶴港は

地勢

(121)

深く其の東南に灣入してゐて、港内水深く、大船を繋ぐに便利であるために、第四海軍鎮守府が置かれることになつた。由良港は舞鶴の西北にある。尚、黒岬を隔て、與謝海が其の西南に灣入してゐて、此處に宮津港がある。宮津の西に一條の洲が海中に横はつてゐて、之に松が生じ、其の長さが三十町もある。その景色が甚だ美しい。有名な天橋立は即ち是である。鷲岬の西北に經岬があつて、但馬の境に久美灣が深く灣入してゐる。但馬には中央より少、北西に餘部岬がある。因幡には千代河口に賀露港がある。伯耆には中央に赤崎港、西に淀江港がある。夜見灣は遠く西北に出てゐて、其の北端に境港があり、其の南岸に米子港があつて、出雲の中海に臨んでゐる。出雲には、地蔵崎が遠く西から東に出てゐて、斷崖屹立、巖礁出沒して舟行極めて危険である。石見には著しい岬角はなく、海岸は殆ど一直線をなしてゐる。隱岐は日本海中にあつて、島前、島後の二部に分れてゐる。知夫は島前にある有名の港である。

本道には、一條の山脈が東西に亘つてゐて、山陽道との境を限つてゐる。故に地勢は漸次北に低くなつて、河流は皆北に向つてゐる。地味は、一般に礫確で

丹波

ある。丹波は山脈が縦横に互つてゐて、西南は稍、平行である。地味は肥瘠相交つてゐる。

三岳山、大江山は丹後の境に、三國山は但馬播磨の間に跨つてゐる。保津川は近江の境から出て、山城を過ぎて西南に流れ、更に東南に折れて大堰川となり、また山城に入つて桂川となる。和知川は、東北境から出て諸水を合せ、西に流れ北に轉じて丹後の由良川となる。佐治川は西から来て、播磨に入つて加古川となる。

丹後

丹後は南方に山があつて、土地は北方に低く、地味が瘠せてゐる。千丈岳は即ち丹波の大江山であつて、丹波の境に峙つてゐる。足占山は但馬の境に由良岳は由良港の近傍にある。由良川は丹波の和知川の下流で、北に流れて由良港に入る。河口から溯つて福知山まで舟楫の便利がある。但馬は、山脈が丹波播磨から来て、因幡の境まで互つてゐるので、平地が乏しい。氷山は高く、因幡、播磨、美作の境に跨つてゐて、俗に四箇山といふ。朝來山は

但馬

(122)

因幡

丹波の境に接してゐて、其の西に生野銀山がある。朝來川は南境から出て諸水を合せ、豊岡を過ぎて海に入る。矢田川は氷山から来て、北に流れ、濱阪川は西部に流れてゐる。

因幡は、東南に山岳が重疊してゐて、中央に平地があるが、一體に瘠せてゐる。伯耆美作の境に三國山があり、美作の境に那岐山がある。稻葉山、扇山は國の東境に立ち、池田山は播磨の境に接して、氷山に連つてゐる。賀露川は上流を千代川といふ、美作の境から出て諸水を合せ、國の中央を貫いて賀露港に注ぐ。

伯耆

伯耆には、大山が國の中央に屹立して、其の脈が左右に分れ、西北は土地が平坦で稍、肥えてゐる。

(123)

大山は中國第一の高峯で、國の中央に聳え、其の東北の船上山は名和長年の義兵を擧げた所である。三平山、蛭山は美作の境に、三國山は備中備後の境に、船通山は出雲の境に、美徳山は因幡の境にある。日野川は國の西南から出て北に流れ、淀江港の西に至つて海に入る。

出雲

出雲は山岳が重疊して、南から西の境に互つてゐる。

石見

隠岐

湖沼

(124)

阿圖馬山、翠引山は國の南境に、三瓶山は石見の境に、天狗山、佛經山等は宍道湖の南に聳えてゐる。大川は一名を簸川といふ、船通山から出て、中部の諸水を合せて宍道湖に注ぐ。神門川は國の西南隅の諸水を集め、西流して海に入る。

石見は山脈が南方から來て、國內に連亘してゐて、平地が少い。青野山は西南隅に、彌畝山は安藝の境に聳えてゐて、海岸に並列して數多の小山がある。江川は安藝備後の間から來て、回流して諸水を合せ西北に赴いて石見灣に注ぐ。これは中國第一の大河である。高津川は周防の界から來て北流して石見灣に入る。

隠岐は島前島後の二部から成つてゐて、地味は瘠せ山河の記すべきものもない。

著名の湖沼

出雲の中海は、中國第一の大湖で、周回が十六里餘に及んでゐる。中江海峡によつて、海に通じてゐるので、其の水は鹹味を帯びてゐる。宍道湖は、周回十三里、昔は中海と合して意宇海といつたが、今では其の間が塞がつて、僅

瀑布

平原

礦泉

都會

(125)

に一條の水路を通じてゐる。

因幡の湖山池は周回三里餘、其の水が流れて千代川に通じてゐる。

瀑布

但馬の猿尾瀑は妙見山の西麓にあつて、其の下流は矢田川に入る。天瀑は國の西南隅の山中に在つて、其の下流は養父川に入る。

平原は、丹波に、鹿野、伯耆に、飯野、船上原、長野原などがあるが、其の廣さが三里に充たない。

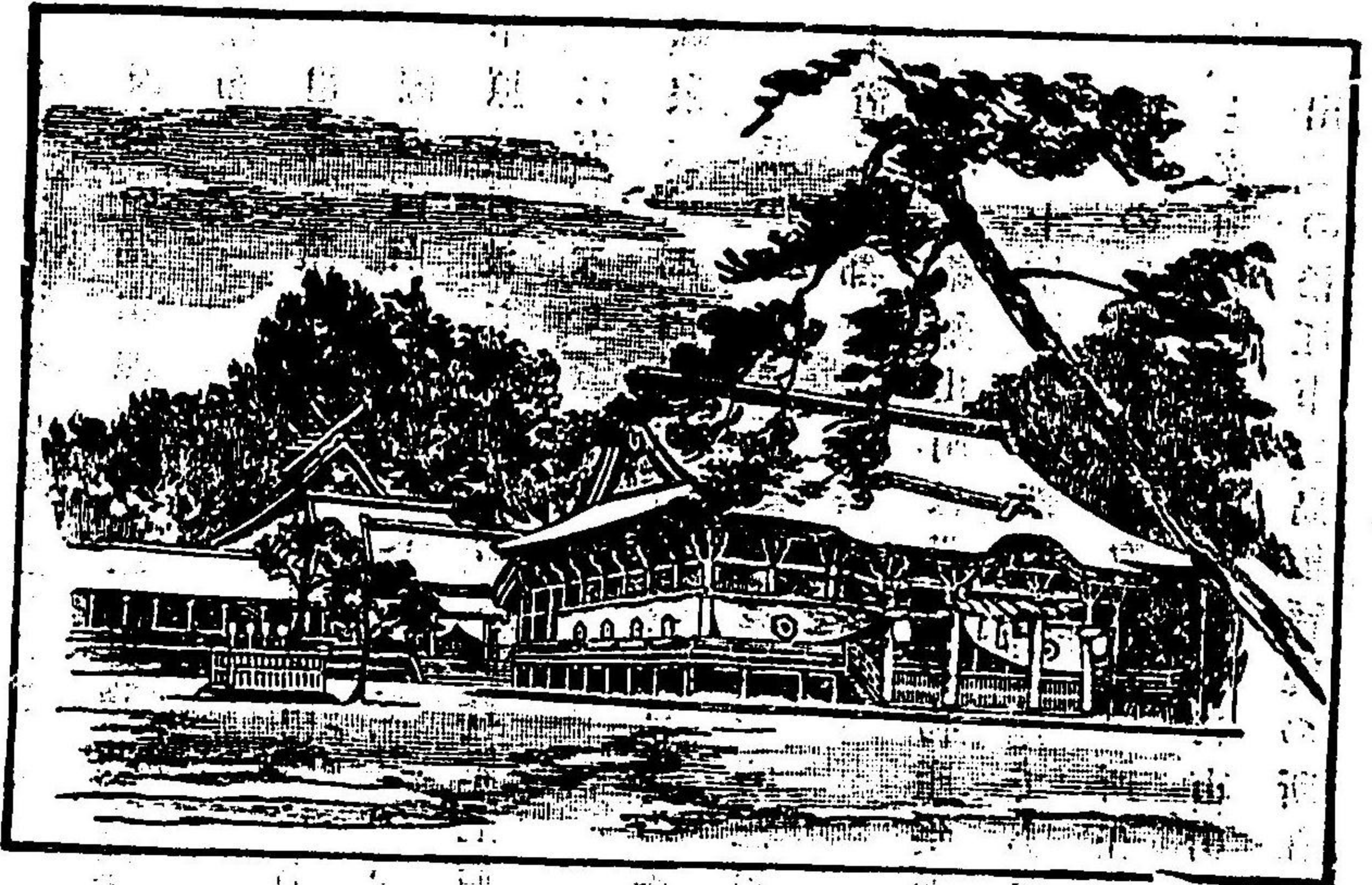
礦泉は、伯馬、因幡、伯耆、出雲、石見等の各處にあるが、其の中で、但馬の湯島が最も賑かである。此處は豊岡から三里、生野から十六里の所にある。

本道には都會地は甚だ少い。

丹波の福知山町は丹波の物産集散地で、阪鶴鐵道を以て大阪に通じ、歩兵第二十旅團司令部の所在地である。人口六千。

因幡の鳥取市は鳥取縣廳の所在地で、千代川に臨んでゐる。美作、播磨、但馬と交通の便利があるために、市街は繁華である。人口二萬八千。

出雲の松江市は、島根縣廳の所在地で、宍道湖が中海に通じてゐる。大橋川



の北岸にあつて湖山の景に富んでゐる。本道第一の都會で、人口が三萬四千餘である。杵築町は島根半島の西岸に臨んでゐる小都會であるが、出雲大社を以て名が著れてゐる。

雲物産

丹波に砥石、烟草、茶、杉材、松茸、墨表等、丹後に縮緬、紙、桐油等、但馬に金、銀、砥石、苧、麻、陶器、柳行李等、因幡に藍、白珊瑚、杉材、木綿、紙、蠟等、伯耆に鐵、石材、麻、藍、紅花、人參、木綿、漆、蠟等、出雲に蜜柑、海苔、生蠟、牛馬、人參、銅、鐵等、石見に甘薯、麻、藍、蜂蜜、紙布、桐油、銅、鐵等、隠岐に桑

板、杉材、樅材、和布、魚類等

第六 山陽道

境界 北 山陰道、日本海、東 攝津、西 日本海、南 瀬戸内海、面積 一千五百七十方里、人口 四百三十三萬七千、本道をつつて播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の八國とし、更に之を五市五十九郡に小別する。

播磨(一市十三郡) 姫路市、明石、美濃、加東、加西、加古、多可、印南、飾磨、神崎、梶保、赤穂、佐用、宍粟

美作(五郡) 真庭、苦田、勝田、英田、久米

備前(一市六郡) 岡山市、御津、赤磐、和氣、邑久、上道、兒島

備中(八郡) 都窪、浅口、小田、後月、吉備、上房、川上、阿哲

備後(一市九郡) 尾道市、御調、世羅、深安、沼隈、葦品、神石、甲奴、雙三、比婆

安藝(一市七郡) 廣島市、安藝、佐伯、安佐、山縣、高田、加茂、豊田

氣候

沿岸

國境

(128)

周防(六郡)大島、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷、長門(一市五郡)赤間關市、厚狹、豊浦、美稱、大津、阿武、本道には岡山、廣島、山口の三縣がおかれてあるが、播磨は全く兵庫縣の管轄である。

本道には北に山脈があつて、南は海に臨んでゐるので、地勢は山陰道と反對して、地味は肥え、氣候は温暖である。

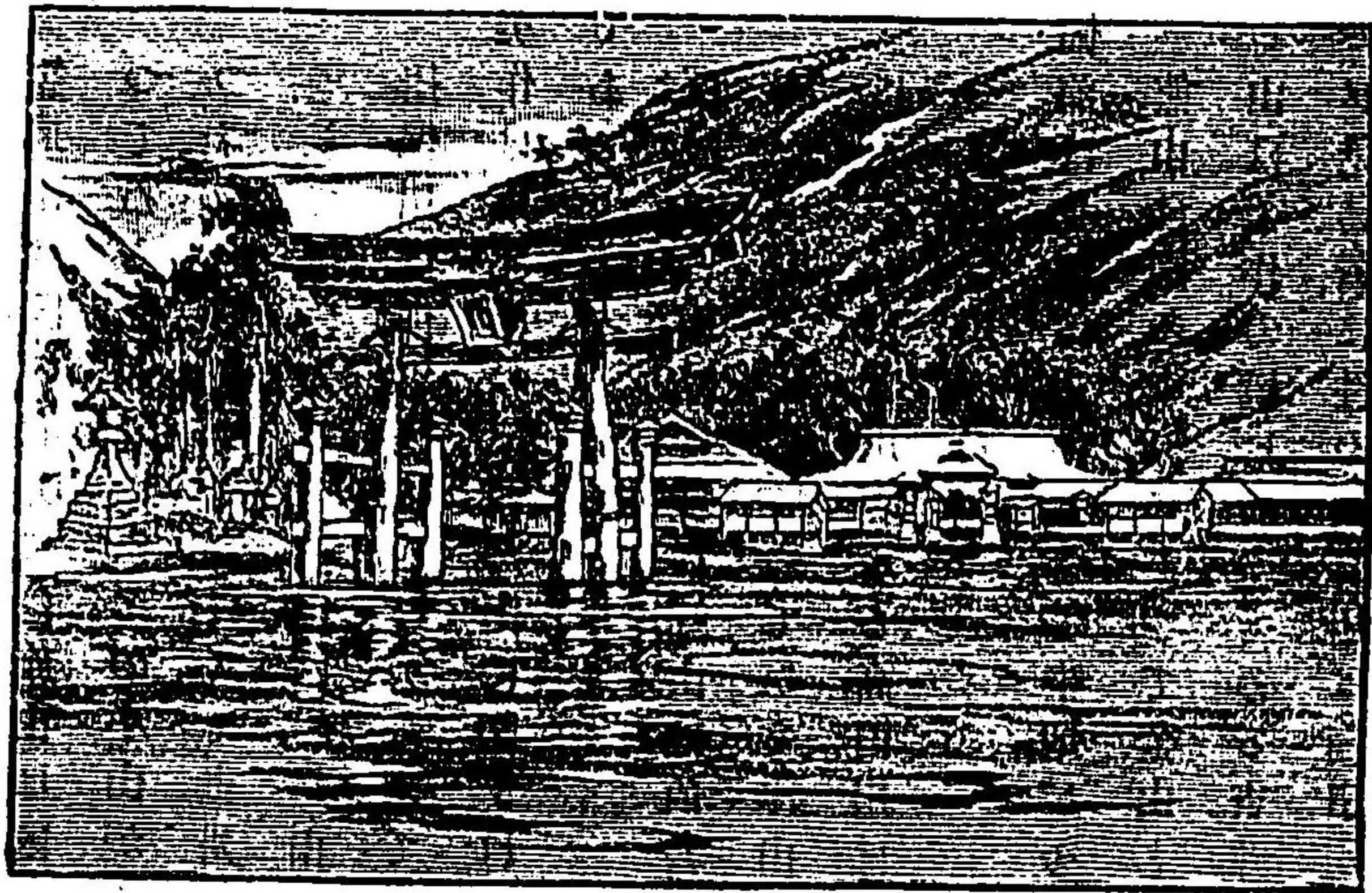
本道は、美作を除いた外は、皆海に臨んでゐる。播磨には東に明石港があつて、明石海峡に臨んでゐる。中部に飾磨津、西部に室津の兩港があつて、其の間を播磨灘といふ。備前には蕪崎が東に出てゐて、牛窓港を庇つてゐる。兒島半島は、藤戸地峽を以て備中に連り、兒島灣を抱いてゐる。備中には東に玉島港西に笠岡港がある。備後には阿武兔岬が突出して、田島と相對して、鞆津港がある。鞆津の西北に尾道港がある。此の近海を水島灘といふ。安藝には中部に音戸瀬戸があつて、倉橋島と相對してゐる。此の瀬戸の西北に方つて、吳軍港がある。第二海軍鎮守府の所在地である。吳の西方に能美島があつて、其の北方を江田島といふ。海軍兵學校の所在地である。能美島の西方に嚴島がある。嚴

播磨

地勢

國境

(129)



島神社のある所で、俗に宮島ともいふ。日本三景の一つである。周防には東南に室津港があつて、上、關海峽に臨んでゐる。國の西部に三田尻島港があつて、國中の要津である。長門には、宇部岬と本山岬とが相並んで、東南に突出してゐる。赤馬關は海峽を隔て、九州に向ひ、觀音崎は、蓋井島に對して、國の西端にある。

本道は北方が高く、南方が低いので、長門の西北部を除いては、河流が皆南に流れる。

播磨は、鞆津、丹波、但馬、因幡、美作の境に山脈があるが、南部瀬海の地は、廣く平で、地味が肥えてゐる。

美作

笠形山は國の北方に白旗山は國の西邊に聳え、書寫山は姫路の西北に峙つてゐる。此の外に數多の小山がある。加古川は丹波の佐治川の下流であつて諸水を合せて海に入る。市川は但馬から來て諸水を合せ姫路の東を過ぎて海に入る。千種川は船越山から出て白旗山の西を流れて海に入る。揖保川は但馬因幡の境から來て南流して海に注ぐ。

美作は東北西の三面が山に圍まれて、南方は土地が稍低く、地味は頗る肥沃である。

那岐山は因幡の境に、蛭山は伯耆の境に立山、高峯山は備前に近く、泉山は國の中央以北に峙つてゐる。津山川は國の北境から來て諸水を合せ、備前に入つて東大川となる。高田川は伯耆の境から來て諸水を合せ、備前に入つて西大川となる。

備前

備前は、北部は山が多くて平地が少く、南部は稍平坦で肥えてゐる。

熊山は國の中央にあつて金山と並び、其の北に大王山が聳え、龍天山、加茂山は美作の境に峙つてゐる。吉井川は津山川の下流で、一名を東大川といひ、兒島灣に注ぐ。朝日川は高田川の下流で、西大川ともいひ、亦、兒島灣に注ぐ。

備中

備中は美作伯耆の境に高山が聳えてゐるが、東南は平行で肥えてゐる。

三國山は備後伯耆の間に、天神山は備後に近く、大平山、龍王山等は國の中部に聳えてゐる。大川は上流を松山川、下流を河邊川といふ、伯耆の境から出て諸水を合せ、玉島の東に至つて海に入る。

備後

備後は群嶺北に起伏し、沿海の地は稍平行で頗る膏沃である。

仙養山は備中の境に聳えて、之に對して西に星居山、岳山等がある。武信山は鞍津の北に峙つて、其の北に御神山があり、安藝の境に天神山がある。蘆田川は安藝の境から來て諸水を合せ、福山の西に至つて海に入る。三次川は國の中央から起つて、西北に流れて諸水を合せ、石見に入つて江川となる。

安藝

安藝は北邊に山岳重疊して、川流は南北に分れ、地味は瘠せてゐる。

鷹巢山は吉田川の南に聳え、其の西に白木山がある。犬伏山は石見に跨り、鬼城山は周防の境に峙つてゐる。太田川は西北隅の山間から出て、諸水を合せ、廣島に至つて海に入る。吉田川は石見の境から起つて、備後を経、石見

周防

に入つて江川となる。黒瀬川は並瀧寺池に發して吾妻瀑、二級瀑を掛け南流して音戸の東に入る。

周防は山脈が北方にあつて、海邊に平地がある。

石見の境に秘密岳があり、安藝の境に須川岳がある。山口の東に吉田岳があつて、其の東に熊山が峙つてゐる。錦川は一名を岩國川ともいつて、石見の境から來て、東流して岩國を過ぎて海に入る。有名の錦帯橋は、此の川に掛つてゐる。此の外に、樅野川、佐波川等の小流がある。

長門は周防の境に山脈がついてゐる。西南は土地が肥えてゐるが、東北は瘠せてゐる。

岩見の境に徳佐峯、極北海岸に高山がある。霧降山は南海岸に聳えてゐて、周防の境を限つてゐる。阿武川は萩川又は大川ともいつて、石見から出て諸水を合せ、萩の西を過ぎて日本海に入る。厚東川は國の中央から起つて南に流れ、霧降山の西を通つて海に入る。其の西に厚狭川、吉田川等がある。本道には大きな湖水はない。長門の常磐池が周回三里で本道の大湖である。備前の大池、周防の長澤池など、何れも小さいものである。

(132)

周防

長門

湖沼

瀑布

平原

鑛泉

都會

岡山

瀑布

美作の岩井瀑は、苦田郡上齋原村にあつて、高さ百八十丈、其の水が流れ津山川となる。これが本道の大瀑である。此の外に、美作の神庭瀑、安藝の二級瀑、瀧口瀑等も、其の名が聞えてゐる。

平原は播磨に廣野、嬉野、備後に仙養原等があるが、其の直徑三里にも及ばない。

鑛泉は美作の湯郷が最も盛な所で、浴客が常に輻輳してゐる。此の外に備後の矢野、安藝の八木、和田、周防の湯田、長門の湯本、湯町等がある。

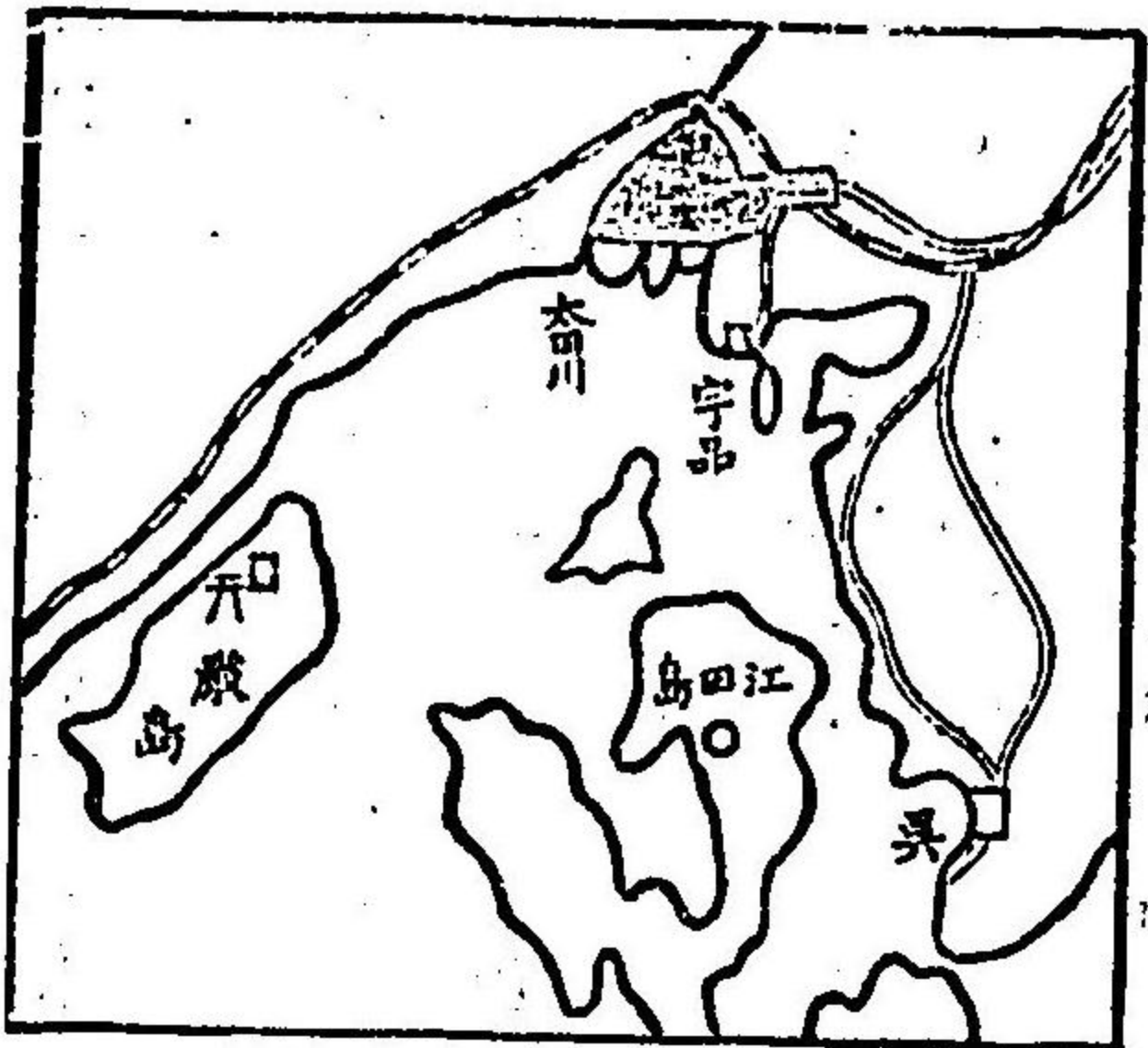
都會

播磨の姫路市は第十師團司令部の所在地で、山陽鐵道、播但鐵道が交叉してゐて市況繁盛である。革細工は古來此の地の名産である。人口三萬五千。明石町は姫路の東南にある。其の海岸は舞子濱といつて風光明媚の所である。

美作の津山町は津山川に臨んでゐる都會である。

備前の岡山市は岡山縣廳、第三高等學校等の所在地で、山陽道第二の都會

(133)



廣島附近 1/600000

である。此の市の後樂園は風致を以て名高い。人口六萬一千。
備後の尾道市は向島に對してゐる良港で、船舶が常に輻輳してゐる。人口二萬二千。福山は蘆田川の東岸の一都會である。

安藝の廣島市は太田河口に跨がつてゐて、中國第一の大都會である。第五師團司令部、控訴院、廣島高等師範學校、廣島縣廳等の所在地で、牡蠣、海苔の名産を出だし、市況甚だ賑かである。
周防の山口町は、山口縣廳、歩兵第二十一旅團司令部、山口高等學校等の所在地で、周防の西部に位してゐる。昔大内氏の隆盛を極めた頃には京都と並ぶ程の繁華であつたが、其の後は大に衰へて、今では人口一萬七千である。此の外、徳山、三田尻等も此の國の一都會である。
長門の赤間關市は馬關又は下關といつて、賑かな開港場である。此の港では、盛に石炭、米、綿布等を輸出して、米、肥料、豆等を輸入する。煙草、硯石は此の

市の名産である。此の地は門司と相對して、内海の咽喉に當つてゐるゆゑ、に、堅固の砲臺が設けられてゐる。人口四萬二千。萩町は阿武河の北岸にあつて、中國有名の城市である。人口一萬五千。

- 物産
- 播磨に草細工、赤穂鹽、帆木綿、明石縮等、美作に硯石、雲齋織、葛粉、銅、鐵、石炭等、備前に蠟石、刃物、鹽陶器、鐵等、安藝に山繭紬、牡蠣、煙草、木綿、蜂蜜、銅、鐵等、周防に烟草、茶、蜂蜜、縮布等、長門に硯石、烟草、陶器、魚等。

第七 南海道

南海道は本土の紀伊と淡路島と、四國とから出來てゐる。紀伊は、一面は畿内と東海道とに接して他の三面は海に臨んでゐる。四國は瀬戸内海を隔て、山陽道に、東西兩面は海を隔て、紀伊、九州に南は渺茫たる太平洋に臨んでゐる。淡路は本土と四國との間の島國である。
面積 千五百六十一方里 人口 三千七百七十六萬
本道を分つて紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐の六國とし、更に之を一市四十郡

に小別する。

紀伊(一市九郡) 和歌山市海草那賀伊都那田日高西牟婁東牟婁北牟婁南牟婁

淡路(二郡) 津名三原

阿波(一市十郡) 徳島市名東勝浦那賀海部名西板野阿波麻植美馬三好

讃岐(二市七郡) 高松市丸龜市大川本田香川小豆綾歌仲多度三豊

伊豫(一市十二郡) 松山市宇摩新居周桑越智温泉伊豫上浮穴喜多東宇和南

宇和北宇和

土佐(一市七郡) 高知市土佐幡多長岡吾川長岡香美安藝

本道には和歌山徳島香川愛媛高知の五縣がおかれてあるが淡路は兵庫縣に紀伊の内二郡は三重縣に屬してゐる。

本道は南は總て海に向ひ北は本土に山脈があつて寒風を遮るが故に氣候最も溫暖である。

紀伊には潮岬が南端に突出してゐる。此處は海潮の奔激するので此の名がある。此の東に大島があつて島の西岸に大島港がある。潮岬から東北二十里



鳴

許の所に楯崎があつて其の間を熊野浦といふ。潮岬の西北沿岸に湯崎があつて田邊港を抱いてゐる。尙其の西北に日御崎があつて其の北の入江に由良港がある。和歌山は其の北方にあつて其の海濱を和歌浦といふ。風景の美しいのを以て名高い。淡路は一箇の島國で其の東端に由良港紀伊の由良と違ふがあつて碓泊に宜しい。西に福良港があつて鳴門に對してゐる。波阿には其最東端に蒲生田崎が突出して遙に紀伊に向つてゐる。國の東北隅は淡路と相對して鳴門海峡を挟んでゐる。此處は潮流の渦巻きを以て名高い。讃岐

門

は全く内海に瀕してゐて、沿岸の出入多く、岬灣が頗る多い。志度、高松、多度津等何れも碇泊に便利である。伊豫は三面海に臨んでゐて、沿岸の凸凹が極めて烈しい。最西端に突出してゐるのを佐田岬といふ。豊後の地藏崎と相對してゐる。是から南の海岸は殆ど名狀出來ない程に出入してゐて、宇和島は其の中間に位してゐる。土佐は蹠蹠岬と室戸岬とが遠く南方に突出して、海水が其の間に彎入してゐる。之を土佐海といふ。此處は、天武天皇白鳳十三年の大地震に、陸地が陥没して海になつたのであるといふ。蹠蹠、差戸二岬の端は、岩礁出沒して舟行危険の所である。高知の南に浦戸港があつて、此の國の要港である。

紀伊は吉野山脈が北から來て、其の餘波が南海に突出してゐる。西北部は田野が能く開けて海濱に平地がある。

大塔峯は此の國の高峯で、國の中部に峙ち、其の東に那智山、妙法山等がある。大塔峯の西には諸峯相連つて、大和境の高野山に接してゐる。高野山には山上に曠原があつて、弘法大師の開いた金剛峯寺が此處にある。熊野川は大和十津川の下流であつて、諸水を合せて大河となり、東南に流れて熊

野浦に入る。此の川は河口から十二里も舟行することが出来る。ために水運の便利がある。日高川は大和境から出て、屈曲して西に流れ、海に注ぐ。紀川は大和吉野川の下流で、西に流れて諸水を合せ、和歌山を過ぎて、和歌浦に注ぐ。此の川も十三里餘の間舟楫の便利がある。

淡路には高山や大河もなく、土地極めて豊饒である。

四國は一條の山脈が東北から西南に亘つてゐるので、地勢を自ら兩分してゐる。故に中央が高く、四方が低くて、川も其の方向に従つて流下する。土地は概ね豊沃で、田野は能く開けてゐる。

阿波は山脈が北境に連り、別に一脈があつて、之と平行して國の中部を西に奔り、土佐の境に續いてゐる。地味は肥沃である。

劍山は土佐の境に蟠結して高く、雲表に聳え、其の脈は國の中部を貫いて東走してゐる。讃伊岐豫の境には雲邊寺山があつて、其の脈は吉野川を隔て、劍山の脈に對してゐる。吉野川は四國第一の大河で、一名を四國三郎といふ。これは土佐から來て、西境の山間を繞り、伊豫から來る伊豫川、祖谷山から來る松尾川を合せて大河となり、東に走つて、徳島に至つて海に入

る。那賀は川西境から出て、劍山以南の水を集め、東に流れて海に入る。此の外、吉野、那賀、兩河の間に勝浦川があり、南陽に海部川がある。讃岐は南方に山を負うて、北方に低くなつてゐる。瀬海の地は平衍で沃饒である。

阿波、伊豫の境に雲邊寺山があつて、其の脈が東走して阿波の境を限つてゐる。象頭山は多度津の南に聳えてゐて、山腹に琴川神社がある。此の社には四時参拜者が絶えないで、沿道は其のために賑ふほどである。飯山は九龜の北方に見ゆる秀峯である。河流には綾川、土器川、観音寺川等があるが、何れも小さい。

伊豫は土佐の境に山嶺が連つてゐて、其の支脈が國中を横貫してゐる。西南沿岸の地は田野が開けて、地味肥沃である。

石槌山は四國第一の高峯で、土佐の境に聳え、瓶森山は其の東に並び、三榜示山は土佐、阿波の境に跨がつてゐて、雲邊山は其の北に聳え、鬼城山は國の西南隅に峙つてゐる。別子山は國の東北部にあつて、銅の産出を以て名高い。面河川は石槌山下から起つて、諸水を合せ、土佐に入つて仁淀川とな

る。肱川は土佐の界から來て、大洲を過ぎて海に入る。此の外、加茂川、銅山川等があるが、何れも細流である。

土佐は山脈が伊豫境に連つてゐて、地勢は南に低い。

北境に三榜示山、白髪山、瓶森山、矢筈山等があつて、野根山、五在所、森山、蹉陀山等は、近く海上に峙つてゐる。仁淀川は伊豫から來て、國の中央を貫き、諸水を合せて海に入る。四萬十川は國の西北境から發して、迂餘屈曲して、東南に流れ、下田浦に至つて海に入る。此の外に物部川、奈半利川、安田川、伊尾川、安藝川、鏡川等の諸水がある。

本道には、阿波に海老池、讃岐に北條池、伊豫の鹿子池などがあるが、周回三里に滿つるものは無い。

紀伊の那智瀑は那智山中にあつて、那智川の源を爲してゐる。高さ八十四丈。

伊豫の高瀑は周桑郡千足山村にある。高さ百三十丈。

平原は記す程の大きなものが無い。

鑛泉は紀伊、伊豫、土佐等の各所にあるが、伊豫の道後と、紀伊の湯崎とが最も有名である。道後は松山市の東一里許の所に在つて、温度が人體に適して

都會
和歌山

德島

(142)

ある。湯崎は田邊の西南に在つて、古より著名の温泉である。
都會
紀伊の和歌山市は、和歌山縣廳の所在地で、人口六萬三千、紀州第一の都會である。大阪に鐵道の通じたのと、紀川に臨んでゐるとに因て、海陸交通の便に富んで、商工業が盛大である。綿フランネル、紋羽織は此の地の名産である。新宮町は熊野川の口にある一都會である。
本河波の德島市は四國第一の大都會で、吉野河口に臨んでゐる。水陸運輸の便に富んでゐるので、昔から商業が盛である。人口六萬一千、撫養町は德島の北方に在る港で、齋田鹽の産物を以て名高い。人口一萬八千。
讃岐の高松市は香川縣廳の所在地で、北海岸に臨み、汽船の出入が便利であるために市況繁盛である。人口三萬四千。丸龜市は高松の西七里の所にあつて、琴平に至る要路である。讃岐鐵道は此の市を経て高松、多度津、琴平に通じてゐるので、交通が便利である。丸龜の南、善通寺村は、第十一師團司令部の所在地で、軍事上樞要の中心である。観音寺町、阪出町等も此の國の一都會である。

(143)

伊豫の松山市は愛媛縣廳步兵第十旅團司令部の所在地で、西北に三津、淡を控へ、殊に近頃伊豫鐵道が開通したので、交通が便利になつた。人口三萬六千。宇和島町は西南部に在る港、今治町は、燧灘に面してゐる港で、共に伊豫の一都會である。
土佐の高知市は、高知縣廳の所在地で、鏡川に臨んで浦戸港に通じてゐる。港内の水が深く、汽船の出入に便利で、市況繁盛である。人口三萬六千。宿毛町は西南の小都會に過ぎないが、維新の際に名士が出たので知られてゐる。

物産

紀伊に石材、本材、密柑、紙、雲齋織、綿フランネル、鯨、鯨節等、淡路に陶器、魚等、阿波に藍絨織、砂糖等、讃岐に鹽、烟草、木綿、砂糖等、伊豫に銅、石材、綿、鹽、砂糖等、土佐に銅、石炭、珊瑚、鯨節、紙、砂糖等。

第八 西海道

西海道は四國の西南に位してゐて、九州壹岐對馬琉球から成つてゐる。九州

大隅(五郡) 始良、噲、肝、屬、熊毛、大島、
 薩摩(二市七郡) 鹿兒島市、鹿兒島、日置、揖宿、川邊、薩摩伊佐、出水、
 壹岐(一郡) 壹岐、
 對馬(二郡) 上縣、下縣、
 琉球(三區五郡) 那霸區、首里區、島尻、中頭、國頭、宮古、八重山、
 本道には大分、福、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島の七縣が置かれてある。
 本道は西南部に在るを以て、氣候が最も暖熱で琉球群島などは殆ど熱帶地
 方に似てゐる。
 筑前には東北端に名護屋崎、小田崎があつて、相對して洞海を擁してゐる。此
 の海口の若松港は遠賀川流域の筑豊炭田を控へてゐるによつて、石炭積出
 しの要津で、我が國唯一の製鐵所も此處に設けられてゐる。西海岸の博多灣
 には同名の港がある。肥前の海の海岸は屈折が最も甚しく、筑前に近い所に
 唐津港がある。鯛浦は二名を大村灣といつて東西二里餘南北四里餘、彼杵半
 島の間に横つてゐる。此の灣口の北岸に佐世保軍港がある。彼杵半島の東南
 隅に有名な長崎港が深く陸地に灣入してゐる。島原半島は、彼杵半島の東方

は西北は日本海、東南は太平洋、東北は内海を隔て、中國四國に對し、西南は
 支那海に臨んでゐる。壹岐對馬は朝鮮海峡の間にあつて、琉球群島は支那海
 中に散布してゐる。
 面積 二千八百二十七方里 人口 六百八十八萬
 本道を分つて、筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、琉球の十
 二ヶ國とし、更に之を八市、二區、八十五郡に小別する。
 筑前(一市九郡) 福岡市、糟屋、宗像、遠賀、鞍手、嘉穂、朝倉、筑紫、糸島、早良、
 筑後(一市六郡) 久留米市、浮羽、三井、三潞、八女、山門、三池、
 豊前(二市六郡) 門司市、小倉市、企球、田川、京都、筑上、下毛、宇佐、
 豊後(十郡) 東國、東、西國、東、速見、大分、北海部、南海部、大野、直入、玖珠、日田、
 肥前(三市十四郡) 長崎市、佐賀市、西彼杵、東彼杵、北高來、南高來、北松浦、南松浦、
 佐賀、神崎、三養基、小城、東松浦、西松浦、杵島、藤津、
 肥後(二市十二郡) 熊本市、他託、宇土、玉名、鹿本、球磨、菊池、阿蘇、下益城、上益城、八
 代、葦北、天草、
 日向(八郡) 宮崎、南那賀、北諸縣、西諸縣、東諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵、

に突出して、肥後の天草諸島に對して、筑紫海を扼してゐる。島原、口之津は此の半島の港である。肥後には西に突出してゐる宇土半島の端に三角港があつて、遂に天草諸島に對してゐる。此の海上には不知火といふものがあつて、初秋月なき時、海上に燐火の點々して走るのを見ることがある。球磨川口に八代港がある。薩摩には西に野間崎があり、東西に開閉崎がある。鹿兒島灣は薩摩大隅の間にあつて、灣内に有名な櫻島がある。大隅には佐多岬が遠く西南に出で、火崎は日向の都井崎と相對して、志布志灣を擁してゐる。日向には南に都井崎、北に觀音崎があつて、沿岸の出入は著しくない。豊後には芹崎、鶴見崎、保戸崎、地蔵崎等があつて、其の間に數多の港灣がある。國東半島は國の東北に出で、地蔵崎に對して別に一個の灣をなしてゐる。別府灣がこれである。豊前の西北端は遠く海中に突出して、一帯の海を隔て、馬關と相對してゐて、其の端に門司港がある。小倉は門司の東南に方つてゐて、亦一良港である。

九州には一條の山脈が東西に連り、又別に一脈があつて殆ど丁字形をなしてゐる。河流は四方に分注して、土地は最も肥沃である。

筑前は山脈が東境に連り、中央に別脈があつて、北から南に互り、廣い平地は少い。

福智山は豊前の境にあつて、其脈は東南に走つて豊前の彦山に接してゐる。肥前の界には脊振山があつて、峻険を極めてゐる。中部には寶滿山が高く聳えて、其の麓の太宰府には菅公を祀つた社がある。遠賀川は彦山の麓から來て、諸水を合せ、北流して、蘆屋港に注ぐ。那珂川、早良川は共に肥前の境から來て、博多灣に入る。

筑後は東南に山岳が互つてゐて、大河は西北部を流れ、河沼多し、土地が平闊である。

豊後の境に御前岳、三國山等がある。高良山は國の中央に峙ち、西南肥後の境に接して、三池炭山がある。筑後川は又筑紫次郎ともいふ。豊後から來て西に流れ、久留米を経て南に轉じ、肥前の境から筑紫海に注ぐ。肥後の球磨川、薩摩の川内川と合せ稱へて筑紫の三大川といふ。

豊前は山脈が西北から起つて、筑前の境を限り、更に東に折れて、豊後の境に連つてゐる。地味最も沃饒である。



耶馬溪

彦山は豊後筑前の境に跨つて最も峻秀を極めてゐる。立石山馬城峯等は彦山の脈を受けて豊後の境を限つてゐる。國の中部には大岳岩岳山等の諸山が並び峙つてゐる。平峽野山は福智山に接してゐて山上に長さ一里半幅半里の高原がある。驛館川は諸水を合せて國の東部を過ぎ長洲浦に注ぐ。山國川は彦山の麓から出て周防灘に注ぐ。耶馬溪は此の川の上流にある谿谷であつて景色を以て名高い。

豊後は山脈が豊前及び肥後から來て國の中央に亘つてゐる。地勢峻險

で、地味は肥瘠相交つてゐる。

兩子山は國東半島に峙ち、鶴見山、由布岳は相並んで別府港の西北に聳えてゐる。大船山、黒岳、九重岳は國の西部に連つて、肥後の境に通つてゐる。東の東南部には四極山、靈山等があつて、日向の境には祖母岳が高く峙つてゐる。大野川は九重岳から出て諸水を合せ鶴崎に至つて海に入る。三隈川は諸水を合せて西岳に流れ、兩筑の間に至つて筑後川となる。

肥前は國の北境に山を負うてゐるが、筑後川の邊は土地平衍であつて、地味肥沃は九州第一である。

浮岳、三瀬山等は筑前の境に連り、領巾振山は唐津の東に峙ち、天山は其の東南に聳えてゐる。黒髮山は殆ど國の中部に、國見山は伊萬里灣に近く、温泉岳は島原半島に聳えてゐて噴火山である。筑後川は筑後の間から來て海に入る。川上川は北境から出て、南流して佐賀を過ぎ、筑紫海に注ぐ。其の西に多久川がある。此の外、松浦川は北流して唐津港に注ぎ、有田川は北流して伊萬里灣に注ぐ。

肥後は山岳が國內に重疊して、東南は最も險峻であるが、地味に肥えるゐる。

阿蘇山は有名の噴火山で、豊後に近く聳えてゐる。東北境に浦蓋山ウラガイがあつて豊後に跨り、鞍岳は阿蘇の西北にある。金峯山は熊本に近く、八方岳は北境に連り、三方國見等の諸山は阿蘇の南に互つてゐて、中央に至つて白山岳となる。市房、白髪等の諸山は日向の境に接して連つてゐる。球磨川は國の東南から出て、屈曲して西北に流れ八代港に注ぐ。有名の急流である。白川は豊後の境から出て、熊本を過ぎ西流して海に入る。緑川は三方山から出て、諸水を合せて西流し、白河の南に至つて海に入る。菊池川は北境から来て高瀬を経て海に注ぐ。

日向は山脈が肥後の間から國內に互つてゐるが、沿海には平地があつて、地味が肥えてゐる。

豊後の界に聳えてゐるのは祖母岳で、西南隅に秀でてゐるのは霧島山である。霧島山は有名の噴火山で、東霧島、西霧島の二峯に分れ、東霧島は古の高千穂峯であるといふ。夷守山、白鳥山は共に霧島の支脈で、左右に並んでゐる。法華岳は遙に其の東に峙ち、其の北に市房山がある。大淀川は肥後の境から来る野尻川、大隅から来る繩瀬川の合流で、東に赴いて綾川を合せ、

宮崎の南に至つて海に入る。一瀬川は、上流を米良川といひ、國の西境から出て諸水を合せ、東流して海に入る。美々津川は椎葉山から出て東南に流れて海に入る。五箇瀬川は肥後豊後の諸水を合せ、東流して延岡を過ぎて海に入る。

大隅には山岳が國中に連互してゐて、平地が少い。霧島山の脈が連つて瓶臺岳、白鹿山等となり、其の南に高隈山、垂水岳があつて、鹿兒島灣に臨んでゐる。北岳、國見岳、中岳等の連山は、志布志灣の沿岸から起つて西南に走つて佐多岬に達してゐる。肝付川は中岳から發して東流して志布志灣に注ぐ。

薩摩は山脈が東北から来て、國中に互つてゐる。地味は肥瘠相交つてゐる。

朝日岳は肥後に近く、峙ち、紫尾山ムラサキビが其の西南に聳えて、其の脈が海岸に走つてゐる。御岳は川内川の南にあつて冠岳、飯盛山と相鼎立してゐる。南部半島の中央に金峯山、母岳、開開岬に開開岳、野間岬に野間岳がある。川内川は、肥後の羽月川と大隅の眞幸川との合流で、西南に走つて、更に諸水を合せ、御岳の北を繞つて海に入る。此の川は河口より十二里の間舟楫の便利

壹岐

琉球

(152)

があつて九州第一の長流である。此の外北に廣瀬川、南に高瀬川などがあるが何れも小流である。壹岐は肥前の西北海上にあつて、周回卅五里、港灣相連つてゐて泊舟の便利がある。志原山は國の西南に峙つてゐて南岸に郷浦港がある。勝本は國中第一の名邑で北岸にある。對馬は壹岐の西北十二里の海上にあつて上島下島の二島から出來てゐる。兩島の間にある淺茅浦は水が深くて數百の大船を繋ぐことが出来る。浦は下隅の北隅にあつて朝鮮に對し、兩國往來の要津である。琉球は薩摩の西南百三十六里の海上から斷續散布してゐる群島であつて、其の主なるものを沖繩、宮古、石垣、入表の諸島とする。氣候熱で暖冬時にも雪を見ない。

沖繩島は群島中の最大なもので國頭、中頭、島尻の三部に分れる。國頭の北岸には大きな灣入があつて、此處に運天港がある。水が深くて繋船に宜しい。島尻の北岸にある那覇港は水が淺くて大船を容れることは出來ない。

湖水

瀑布

泉水

都會

福岡

(153)

國が狭いので高山も大河もない。本道の湖水は薩摩の池田湖が周回四里餘、筑前の鴨生田池が周回三里で其の他は何れも小さい。

瀑布は肥後の白水瀑が高さ四十二丈、肥前の清水瀑が高さ三十五丈で其の他に大きなものは少い。泉水は九州各國に何れも數ヶ所の噴出がある。其の内、肥前の武雄、豊後の別府は殊に名高いものである。

都會

筑前の福岡市は福岡縣廳の所在地で、博多灣に臨んでゐる。博多は今、福岡市の一部で、本邦開港場の一つである。博多織は此の地の名産である。人口六萬六千。

筑後の久留米市は歩兵第廿四旅團司令部の所在地で、筑後川に沿うてゐる。筑後屈指の都會である。久留米織を以て名高い。人口二萬九千。豊前の小倉市は小倉織を以て名高い所で、第十二師團司令部が置かれてゐる。人口二萬七千。中津町は山國川の口にあつて賑かな所である。



長崎附近 1/600000

豊後の大分町は木分縣廳の所在地で、大分川に臨んでゐる。此の地は中國の諸港と汽船の往復が盛で、市況も賑かである。人口一萬三千。

肥前の長崎市は彼杵半島の西南海灣にある一大良港で、外國貿易の盛大なることは本邦第三に位してゐる。此の地は長崎縣廳、控訴院、第五高等學校醫學部の所在地である上に、唐木細工、籠甲細工、縫箔、烟草等の名産があつて市況極めて繁盛である。人口十萬七千。佐賀市は佐賀縣廳の所在地で、亦此國の一都會である。人口三萬二千。



熊本城

物産

の名産である。琉球の那覇は沖繩島の南端なる島尻の西南に位してゐる港で、沖繩縣廳の所在地である。人口三萬五千。琉球総砂糖、泡盛酒等は、此の港から内地に向つて盛に輸出する。港内の水が浅いため、碇泊に不便であるけれども、沖繩縣下の要港であるゆゑに、大阪神戸から鹿兒島を経て、毎月數回の定期航海がある。首里は那覇の北一里餘の所に在る。此の處はもと琉球藩王の居城地であつて、今でも王都の古風が残つてゐる。人口二萬四千。



琉球の住民及植物

筑前に石炭、博多織、茶、紙、蠟等、筑後に石炭、織物、藍等、豊前に小倉織、硯石、生蠟等、豊後に木綿、生蠟、紙、麻、茶等、肥前に烟草、陶器、石炭、鯨、鰯、海參等、肥後に硫黄、麻、芋、藍、烟草、砂糖、蘭筵等、日向に烟草、木材、紙、生蠟、魚類等、大隅に烟草、甘薯、砂糖等、薩摩に烟草、陶器、燒酎、蘭筵、木綿、綿等、壹岐に鯨、鰯、海藻等、對馬に魚類、海藻、椎茸等、琉球に砂糖、上布、芭蕉布、綿、泡盛、鹽豚、鯨等、

第九 北海道

北海道は我が國の最北に在つて、東

南は太平洋に向ひ、南は津輕海峡を隔て、陸奥に對し、西は日本海に臨み、北は阿斯科科海に瀕し、西北の一角は宗谷海峡を夾んで樺太島に對してゐる。千島群島は遠く東北海上に連つて殆んど東察加に接してゐる。面積六千九百五十方里、人口八十三萬八千。本道を分つて渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室、千島の十一國とし、更に之を八十八郡に小別する。但し本道は札幌、函館、松前、檜山、壽都、岩内、小樽、空知、上川、増毛、宗谷、網走、室蘭、浦河、釧路、河西、根室、紗那の十八支廳で分轄してゐる故に、郡は行政區劃とは何等の關係もない。渡島(一區六郡) 函館區、爾志、茅部、龜田、上磯、松前、檜山、後志(十七郡) 小樽、高島、忍路、餘市、古平、美瑛、積丹、古宇、岩内、磯谷、歌棄、壽都、島牧、十勝、瀬棚、太樺、久遠、奥尻、石狩(三區九郡) 札幌區、濱益、厚田、樺戶、雨龍、上川、空知、夕張、石狩、札幌、天鹽(六郡) 天鹽、中川、上川、苫前、留萌、増毛、山見(八郡) 斜里、網走、常呂、紋別、枝幸、宗谷、禮文、利尻、膽振(八郡) 勇拂、千歲、白老、幌別、室蘭、有珠、山越、虻田、

日高(七郡) 幌泉(様似)浦河三石(静内)新冠(沙流)
 十勝(七郡) 河西河東上川中川十勝(當麻)廣尾
 釧路(六郡) 厚岸 上釧路白糖阿寒足寄
 根室(五郡) 目梨標津野附根室(花咲)
 千島(九郡) 國後(擇捉)紗那(振別)藥取色丹(得撫)新知(占守)
 本道は我が國中以最も寒く殊に千島の地方は海水が氷結して船舶の往來を絶つほどの寒さに達する南部の方は氣候が稍温和である。
 渡島の形は恰も魚尾の如く、恵山崎、白神崎の兩角が東西に突出して中に渡島灣がある。有名の函館は此の灣内にある良港である。福山も良港であつて白神崎の西に位してゐる。膽振には繪鞆岬が南に突出して渡島と相對して膽振灣をなしてゐる。室蘭は繪鞆岬にある良港である。岬以東は襟裳崎に至るまで、海岸が弓状をなしてゐる。十勝には一の岬角もない。釧路には釧路港があつて、其の東に厚崎港がある。根室には納沙布崎が東に出てゐて其の北に根室港があり、北見の知床崎に對して根室灣をなしてゐる。野附崎は此の灣の中央に突出して、千島の國後島と相望んでゐる。北見は阿哥斯科海に面



北海道のアイヌ人

して、百里の間、一の港泊もない。宗谷崎は樺太と相對して、其の北に宗谷港がある。天鹽、石狩、後志の三國は、日本海に臨んでゐて、沿岸には漁獵が盛である。天鹽には南隅に増毛港、石狩には石狩港、後志には小樽港がある。神威崎は西北に突出してゐて、遙に最西端の白糸岬と對し、内に一灣をなして、岩内港が其の中間にある。
 本道の山脈は、一は北から來て、天鹽、北見の境を限り、石狩、十勝の間から襟裳崎に達してゐる。又一脈は、根室、北見の間から西に走つて、後志、膽振の境を過ぎて、渡島に蟠つてゐる。故

河川は多く四方に分注して、地味は概ね肥沃であるが開墾されてない所が甚だ多い。

渡島の駒岳は膽振灣に臨んでゐる噴火山で、其の脈が東南に走つて恵山に連つてゐる。駒岳の西北に濁川山があり、其の北に遊樂部岳、千軒岳、知内岳等がある。落部川、有川等の諸川があるが、何れも細流である。

後志の後方羊蹄山は膽振の境に在つて、其の脈は西に走つて、黒松内岳、太平山等となる。高島山、余市山、天狗岳等は東北方に峙ち、雷電岳は西海に逼つて峙つてゐる。河の西流してゐるのは太櫓川、利別川、後志川等で北流するものは古平川、余市川等である。

石狩には東隅に石狩岳があり、日高十勝の境に近よつて夕張岳がある。札幌岳は後方羊蹄岳に連り、黄金山、阿曾岩岳は北に並んで天鹽の境に接し、其脈が海岸に達してゐる。石狩川は本邦第一の長流であつて、土人は之を西父川といふ。石狩、十勝の間から出て、深山幽谷の間を貫いて平野に出て、諸川を合せて石狩岳に注ぐ。夕張川は夕張岳から出て西に流れ、水路に數多の湖沼をつくつて、千歳川を合せて石狩川に入る。

天鹽の天鹽岳は東南隅に聳えて、其の脈は北に走つて北見の境を限つてゐる。羽幌山、幌尻川は石狩の境にある。天鹽川は十勝、石狩兩山の北方から出て北に流れて海に入る。留萌川は幌尻山から出て留萌港に入る。

北見の常呂岳は西南隅に峙つて天鹽山と相對してゐる。山脈は之から兩方に走つて、一は天鹽の境に互り、一は釧路根室の境を限つて、斜里岳、茶々岳等となる。常呂川は十勝岳から、網走川は釧路の阿寒岳から、斜里川は斜里岳から出て海に入る。

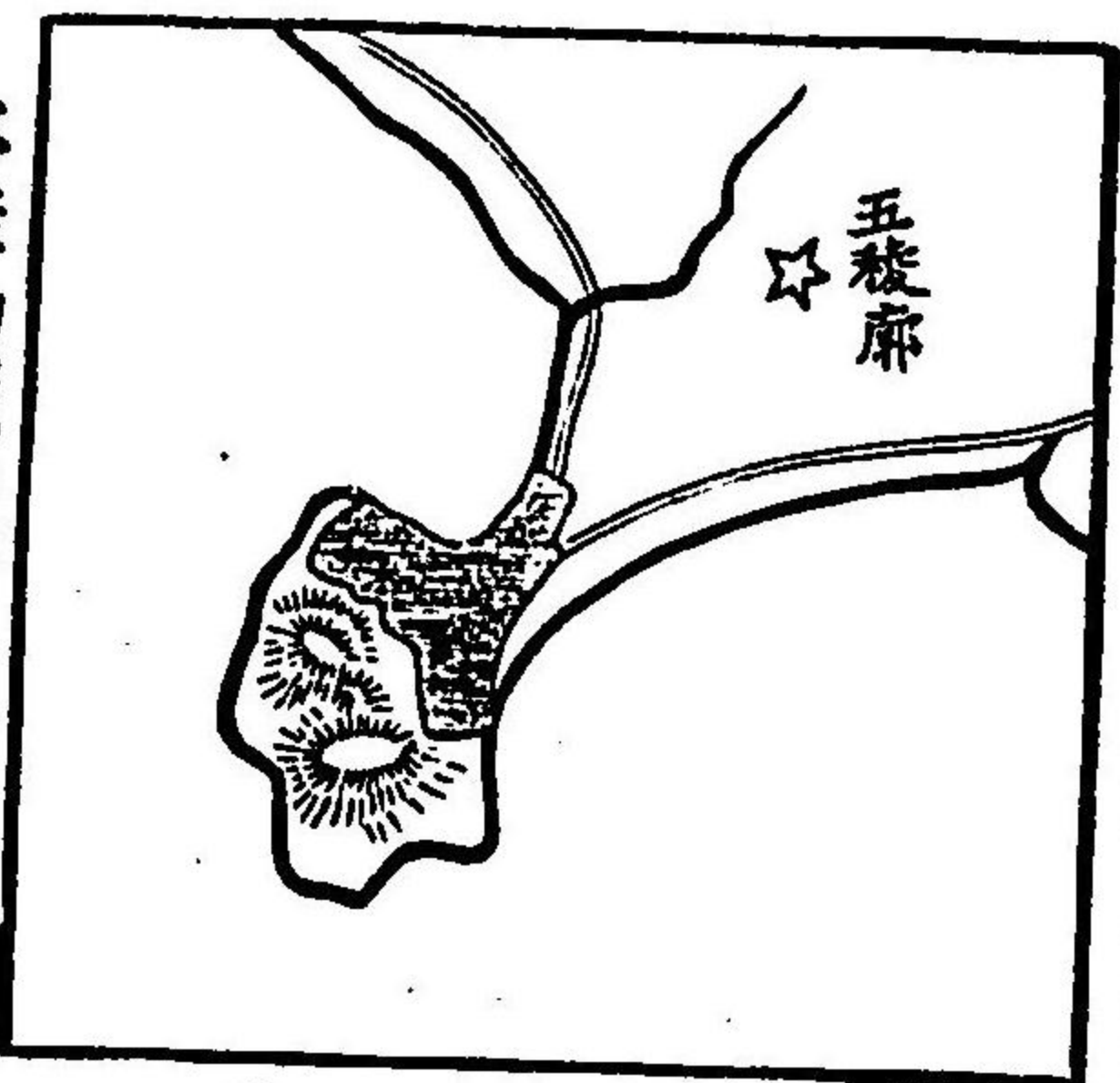
膽振の昆保山、有珠岳は後方羊蹄岳の南に峙ち、白老岳は札幌岳から延びて國の中央に聳え、紋別岳、千歳岳は其の東に並んでゐる。遊樂部川は遊樂部岳から出て、東流して膽振灣に入る。此の外に長流別川、白老川等がある。

日高には十勝の境に日高山脈が互つてゐて、神威岳、札内岳等は其の高峯である。川には沙流川、厚別川、新冠川等があつて、皆南流してゐるが、何れも犬きくない。

十勝には北隅にヌタブカウシベ山、十勝岳等があつて、石狩岳に對し、十勝岳の西南に竿呂岳があり、日高の境に神威岳、札内岳等がある。大津川は十勝

岳から出て、諸水を合せて海に入る。十勝川は其の一支流である。釧路北見の境に雄阿寒、雌阿寒の二岳が聳えて、雌阿寒岳からは常に硫烟を吐いてゐる。其の東に摩周山、西別岳等があつて、北見根室の境に走り、斜里岳に連つてゐる。釧路川は久壽里川、又、東、母川ともいふ源を釧路湖に發し、南流して諸水を合せ、釧路灣に注ぐ。阿寒川は阿寒湖から出て東南に流れ、釧路川に入る。後志、石狩、天鹽、十勝、釧路の五川を北海道の五大河といふ。根室には、北見の境に、標津岳、斜里岳、硫黄山等がある。西別川は西別岳から出て西別に至つて海に入る。標津川は標津岳から出て、屈曲して東に流れ、標津に至つて海に入る。

千島は我が國の最東北にある一連の群島で、其の数が大小合せて三十ばかりある。本地に最も近いのが國後島、次が擇捉島、次が得撫島である。國尻島は周回七十一里、島中に茶々登、辰丑岳等がある。川には大きなものはない。擇捉島は周回百五十三里、島中にモヨロ岳、チリツブ岳、ヒトカツブ岳等が連つてゐる。得撫島は、周回六十餘里、島中には山岳が連つてゐて多くは火山である。占守島は我が國の最北に位してゐて、久留里海峡を隔て、露領



函館 200000

カムチャツカ半島に對してゐる。

本道著名の湖水は、北見のサルマ湖(周回十八里)、根室の楓蓮湖(十五里)、膽振の洞爺湖(十里)、支笏湖(七里)、釧路の釧路湖、阿寒湖等である。

石狩澤は石狩山中にあつて高さ百五十丈、其の水が流れて石狩川の源となる。此の外に擇捉のラツキベツ澤、國後のソコボエ澤等がある。

平原の大きなものは天鹽川、石狩川、大津川の沿岸、北見釧路根室の海岸にある。此の中でも、石狩川の平原は最も廣く且つ地味が肥えてゐるために、開墾に従事する者が甚だ多い。

鑛泉は全道諸處にあるが、其の名の大に著はれてゐるものはない。

都會

渡島の函館區は本道第一の都會で、其の港は水が深くて大船を碇泊するに便利である。此の處は舊五港の一であつて盛に水産物、硫黄、石炭等を輸出する。人口七萬八千。其の東北の五稜郭は維新の



札

戦争によつて、其の名が著れてゐる。函館氷は其の外縁から出るものである。福山は、松前氏の舊城地で、松前といつた所である。人口今は一萬に満たない。

後志の小樽は本邦開港場の一であ

つて、鐵道によつて札幌に通じ、商

況甚だ盛である。人口五萬六千。

石狩の札幌區は北海道廳第七師團

幌

司令部、札幌農學校等の所在地で

鐵道は、小樽及び幌内炭坑に通じ

てゐて市街繁盛である。人口三萬

七千。

膽振の室蘭港は港内の水が深く、風

浪の憂もなく、且つ鐵道によつて、

物産

物産

夕張炭坑、札幌、小樽等に通じてゐて頗る大切な港であるが港内の狭いのは大缺點である。此處は本邦開港場の一つで、又第五海軍鎮守府の指定地である。

此の外、日高の浦河、十勝の天津、釧路の厚岸、根室の根室、北見の網走、天鹽の留萌等も本道の小都會である。

本道の物産は砂金、石炭、硫黃、石灰、昆布、鮭、鱈、鱒、鰻、鰯、鹿、林檎、大麻、馬鈴薯等である。

第十 臺灣

臺灣は我が國の最西南にある島で、臺灣本島、澎湖列島と數多の小島から成立つてゐる。此の島は昔、我が國人が高砂と呼んだ所で、久しく清國の領地となつてゐたが、明治二十七八年の戦役によつて、清國から我が國に割讓したものである。故に住民も内地人とは異なつて、支那人種が多數を占め、外に熟蕃、生蕃等の蕃人がある。

氣候

(166)



境界 北 支那 東 太
平洋

南 パシ―海峽 西 臺

臺灣面積 二千二百六十七方里
の人口 二百六十二萬

支 臺灣の行政區劃は、しばしば變更し
那 て、今では總督府の下に臺北、基隆、宜
人 蘭、深坑、桃仔園、新竹、苗栗、臺中、彰化、南
及 投、斗六、嘉義、鹽水港、臺南、蕃薯寮、鳳山
蕃 阿猴、恒春、臺東、澎湖の二十廳
人 を置いて、之を分管することになつ
た。

臺灣は北緯二十五度三十八分に始
つて、二十一度四十八分に終り、南部

沿革

(167)

は既に熱帯に入つてゐるので、氣候は酷熱である。
臺灣は地形が南北に長くて、兩端に突出し、其の直徑百餘里に達してゐるが、
東西は、中央の最も廣い所でも三十里に過ぎない。南端に南岬、南西岬の二岬
が突出して、其の間が深き灣入をなしてゐる。是れから東岸へ廻ると、沿岸
が殆んど全く絶壁で、海岸の屈曲も少いので、碇泊に便利の港はない。西海岸
は、全く東海岸に反して、沿岸がすべて遠淺である。東港、打狗港、安平港、鹿港、淡
水港等があるが、港内の水が淺くて大船を碇泊することは出来ない。只東北
隅の基隆港は、港内の水が深くて、大船を繋ぐことが出来るが、東北風を防ぐ
ことが出来ない。

地勢

澎湖列島は臺灣本島の西方海上にある群島であつて、島内に山なく、風が強
くて、喬木がない。此の列島の主なるものは澎湖、漁翁、白砂の三島であつて、相
對して一大海灣を抱いてゐる。灣内の水が深く、且つ風波が靜穩であるため
に、颶風の時に方つて、難を避けるには、屈強の所である。此の灣頭に馬公、媽宮
ともいふといふ港があつて、澎湖廳の所在地である。
臺灣には東海岸に接して、一萬尺内外の大山脈が南北に互つてゐるために、

東岸には殆ど平地がなく、西岸には平地が多い。川は此の山脈を分水嶺として、東西に分注してゐるが、東岸には細流のみで、西岸には稍々大きな河がある。紅頭嶼は南岬の東方凡そ四十里の海上にある小島である。此の住民は千餘人ほどあつて純然たるマレイ人種からなり、概ね裸體を常としてゐる。

臺灣の南北に互つてゐる山脈を玉山々脈といふ。畢祿山、新高山等は其の中的高峰であつて、新高山の如きは一萬二千八百五十尺に達して、其の高さは富士山を凌いでゐるといふことである。此の山は舊名を玉山といひ、西洋人はモリソン山と名づけてゐるが、我が國の領土となつてから新高山と名けたのである。

下淡水溪は新高山麓の諸水を集めて東南に流れ、東港の西に至つて海に入る。此の川は臺灣第一の大河であるが、之を内地の大河に較べると、小さいものである。此の外に、曾文溪、後埔溪、北港溪、羅水溪、淡水溪等の諸川がある。臺灣の諸川は、平時にはおしなべて水が乏しいが、一たび大雨あれば忽ち汎濫して沿岸に溢れるのが常である。

臺灣には人口一萬以上の市街は僅に九つである。其の地名を挙げると臺南



臺北

大稻埕、艋舺、鹿港、嘉義、新竹、宜蘭及び彰化である。今人口の多少に拘はらず著名の地を述べやう。

臺北府は、總督府、覆審法院等の所在地で、四方に山を繞らし、新店溪が其の傍を流れて且つ鐵道は北は基隆に通じ、南は新竹を経て新車に通じてゐる。府内は市街が賑かてあつて南に大稻埕を擁し、北に艋舺を控へてゐる。大稻埕は新店溪と大姑陷河との會流する所で水運の便があり、且つ製茶が盛に行はれて商況繁盛である。人口三萬三千。

淡水港は淡水溪の河口にある開

基隆

港場である。港口に砂洲があつて、満潮の時ではなければ大船を入れることが出来ない。茶、石炭、樟腦等を盛に輸出して、甚だ賑かである。基隆は東北部にある開港場で、港内の水が深く、大船を繋ぐことも出来て、臺灣屈指の良港であるが、港内狭きがうへに、東北風を遮るべき岬の突出がなく、且つ潮流の急であるのは、大缺點である。此の港の輸出品は主に石炭である。

臺中府は臺中廳の所在地で、市街は頗る廣大の規模を備へてゐるが、住民が少くして、商業も振はない。

鹿港は開港場の一つで、支那に渡る最近の要津であるために、此の附近の商業中心となつて、百貨輻輳し、支那船の出入の絶ゆる時はない。人口一萬八千。臺南府はもと臺灣府といつて、鄭成功が居を茲に定めてから、久しい間、本島の首府になつてゐて、今も臺南廳がおかれてゐる。此の地は南部商業の中心であつて、人口四萬五千。臺灣第一の都會である。府の西北に方つて安平といふ開港場がある。此處からは砂糖、樟腦等を盛に輸出するが、港内が浅いために、船舶は一里餘の海中に止まつて、竹筏にのせて貨物を運

臺南

産物

搬せねばならぬ不便がある。打狗も亦開港場の一つであるが、港内の浅いために、商況が振はない。

東港は下淡水溪に臨んでゐて、水運の便が多いため、米穀砂糖等が盛に、此の港から輸出される。東港の東南に恆春といふ所がある。これは本島最南の都邑で、人文が未だ開けない。

臺灣は氣候酷熱、地味肥沃で、農産物を出だすことが多く、米と甘藷とは一年に二回の收穫がある。製糖業は西南岸の地方が盛で、製茶業は北部に多い。樟腦は實に本島の一大富源であつて、主に東部の地方から産出する。島内には又鑛産も豊で、石炭、石油、硫黄、砂金が多く産出する。椰子樹、檳榔樹等の熱帯性植物が盛に繁茂してゐる。

明治三十五年十月四日印刷
明治三十五年十月七日發行

書文一致日本地理奧附
定價金二十錢

著者

富山房編輯所編纂

發行者

東京市神田區裏神保町九番地
合資會社 富山房

代表者

合資會社富山房社長
坂本嘉治馬

印刷者

東京日本橋區樂研堀町三十三番地
仁科衛

印刷所

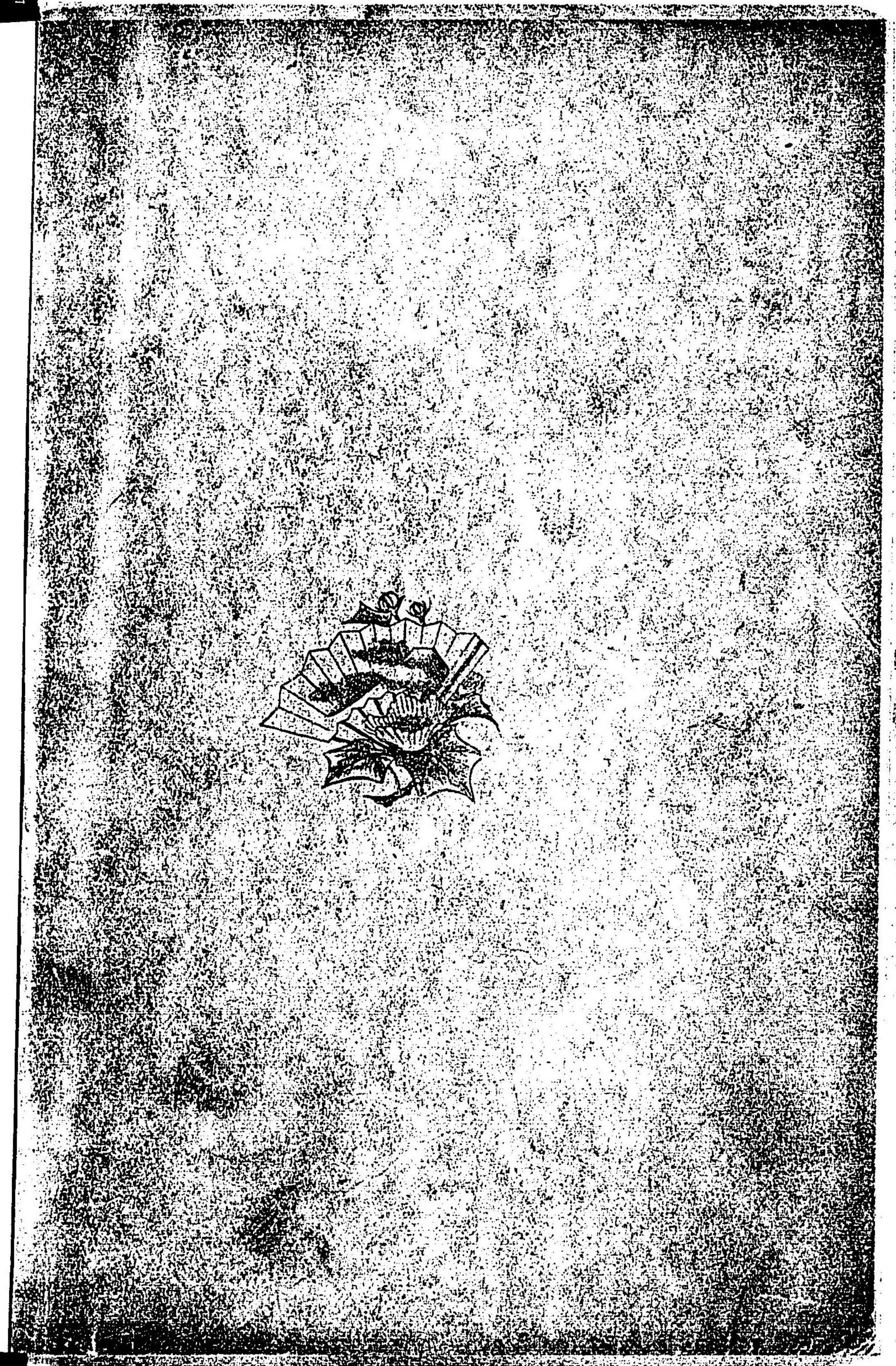
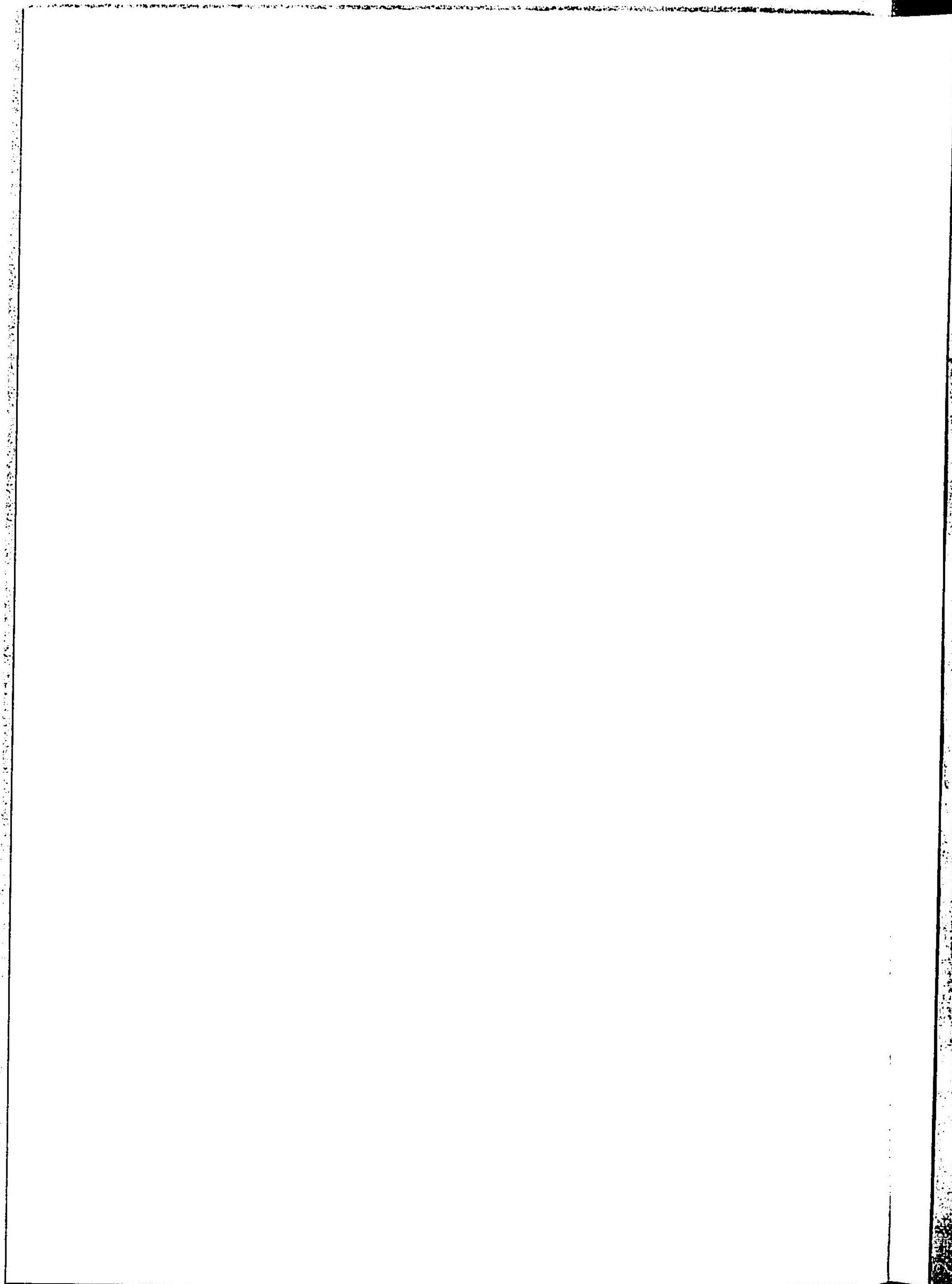
同所 厚信舍



發兌元

(明治廿九年六月設立) 合資會社 富山房
長距離(電話本局)電報號碼 ヤマフ
加入(一〇三六番)

(電話浪花一四六番)





1

特20
808

言
一致 日本地理

国立国会図書館

022965-000-7

特20-808

日本地理 (言文一致)

富山房編輯所 / 編

M35

ADB-0900

